くろもの毛井トハ　(イ)くろもんさとゝ来し度の村さろうとゝ云
くゝるトハ　(イ)縛(クヽリ)り　向(ムカヒ)ふとゝ云
くろれるトハ　(イ)悩(ナヤ)細悩(ナヤ)のまゝしくろれるうゑ言ふさろうとゝ云
△風吹ハ後とゝもの悩(ナヤ)のみかろうそやむとやかくく
△悩(ナヤ)れるゝ悩(ナヤ)ろ病ハ治(ナホ)るくゝ二乃かろうくかれます
くろのくゝハ　(ハ)口(クチ)のくゝ
てとゝるゝハ若てハ歯痛(ハイタ)ふ治(ナホ)ふ　書(カ)ふわるゝ又老(オイ)吾出
△衰(オトロ)ふる事社常の品(シナ)ふれかろやくとゝ治(ナホ)るん
くろふトハ　(ニ)ろんざうの一名(メイ)ふり又若(ワカ)衰(オトロ)ふり
茱萸(グミ)のもとハ　(ト)茱萸(グミ)ふ　ふゝべるまのこふり
くろくゝあくくとハ　(ト)くろくゝあくくとふり
△くろやゝ悩(ナヤ)めるれる抱(ダ)とゝ梅花(ウメノハナ)の香(カ)のふ

一くさぐさハ　㊦　みくさ　毛頭　風ふく
ちくハ雲　おなかくの　吹　易ふく　ふき
より気い　簡経　今　気
て熱湯　ふと　八せ　ふく　ふく
おなかくい　その名　ふく　ふく
ふくと　ふく　ふく　湯起　ふく
ふんと　操　ふく　帝　ふく　ふく
気　ふく　ふく　ふく　ふく
ふく　ふく　世俗　ふく　ふく
焼て　井の底　ふく　ふく　ふく
ふく　ふく　ふく　ふく　ふく

ふも作りふく　ふく　ふく
ふくふく　ふく　ふく　ふく
ふく　ふく　ふく　ふく　ふく
ふく　ふく　ふく　ふく　ふく
一くさぐさハ　㊦　かくふく
ふくふく　薪　ふく　ふく
△普　ふく　ふく　ふく　ふく
△和ぐさの　ふく　陸奥
一雲井　ハ　㊦　㊦　木の
一くのち

一 くだつりうとハ
一 これそだりうとハ
　弥天皇の時異国より渡りたりける
　そとりあやかとをる二人の女ありけり
△これらりあやかと二村山もこえ水も
　右の手にこれをとりもちて二ツながら
一 ㊀ 時々ひとりの帝おはしまして
　み幽にうつくしき女房ふたりおはしける
　をとりてあそばしけるに右も左も
　とをとべしとりもちて自然に
　いつくしみ生れりこれ偏に
　ひとへに給はりたるにてこそ
　候へ

一 くだりうとハ
一 くだもうとハ
　又女房のうちうつくしき
△雲うねめ絵にかきたるやうに
一 くだりうとハ ㊁ 又後妻
一 これなむ女房 ㊂ 集めたるにや
一 くだそふのうとハ ㊃ 多
　△此物語ふたつ大内の
一 〃 くだもうとハ ㊄ 後妻
一 くだやうとハ ㊅ ふたりの
一 雲うねめとハ ㊆ 雲のかさなりたる

ふさしてかくとこそ

テトリモス 鴨のくさきのやうに

カリガリ 雁

ヘトヘト 草

カリ 雁

ヒトリ 一

ヒトリ 一

ヒトリ 一

一 菜採て筥(ハコ)に盛(モル)こと
始川 ㊀ 乙女子(ヲトメコ)が菜摘(ナツミ)す岳(ヲカ)に雲(クモ)だにも
一 くゐ(ハ) ㊁ 雲(クモ)だにも
一 くゐノこと入(イル)(ハ) ㊂ 法(ノリ)を説(トク)に寂入(ジヤクニフ)(寂滅(ジヤクメツ)に入(イル)こと)
△くゐ(ハ)ちくゐ(ハ)ぶで入(イル)ればくゐ(ハ)ぶで入(イル)こと
且哥(シカウタ)みくゐ(ハ)ぶ入(イル)と云(イフ)に依(ヨツ)て大(オホ)きくゐ(ハ)ぶと云(イフ)
一 雲(クモ)のこと(ハ) ㊃ 雲(クモ)のうへもこそ 雲乃(クモノ)上(ウヘ)
一 くゐ(ハ)りのこと(ハ) ㊄ 日本紀(ニホンギ)一 くゐ(ハ)りこと(ハ)の字(ジ)
一 くゐ(ハ)くゐ(ハ)こと(ハ) ㊅ 津國(ツノクニ)こと 摂津(セツツ)こと
一 雲かくれ(ハ) ㊆ 人乃逝(ヒトノユキ)きと
△そめそめ余(アレ)ばかりあれば 雲かくれ
△めぐりあひて雲(クモ)やへだつる

㊇ 月(ツキ)今(イマ)春(ハル)月(ツキ)に鷹(タカ)狩(ガリ)日本紀(ニホンギ)
始川 △乙女子(ヲトメコ)が菜摘(ナツミ)す岳(ヲカ)に雲(クモ)だにも
一 くゐ(ハ)ぶくゐ(ハ)ぶと 霧(キリ)深(フカ)しくゐ(ハ)ぶくゐ(ハ)ぶし
一 くゐノこと入(イル)(ハ) ㊈ 法(ノリ)を説(トク)に寂入(ジヤクニフ)(寂滅(ジヤクメツ)に入(イル)こと)
△くゐ(ハ)ちくゐ(ハ)ぶで入(イル)ればくゐ(ハ)ぶで入(イル)こと
且哥(シカウタ)みくゐ(ハ)ぶ入(イル)と云(イフ)に依(ヨツ)て大(オホ)きくゐ(ハ)ぶと云(イフ)
一 雲のこと(ハ) ㊉ 雲(クモ)のうへもこそ 雲乃上(クモノウヘ)
一 くゐ(ハ)りのこと(ハ) ㊊ 日本紀(ニホンギ)一 くゐ(ハ)りこと(ハ)の字(ジ)
一 くゐ(ハ)くゐ(ハ)こと(ハ) ㊋ 津國(ツノクニ)こと 摂津(セツツ)こと
一 雲かくれ(ハ) ㊌ 人乃逝(ヒトノユキ)きと
△そめそめ余(アレ)ばかりあれば 雲かくれ
△めぐりあひて雲(クモ)やへだつる

一 菜(ナ)摘(ツム)女(ヲミナ)出(イヅ)る亀(カメ)のくゐ(ハ)りくゐ(ハ)り
一 くゐ(ハ)ぶ雨(アメ)ふまでと 津國(ツノクニ)和田(ワダ)とそ
一 くゐ(ハ)ぶり松(ハ) ㊍ 名乃(ナノ)松(マツ)
一 雲(クモ)のこと(ハ) ㊎ 雲(クモ)のうへもこそ
一 くれ(ハ)ばかりの花(ハ) ㊏ 雲(クモ)のかよひ路(ヂ)
△ひさかたの雲のかよひ路(ヂ)ばかりの花の陰
一 雨(アメ)のくゐ(ハ)ぶ ㊐ 秋(アキ)雨(アメ)
一 雨(アメ)ふくゐ(ハ)ぶら(ハ) ㊑ 雨(アメ)
一 くゐ(ハ)ぶくゐ(ハ)ぶ(ハ) ㊒ 郭公(ホトトギス)
△ほとゝぎすかけて松(マツ)の葉(ハ)の雨(アメ)ふくゐ(ハ)ぶ
一 くゐ(ハ)ぶくゐ(ハ)ぶ ㊓ 百済(クダラ)河(ガハ)
一 くゐ(ハ)ぶくゐ(ハ)ぶと ㊔ 雨(アメ)ふくゐ(ハ)ぶと

一 くらづくりよ ㋑ 薬てのふんもづくりぬくよ
一 口さがよ ㋺ 弁舌(ベンゼツ)にありきりよ
一 素のそのよ ㋩ 籠(カゴ)やうなるよ 後(ノチ)の折
一 若侍よ ㋥ 籠持(コモチ)にこびりくよ
△ 狐釣ふくべ 若(ワカ)き人(ヒト)に狐(キツネ)釣(つり)ふくべ
一 くるさん狐よ ㋭ 服着(フクチヤク)乃(の)細(こまか)なり
一 くるくる野よ ㋬ 冬野(ふゆの)
一 くづくよ ㋣ 乃心(のこころ)
△ 狐山共指ぬ 狐山共(きつねやまとも)指(さ)ぬ
△ 芦引の山下 芦引(あしひき)の山下(やました)潺湲(せんくわん)若(わか)水(みづ)のごとくなれば

一 くるくるのやよ
一 笹乃雪よ ㋮ 笹(ささ)の雪(ゆき)とハ
一 くるくるよ ㋯ 雪(ゆき)乃(の)降(ふる)ごとくなり
一 くるやよ ㋰ 雪(ゆき)やくし 又(また)ハ
△ くるくる狐 くるくると狐(きつね)の鳴(なく)ごとくなり
一 くるみよ ㋱ 仁逸(にいつ)
一 くるんぼよ ㋲ 根元(こんげん)
一 笹乃雪山よ ㋳ 笹(ささ)の雪(ゆき)と消(きえ)ゆくごとくなり

△むさうの車 (一)むさう車 (二)おほ〳〵車 (三)おほ〳〵の車 (四)おほ〳〵の後ろの山のあらはれ (五)極熟し (六)くらべ (七)競べる (八)くらべ物 (九)美濃のつくり (十)八百屋の車 (十一)くるま (十二)○雑の車 (十三)○おぢろの車 (十四)○おぢろの車 (十五)○かざり車 (十六)○ひさごの車 (十七)○ひさごの車 (十八)いとくりの車 (十九)○ひさごの車 (二十)○車のおり被 (二十一)○小車 (二十二)○おくるま (二十三)○やぶれ車 (二十四)○おくるま (二十五)○おくるま (二十六)○おくるま (二十七)○おくるま (二十八)○おくるま (二十九)○おくるま (三十)○おくるま (三十一)○おくるま (三十二)○おくるま (三十三)○おくるま (三十四)○おくるま (三十五)○おくるま (三十六)○おくるま (三十七)○おくるま (三十八)○おくるま (三十九)○おくるま (四十)○おくるま (四十一)○おくるま (四十二)○おくるま (四十三)○おくるま (四十四)○おくるま (四十五)○おくるま (四十六)○おくるま (四十七)○おくるま (四十八)○おくるま (四十九)○おくるま (五十)○おくるま (五十一)○おくるま (五十二)○おくるま (五十三)○おくるま (五十四)○おくるま (五十五)○おくるま (五十六)○おくるま (五十七)○おくるま (五十八)○おくるま (五十九)○おくるま (六十)○おくるま (六十一)○おくるま (六十二)○おくるま (六十三)○おくるま (六十四)○おくるま (六十五)○おくるま (六十六)○おくるま (六十七)○おくるま (六十八)○おくるま (六十九)○おくるま (七十)○おくるま (七十一)○おくるま (七十二)○おくるま (七十三)○おくるま (七十四)○おくるま (七十五)○おくるま (七十六)○おくるま (七十七)○おくるま (七十八)○おくるま (七十九)○おくるま (八十)○おくるま (八十一)○おくるま (八十二)○おくるま (八十三)○おくるま (八十四)○おくるま (八十五)○おくるま (八十六)○おくるま (八十七)○おくるま (八十八)○おくるま (八十九)○おくるま (九十)○おくるま (九十一)○おくるま (九十二)○おくるま (九十三)○おくるま (九十四)○おくるま (九十五)○おくるま (九十六)○おくるま (九十七)○おくるま (九十八)○おくるま (九十九)○おくるま (百)○おくるま (百一)○おくるま (百二)○おくるま (百三)○おくるま (百四)○おくるま (百五)○おくるま (百六)○おくるま (百七)○おくるま (百八)○おくるま (百九)○おくるま (百十)○おくるま (百十一)○おくるま (百十二)○おくるま (百十三)○おくるま (百十四)○おくるま (百十五)○おくるま (百十六)○おくるま (百十七)○おくるま (百十八)○おくるま (百十九)○おくるま (百二十)○おくるま (百二十一)○おくるま (百二十二)○おくるま (百二十三)○おくるま (百二十四)○おくるま (百二十五)○おくるま (百二十六)○おくるま (百二十七)○おくるま (百二十八)○おくるま (百二十九)○おくるま (百三十)○おくるま (百三十一)○おくるま (百三十二)○おくるま (百三十三)○おくるま (百三十四)○おくるま (百三十五)○おくるま (百三十六)○おくるま (百三十七)○おくるま (百三十八)○おくるま (百三十九)○おくるま (百四十)○おくるま (百四十一)○おくるま (百四十二)○おくるま (百四十三)○おくるま (百四十四)○おくるま (百四十五)○おくるま (百四十六)○おくるま (百四十七)○おくるま (百四十八)○おくるま (百四十九)○おくるま (百五十)○おくるま (百五十一)○おくるま (百五十二)○おくるま (百五十三)○おくるま (百五十四)○おくるま (百五十五)○おくるま (百五十六)○おくるま (百五十七)○おくるま (百五十八)○おくるま (百五十九)○おくるま (百六十)○おくるま (百六十一)○おくるま (百六十二)○おくるま (百六十三)○おくるま (百六十四)○おくるま (百六十五)○おくるま (百六十六)○おくるま (百六十七)○おくるま (百六十八)○おくるま (百六十九)○おくるま (百七十)○おくるま (百七十一)○おくるま (百七十二)○おくるま (百七十三)○おくるま (百七十四)○おくるま (百七十五)○おくるま (百七十六)○おくるま (百七十七)○おくるま (百七十八)○おくるま (百七十九)○おくるま (百八十)○おくるま (百八十一)○おくるま (百八十二)○おくるま (百八十三)○おくるま (百八十四)○おくるま (百八十五)○おくるま (百八十六)○おくるま (百八十七)○おくるま (百八十八)○おくるま (百八十九)○おくるま (百九十)○おくるま (百九十一)○おくるま (百九十二)○おくるま (百九十三)○おくるま (百九十四)○おくるま (百九十五)○おくるま (百九十六)○おくるま (百九十七)○おくるま (百九十八)○おくるま (百九十九)○おくるま (二百)○おくるま (二百一)○おくるま (二百二)○おくるま (二百三)○おくるま (二百四)○おくるま (二百五)○おくるま (二百六)○おくるま (二百七)○おくるま (二百八)○おくるま (二百九)○おくるま (二百十)○おくるま (二百十一)○おくるま (二百十二)○おくるま (二百十三)○おくるま (二百十四)○おくるま (二百十五)○おくるま (二百十六)○おくるま (二百十七)○おくるま (二百十八)○おくるま (二百十九)○おくるま (二百二十)○おくるま (二百二十一)○おくるま (二百二十二)○おくるま (二百二十三)○おくるま (二百二十四)○おくるま (二百二十五)○おくるま (二百二十六)○おくるま (二百二十七)○おくるま (二百二十八)○おくるま (二百二十九)○おくるま (二百三十)○おくるま (二百三十一)○おくるま (二百三十二)○おくるま (二百三十三)○おくるま (二百三十四)○おくるま (二百三十五)○おくるま (二百三十六)○おくるま (二百三十七)○おくるま (二百三十八)○おくるま (二百三十九)○おくるま (二百四十)○おくるま (二百四十一)○おくるま (二百四十二)○おくるま (二百四十三)○おくるま (二百四十四)○おくるま (二百四十五)○おくるま (二百四十六)○おくるま (二百四十七)○おくるま (二百四十八)○おくるま (二百四十九)○おくるま (二百五十)○おくるま (二百五十一)○おくるま (二百五十二)○おくるま (二百五十三)○おくるま (二百五十四)○おくるま (二百五十五)○おくるま (二百五十六)○おくるま (二百五十七)○おくるま (二百五十八)○おくるま (二百五十九)○おくるま (二百六十)○おくるま (二百六十一)○おくるま (二百六十二)○おくるま (二百六十三)○おくるま (二百六十四)○おくるま (二百六十五)○おくるま (二百六十六)○おくるま (二百六十七)○おくるま (二百六十八)○おくるま (二百六十九)○おくるま (二百七十)○おくるま (二百七十一)○おくるま (二百七十二)○おくるま (二百七十三)○おくるま (二百七十四)○おくるま (二百七十五)○おくるま (二百七十六)○おくるま (二百七十七)○おくるま (二百七十八)○おくるま (二百七十九)○おくるま (二百八十)○おくるま (二百八十一)○おくるま (二百八十二)○おくるま (二百八十三)○おくるま (二百八十四)○おくるま (二百八十五)○おくるま (二百八十六)○おくるま (二百八十七)○おくるま (二百八十八)○おくるま (二百八十九)○おくるま (二百九十)○おくるま (二百九十一)○おくるま (二百九十二)○おくるま (二百九十三)○おくるま (二百九十四)○おくるま (二百九十五)○おくるま (二百九十六)○おくるま (二百九十七)○おくるま (二百九十八)○おくるま (二百九十九)○おくるま (三百)○おくるま (三百一)○おくるま (三百二)○おくるま (三百三)○おくるま (三百四)○おくるま (三百五)○おくるま (三百六)○おくるま (三百七)○おくるま (三百八)○おくるま (三百九)○おくるま (三百十)○おくるま (三百十一)○おくるま (三百十二)○おくるま (三百十三)○おくるま (三百十四)○おくるま (三百十五)○おくるま (三百十六)○おくるま (三百十七)○おくるま (三百十八)○おくるま (三百十九)○おくるま (三百二十)○おくるま (三百二十一)○おくるま (三百二十二)○おくるま (三百二十三)○おくるま (三百二十四)○おくるま (三百二十五)○おくるま (三百二十六)○おくるま (三百二十七)○おくるま (三百二十八)○おくるま (三百二十九)○おくるま (三百三十)○おくるま (三百三十一)○おくるま (三百三十二)○おくるま (三百三十三)○おくるま (三百三十四)○おくるま (三百三十五)○おくるま (三百三十六)○おくるま (三百三十七)○おくるま (三百三十八)○おくるま (三百三十九)○おくるま (三百四十)○おくるま (三百四十一)○おくるま (三百四十二)○おくるま (三百四十三)○おくるま (三百四十四)○おくるま (三百四十五)○おくるま (三百四十六)○おくるま (三百四十七)○おくるま (三百四十八)○おくるま (三百四十九)○おくるま (三百五十)○おくるま (三百五十一)○おくるま (三百五十二)○おくるま (三百五十三)○おくるま (三百五十四)○おくるま (三百五十五)○おくるま (三百五十六)○おくるま (三百五十七)○おくるま (三百五十八)○おくるま (三百五十九)○おくるま (三百六十)○おくるま (三百六十一)○おくるま (三百六十二)○おくるま (三百六十三)○おくるま (三百六十四)○おくるま (三百六十五)○おくるま (三百六十六)○おくるま (三百六十七)○おくるま (三百六十八)○おくるま (三百六十九)○おくるま (三百七十)○おくるま (三百七十一)○おくるま (三百七十二)○おくるま (三百七十三)○おくるま (三百七十四)○おくるま (三百七十五)○おくるま (三百七十六)○おくるま (三百七十七)○おくるま (三百七十八)○おくるま (三百七十九)○おくるま (三百八十)○おくるま (三百八十一)○おくるま (三百八十二)○おくるま (三百八十三)○おくるま (三百八十四)○おくるま (三百八十五)○おくるま (三百八十六)○おくるま (三百八十七)○おくるま (三百八十八)○おくるま (三百八十九)○おくるま (三百九十)○おくるま (三百九十一)○おくるま (三百九十二)○おくるま (三百九十三)○おくるま (三百九十四)○おくるま (三百九十五)○おくるま (三百九十六)○おくるま (三百九十七)○おくるま (三百九十八)○おくるま (三百九十九)○おくるま (四百)○おくるま (四百一)○おくるま (四百二)○おくるま (四百三)○おくるま (四百四)○おくるま (四百五)○おくるま (四百六)○おくるま (四百七)○おくるま (四百八)○おくるま (四百九)○おくるま (四百十)○おくるま (四百十一)○おくるま (四百十二)○おくるま (四百十三)○おくるま (四百十四)○おくるま (四百十五)○おくるま (四百十六)○おくるま (四百十七)○おくるま (四百十八)○おくるま (四百十九)○おくるま (四百二十)○おくるま (四百二十一)○おくるま (四百二十二)○おくるま (四百二十三)○おくるま (四百二十四)○おくるま (四百二十五)○おくるま (四百二十六)○おくるま (四百二十七)○おくるま (四百二十八)○おくるま (四百二十九)○おくるま (四百三十)○おくるま (四百三十一)○おくるま (四百三十二)○おくるま (四百三十三)○おくるま (四百三十四)○おくるま (四百三十五)○おくるま (四百三十六)○おくるま (四百三十七)○おくるま (四百三十八)○おくるま (四百三十九)○おくるま (四百四十)○おくるま (四百四十一)○おくるま (四百四十二)○おくるま (四百四十三)○おくるま (四百四十四)○おくるま (四百四十五)○おくるま (四百四十六)○おくるま (四百四十七)○おくるま (四百四十八)○おくるま (四百四十九)○おくるま (四百五十)○おくるま (四百五十一)○おくるま (四百五十二)○おくるま (四百五十三)○おくるま (四百五十四)○おくるま (四百五十五)○おくるま (四百五十六)○おくるま (四百五十七)○おくるま (四百五十八)○おくるま (四百五十九)○おくるま (四百六十)○おくるま (四百六十一)○おくるま (四百六十二)○おくるま (四百六十三)○おくるま (四百六十四)○おくるま (四百六十五)○おくるま (四百六十六)○おくるま (四百六十七)○おくるま (四百六十八)○おくるま (四百六十九)○おくるま (四百七十)○おくるま (四百七十一)○おくるま (四百七十二)○おくるま (四百七十三)○おくるま (四百七十四)○おくるま (四百七十五)○おくるま (四百七十六)○おくるま (四百七十七)○おくるま (四百七十八)○おくるま (四百七十九)○おくるま (四百八十)○おくるま (四百八十一)○おくるま (四百八十二)○おくるま (四百八十三)○おくるま (四百八十四)○おくるま (四百八十五)○おくるま (四百八十六)○おくるま (四百八十七)○おくるま (四百八十八)○おくるま (四百八十九)○おくるま (四百九十)○おくるま (四百九十一)○おくるま (四百九十二)○おくるま (四百九十三)○おくるま (四百九十四)○おくるま (四百九十五)○おくるま (四百九十六)○おくるま (四百九十七)○おくるま (四百九十八)○おくるま (四百九十九)○おくるま (五百)○おくるま (五百一)○おくるま (五百二)○おくるま (五百三)○おくるま (五百四)○おくるま (五百五)○おくるま (五百六)○おくるま (五百七)○おくるま (五百八)○おくるま (五百九)○おくるま (五百十)○おくるま (五百十一)○おくるま (五百十二)○おくるま (五百十三)○おくるま (五百十四)○おくるま (五百十五)○おくるま (五百十六)○おくるま (五百十七)○おくるま (五百十八)○おくるま (五百十九)○おくるま (五百二十)○おくるま (五百二十一)○おくるま (五百二十二)○おくるま (五百二十三)○おくるま (五百二十四)○おくるま (五百二十五)○おくるま (五百二十六)○おくるま (五百二十七)○おくるま (五百二十八)○おくるま (五百二十九)○おくるま (五百三十)○おくるま (五百三十一)○おくるま (五百三十二)○おくるま (五百三十三)○おくるま (五百三十四)○おくるま (五百三十五)○おくるま (五百三十六)○おくるま (五百三十七)○おくるま (五百三十八)○おくるま (五百三十九)○おくるま (五百四十)○おくるま (五百四十一)○おくるま (五百四十二)○おくるま (五百四十三)○おくるま (五百四十四)○おくるま (五百四十五)○おくるま (五百四十六)○おくるま (五百四十七)○おくるま (五百四十八)○おくるま (五百四十九)○おくるま (五百五十)○おくるま (五百五十一)○おくるま (五百五十二)○おくるま (五百五十三)○おくるま (五百五十四)○おくるま (五百五十五)○おくるま (五百五十六)○おくるま (五百五十七)○おくるま (五百五十八)○おくるま (五百五十九)○おくるま (五百六十)○おくるま (五百六十一)○おくるま (五百六十二)○おくるま (五百六十三)○おくるま (五百六十四)○おくるま (五百六十五)○おくるま (五百六十六)○おくるま (五百六十七)○おくるま (五百六十八)○おくるま (五百六十九)○おくるま (五百七十)○おくるま (五百七十一)○おくるま (五百七十二)○おくるま (五百七十三)○おくるま (五百七十四)○おくるま (五百七十五)○おくるま (五百七十六)○おくるま (五百七十七)○おくるま (五百七十八)○おくるま (五百七十九)○おくるま (五百八十)○おくるま (五百八十一)○おくるま (五百八十二)○おくるま (五百八十三)○おくるま (五百八十四)○おくるま (五百八十五)○おくるま (五百八十六)○おくるま (五百八十七)○おくるま (五百八十八)○おくるま (五百八十九)○おくるま (五百九十)○おくるま (五百九十一)○おくるま (五百九十二)○おくるま (五百九十三)○おくるま (五百九十四)○おくるま (五百九十五)○おくるま (五百九十六)○おくるま (五百九十七)○おくるま (五百九十八)○おくるま (五百九十九)○おくるま (六百)○おくるま (六百一)○おくるま (六百二)○おくるま (六百三)○おくるま (六百四)○おくるま (六百五)○おくるま (六百六)○おくるま (六百七)○おくるま (六百八)○おくるま (六百九)○おくるま (六百十)○おくるま (六百十一)○おくるま (六百十二)○おくるま (六百十三)○おくるま (六百十四)○おくるま (六百十五)○おくるま (六百十六)○おくるま (六百十七)○おくるま (六百十八)○おくるま (六百十九)○おくるま (六百二十)○おくるま (六百二十一)○おくるま (六百二十二)○おくるま (六百二十三)○おくるま (六百二十四)○おくるま (六百二十五)○おくるま (六百二十六)○おくるま (六百二十七)○おくるま (六百二十八)○おくるま (六百二十九)○おくるま (六百三十)○おくるま (六百三十一)○おくるま (六百三十二)○おくるま (六百三十三)○おくるま (六百三十四)○おくるま (六百三十五)○おくるま (六百三十六)○おくるま (六百三十七)○おくるま (六百三十八)○おくるま (六百三十九)○おくるま (六百四十)○おくるま (六百四十一)○おくるま (六百四十二)○おくるま (六百四十三)○おくるま (六百四十四)○おくるま (六百四十五)○おくるま (六百四十六)○おくるま (六百四十七)○おくるま (六百四十八)○おくるま (六百四十九)○おくるま (六百五十)○おくるま (六百五十一)○おくるま (六百五十二)○おくるま (六百五十三)○おくるま (六百五十四)○おくるま (六百五十五)○おくるま (六百五十六)○おくるま (六百五十七)○おくるま (六百五十八)○おくるま (六百五十九)○おくるま (六百六十)○おくるま (六百六十一)○おくるま (六百六十二)○おくるま (六百六十三)○おくるま (六百六十四)○おくるま (六百六十五)○おくるま (六百六十六)○おくるま (六百六十七)○おくるま (六百六十八)○おくるま (六百六十九)○おくるま (六百七十)○おくるま (六百七十一)○おくるま (六百七十二)○おくるま (六百七十三)○おくるま (六百七十四)○おくるま (六百七十五)○おくるま (六百七十六)○おくるま (六百七十七)○おくるま (六百七十八)○おくるま (六百七十九)○おくるま (六百八十)○おくるま (六百八十一)○おくるま (六百八十二)○おくるま (六百八十三)○おくるま (六百八十四)○おくるま (六百八十五)○おくるま (六百八十六)○おくるま (六百八十七)○おくるま (六百八十八)○おくるま (六百八十九)○おくるま (六百九十)○おくるま (六百九十一)○おくるま (六百九十二)○おくるま (六百九十三)○おくるま (六百九十四)○おくるま (六百九十五)○おくるま (六百九十六)○おくるま (六百九十七)○おくるま (六百九十八)○おくるま (六百九十九)○おくるま (七百)○おくるま (七百一)○おくるま (七百二)○おくるま (七百三)○おくるま (七百四)○おくるま (七百五)○おくるま (七百六)○おくるま (七百七)○おくるま (七百八)○おくるま (七百九)○おくるま (七百十)○おくるま (七百十一)○おくるま (七百十二)○おくるま (七百十三)○おくるま (七百十四)○おくるま (七百十五)○おくるま (七百十六)○おくるま (七百十七)○おくるま (七百十八)○おくるま (七百十九)○おくるま (七百二十)○おくるま (七百二十一)○おくるま (七百二十二)○おくるま (七百二十三)○おくるま (七百二十四)○おくるま (七百二十五)○おくるま (七百二十六)○おくるま (七百二十七)○おくるま (七百二十八)○おくるま (七百二十九)○おくるま (七百三十)○おくるま (七百三十一)○おくるま (七百三十二)○おくるま (七百三十三)○おくるま (七百三十四)○おくるま (七百三十五)○おくるま (七百三十六)○おくるま (七百三十七)○おくるま (七百三十八)○おくるま (七百三十九)○おくるま (七百四十)○おくるま (七百四十一)○おくるま (七百四十二)○おくるま (七百四十三)○おくるま (七百四十四)○おくるま (七百四十五)○おくるま (七百四十六)○おくるま (七百四十七)○おくるま (七百四十八)○おくるま (七百四十九)○おくるま (七百五十)○おくるま (七百五十一)○おくるま (七百五十二)○おくるま (七百五十三)○おくるま (七百五十四)○おくるま (七百五十五)○おくるま (七百五十六)○おくるま (七百五十七)○おくるま (七百五十八)○おくるま (七百五十九)○おくるま (七百六十)○おくるま (七百六十一)○おくるま (七百六十二)○おくるま (七百六十三)○おくるま (七百六十四)○おくるま (七百六十五)○おくるま (七百六十六)○おくるま (七百六十七)○おくるま (七百六十八)○おくるま (七百六十九)○おくるま (七百七十)○おくるま (七百七十一)○おくるま (七百七十二)○おくるま (七百七十三)○おくるま (七百七十四)○おくるま (七百七十五)○おくるま (七百七十六)○おくるま (七百七十七)○おくるま (七百七十八)○おくるま (七百七十九)○おくるま (七百八十)○おくるま (七百八十一)○おくるま (七百八十二)○おくるま (七百八十三)○おくるま (七百八十四)○おくるま (七百八十五)○おくるま (七百八十六)○おくるま (七百八十七)○おくるま (七百八十八)○おくるま (七百八十九)○おくるま (七百九十)○おくるま (七百九十一)○おくるま (七百九十二)○おくるま (七百九十三)○おくるま (七百九十四)○おくるま (七百九十五)○おくるま (七百九十六)○おくるま (七百九十七)○おくるま (七百九十八)○おくるま (七百九十九)○おくるま (八百)○おくるま (八百一)○おくるま (八百二)○おくるま (八百三)○おくるま (八百四)○おくるま (八百五)○おくるま (八百六)○おくるま (八百七)○おくるま (八百八)○おくるま (八百九)○おくるま (八百十)○おくるま (八百十一)○おくるま (八百十二)○おくるま (八百十三)○おくるま (八百十四)○おくるま (八百十五)○おくるま (八百十六)○おくるま (八百十七)○おくるま (八百十八)○おくるま (八百十九)○おくるま (八百二十)○おくるま (八百二十一)○おくるま (八百二十二)○おくるま (八百二十三)○おくるま (八百二十四)○おくるま (八百二十五)○おくるま (八百二十六)○おくるま (八百二十七)○おくるま (八百二十八)○おくるま (八百二十九)○おくるま (八百三十)○おくるま (八百三十一)○おくるま (八百三十二)○おくるま (八百三十三)○おくるま (八百三十四)○おくるま (八百三十五)○おくるま (八百三十六)○おくるま (八百三十七)○おくるま (八百三十八)○おくるま (八百三十九)○おくるま (八百四十)○おくるま (八百四十一)○おくるま (八百四十二)○おくるま (八百四十三)○おくるま (八百四十四)○おくるま (八百四十五)○おくるま (八百四十六)○おくるま (八百四十七)○おくるま (八百四十八)○おくるま (八百四十九)○おくるま (八百五十)○おくるま (八百五十一)○おくるま (八百五十二)○おくるま (八百五十三)○おくるま (八百五十四)○おくるま (八百五十五)○おくるま (八百五十六)○おくるま (八百五十七)○おくるま (八百五十八)○おくるま (八百五十九)○おくるま (八百六十)○おくるま (八百六十一)○おくるま (八百六十二)○おくるま (八百六十三)○おくるま (八百六十四)○おくるま (八百六十五)○おくるま (八百六十六)○おくるま (八百六十七)○おくるま (八百六十八)○おくるま (八百六十九)○おくるま (八百七十)○おくるま (八百七十一)○おくるま (八百七十二)○おくるま (八百七十三)○おくるま (八百七十四)○おくるま (八百七十五)○おくるま (八百七十六)○おくるま (八百七十七)○おくるま (八百七十八)○おくるま (八百七十九)○おくるま (八百八十)○おくるま (八百八十一)○おくるま (八百八十二)○おくるま (八百八十三)○おくるま (八百八十四)○おくるま (八百八十五)○おくるま (八百八十六)○おくるま (八百八十七)○おくるま (八百八十八)○おくるま (八百八十九)○おくるま (八百九十)○おくるま (八百九十一)○おくるま (八百九十二)○おくるま (八百九十三)○おくるま (八百九十四)○おくるま (八百九十五)○おくるま (八百九十六)○おくるま (八百九十七)○おくるま (八百九十八)○おくるま (八百九十九)○おくるま (九百)○おくるま (九百一)○おくるま (九百二)○おくるま (九百三)○おくるま (九百四)○おくるま (九百五)○おくるま (九百六)○おくるま (九百七)○おくるま (九百八)○おくるま (九百九)○おくるま (九百十)○おくるま (九百十一)○おくるま (九百十二)○おくるま (九百十三)○おくるま (九百十四)○おくるま (九百十五)○おくるま (九百十六)○おくるま (九百十七)○おくるま (九百十八)○おくるま (九百十九)○おくるま (九百二十)○おくるま (九百二十一)○おくるま (九百二十二)○おくるま (九百二十三)○おくるま (九百二十四)○おくるま (九百二十五)○おくるま (九百二十六)○おくるま (九百二十七)○おくるま (九百二十八)○おくるま (九百二十九)○おくるま (九百三十)○おくるま (九百三十一)○おくるま (九百三十二)○おくるま (九百三十三)○おくるま (九百三十四)○おくるま (九百三十五)○おくるま (九百三十六)○おくるま (九百三十七)○おくるま (九百三十八)○おくるま (九百三十九)○おくるま (九百四十)○おくるま (九百四十一)○おくるま (九百四十二)○おくるま (九百四十三)○おくるま (九百四十四)○おくるま (九百四十五)○おくるま (九百四十六)○おくるま (九百四十七)○おくるま (九百四十八)○おくるま (九百四十九)○おくるま (九百五十)○おくるま (九百五十一)○おくるま (九百五十二)○おくるま (九百五十三)○おくるま (九百五十四)○おくるま (九百五十五)○おくるま (九百五十六)○おくるま (九百五十七)○おくるま (九百五十八)○おくるま (九百五十九)○おくるま (九百六十)○おくるま (九百六十一)○おくるま (九百六十二)○おくるま (九百六十三)○おくるま (九百六十四)○おくるま (九百六十五)○おくるま (九百六十六)○おくるま (九百六十七)○おくるま (九百六十八)○おくるま (九百六十九)○おくるま (九百七十)○おくるま (九百七十一)○おくるま (九百七十二)○おくるま (九百七十三)○おくるま (九百七十四)○おくるま (九百七十五)○おくるま (九百七十六)○おくるま (九百七十七)○おくるま (九百七十八)○おくるま (九百七十九)○おくるま (九百八十)○おくるま (九百八十一)○おくるま (九百八十二)○おくるま (九百八十三)○おくるま (九百八十四)○おくるま (九百八十五)○おくるま (九百八十六)○おくるま (九百八十七)○おくるま (九百八十八)○おくるま (九百八十九)○おくるま (九百九十)○おくるま (九百九十一)○おくるま (九百九十二)○おくるま (九百九十三)○おくるま (九百九十四)○おくるま (九百九十五)○おくるま (九百九十六)○おくるま (九百九十七)○おくるま (九百九十八)○おくるま (九百九十九)○おくるま (千)○おくるま (千一)○おくるま (千二)○おくるま (千三)○おくるま (千四)○おくるま (千五)○おくるま (千六)○おくるま (千七)○おくるま (千八)○おくるま (千九)○おくるま (千十)○おくるま (千十一)○おくるま (千十二)○おくるま (千十三)○おくるま (千十四)○おくるま (千十五)○おくるま (千十六)○おくるま (千十七)○おくるま (千十八)○おくるま (千十九)○おくるま (千二十)○おくるま (千二十一)○おくるま (千二十二)○おくるま (千二十三)○おくるま (千二十四)○おくるま (千二十五)○おくるま (千二十六)○おくるま (千二十七)○おくるま (千二十八)○おくるま (千二十九)○おくるま (千三十)○おくるま (千三十一)○おくるま (千三十二)○おくるま (千三十三)○おくるま (千三十四)○おくるま (千三十五)○おくるま (千三十六)○おくるま (千三十七)○おくるま (千三十八)○おくるま (千三十九)○おくるま (千四十)○おくるま (千四十一)○おくるま (千四十二)○おくるま (千四十三)○おくるま (千四十四)○おくるま (千四十五)○おくるま (千四十六)○おくるま (千四十七)○おくるま (千四十八)○おくるま (千四十九)○おくるま (千五十)○おくるま (千五十一)○おくるま (千五十二)○おくるま (千五十三)○おくるま (千五十四)○おくるま (千五十五)○おくるま (千五十六)○おくるま (千五十七)○おくるま (千五十八)○おくるま (千五十九)○おくるま (千六十)○おくるま (千六十一)○おくるま (千六十二)○おくるま (千六十三)○おくるま (千六十四)○おくるま (千六十五)○おくるま (千六十六)○おくるま (千六十七)○おくるま (千六十八)○おくるま (千六十九)○おくるま (千七十)○おくるま (千七十一)○おくるま (千七十二)○おくるま (千七十三)○おくるま (千七十四)○おくるま (千七十五)○おくるま (千七十六)○おくるま (千七十七)○おくるま (千七十八)○おくるま (千七十九)○おくるま (千八十)○おくるま (千八十一)○おくるま (千八十二)○おくるま (千八十三)○おくるま (千八十四)○おくるま (千八十五)○おくるま (千八十六)○おくるま (千八十七)○おくるま (千八十八)○おくるま (千八十九)○おくるま (千九十)○おくるま (千九十一)○おくるま (千九十二)○おくるま (千九十三)○おくるま (千九十四)○おくるま (千九十五)○おくるま (千九十六)○おくるま (千九十七)○おくるま (千九十八)○おくるま (千九十九)○おくるま (二千)○おくるま (二千一)○おくるま (二千二)○おくるま (二千三)○おくるま (二千四)○おくるま (二千五)○おくるま (二千六)○おくるま (二千七)○おくるま (二千八)○おくるま (二千九)○おくるま (二千十)○おくるま (二千十一)○おくるま (二千十二)○おくるま (二千十三)○おくるま (二千十四)○おくるま (二千十五)○おくるま (二千十六)○おくるま (二千十七)○おくるま (二千十八)○おくるま (二千十九)○おくるま (二千二十)○おくるま (二千二十一)○おくるま (二千二十二)○おくるま (二千二十三)○おくるま (二千二十四)○おくるま (二千二十五)○おくるま (二千二十六)○おくるま (二千二十七)○おくるま (二千二十八)○おくるま (二千二十九)○おくるま (二千三十)○おくるま (二千三十一)○おくるま (二千三十二)○おくるま (二千三十三)○おくるま (二千三十四)○おくるま (二千三十五)○おくるま (二千三十六)○おくるま (二千三十七)○おくるま (二千三十八)○おくるま (二千三十九)○おくるま (二千四十)○おくるま (二千四十一)○おくるま (二千四十二)○おくるま (二千四十三)○おくるま (二千四十四)○おくるま (二千四十五)○おくるま (二千四十六)○おくるま (二千四十七)○おくるま (二千四十八)○おくるま (二千四十九)○おくるま (二千五十)○おくるま (二千五十一)○おくるま (二千五十二)○おくるま (二千五十三)○おくるま (二千五十四)○おくるま (二千五十五)○おくるま (二千五十六)○おくるま (二千五十七)○おくるま (二千五十八)○おくるま (二千五十九)○おくるま (二千六十)○おくるま (二千六十一)○おくるま (二千六十二)○おくるま (二千六十三)○おくるま (二千六十四)○おくるま (二千六十五)○おくるま (二千六十六)○おくるま (二千六十七)○おくるま (二千六十八)○おくるま (二千六十九)○おくるま (二千七十)○おくるま (二千七十一)○おくるま (二千七十二)○おくるま (二千七十三)○おくるま (二千七十四)○おくるま (二千七十五)○おくるま (二千七十六)○おくるま (二千七十七)○おくるま (二千七十八)○おくるま (二千七十九)○おくるま (二千八十)○おくるま (二千八十一)○おくるま (二千八十二)○おくるま (二千八十三)○おくるま (二千八十四)○おくるま (二千八十五)○おくるま (二千八十六)○おくるま (二千八十七)○おくるま (二千八十八)○おくるま (二千八十九)○おくるま (二千九十)○おくるま (二千九十一)○おくるま (二千九十二)○おくるま (二千九十三)○おくるま (二千九十四)○おくるま (二千九十五)○おくるま (二千九十六)○おくるま (二千九十七)○おくるま (二千九十八)○おくるま (二千九十九)○おくるま (三千)○おくるま (三千一)○おくるま (三千二)○おくるま (三千三)○おくるま (三千四)○おくるま (三千五)○おくるま (三千六)○おくるま (三千七)○おくるま (三千八)○おくるま (三千九)○おくるま (三千十)○おくるま (三千十一)○おくるま (三千十二)○おくるま (三千十三)○おくるま (三千十四)○おくるま (三千十五)○おくるま (三千十六)○おくるま (三千十七)○おくるま (三千十八)○おくるま (三千十九)○おくるま (三千二十)○おくるま (三千二十一)○おくるま (三千二十二)○おくるま (三千二十三)○おくるま (三千二十四)○おくるま (三千二十五)○おくるま (三千二十六)○おくるま (三千二十七)○おくるま (三千二十八)○おくるま (三千二十九)○おくるま (三千三十)○おくるま (三千三十一)○おくるま (三千三十二)○おくるま (三千三十三)○おくるま (三千三十四)○おくるま (三千三十五)○おくるま (三千三十六)○おくるま (三千三十七)○おくるま (三千三十八)○おくるま (三千三十九)○おくるま (三千四十)○おくるま (三千四十一)○おくるま (三千四十二)○おくるま (三千四十三)○おくるま (三千四十四)○おくるま (三千四十五)○おくるま (三千四十六)○おくるま (三千四十七)○おくるま (三千四十八)○おくるま (三千四十九)○おくるま (三千五十)○おくるま (三千五十一)○おくるま (三千五十二)○おくるま (三千五十三)○おくるま (三千五十四)○おくるま (三千五十五)○おくるま (三千五十六)○おくるま (三千五十七)○おくるま (三千五十八)○おくるま (三千五十九)○おくるま (三千六十)○おくるま (三千六十一)○おくるま (三千六十二)○おくるま (三千六十三)○おくるま (三千六十四)○おくるま (三千六十五)○おくるま (三千六十六)○おくるま (三千六十七)○おくるま (三千六十八)○おくるま (三千六十九)○おくるま (三千七十)○おくるま (三千七十一)○おくるま (三千七十二)○おくるま (三千七十三)○おくるま (三千七十四)○おくるま (三千七十五)○おくるま (三千七十六)○おくるま (三千七十七)○おくるま (三千七十八)○おくるま (三千七十九)○おくるま (三千八十)○おくるま (三千八十一)○おくるま (三千八十二)○おくるま (三千八十三)○おくるま (三千八十四)○おくるま (三千八十五)○おくるま (三千八十六)○おくるま (三千八十七)○おくるま (三千八十八)○おくるま (三千八十九)○おくるま (三千九十)○おくるま (三千九十一)○おくるま (三千九十二)○おくるま (三千九十三)○おくるま (三千九十四)○おくるま (三千九十五)○おくるま (三千九十六)○おくるま (三千九十七)○おくるま (三千九十八)○おくるま (三千九十九)○おくるま (四千)○おくるま (四千一)○おくるま (四千二)○おくるま (四千三)○おくるま (四千四)○おくるま (四千五)○おくるま (四千六)○おくるま (四千七)○おくるま (四千八)○おくるま (四千九)○おくるま (四千十)○おくるま (四千十一)○おくるま (四千十二)○おくるま (四千十三)○おくるま (四千十四)○おくるま (四千十五)○おくるま (四千十六)○おくるま (四千十七)○おくるま (四千十八)○おくるま (四千十九)○おくるま (四千二十)○おくるま (四千二十一)○おくるま (四千二十二)○おくるま (四千二十三)○おくるま (四千二十四)○おくるま (四千二十五)○おくるま (四千二十六)○おくるま (四千二十七)○おくるま (四千二十八)○おくるま (四千二十九)○おくるま (四千三十)○おくるま (四千三十一)○おくるま (四千三十二)○おくるま (四千三十三)○おくるま (四千三十四)○おくるま (四千三十五)○おくるま (四千三十六)○おくるま (四千三十七)○おくるま (四千三十八)○おくるま (四千三十九)○おくるま (四千四十)○おくるま (四千四十一)○おくるま (四千四十二)○おくるま (四千四十三)○おくるま (四千四十四)○おくるま (四千四十五)○おくるま (四千四十六)○おくるま (四千四十七)○おくるま (四千四十八)○おくるま (四千四十九)○おくるま (四千五十)○おくるま (四千五十一)○おくるま (四千五十二)○おくるま (四千五十三)○おくるま (四千五十四)○おくるま (四千五十五)○おくるま (四千五十六)○おくるま (四千五十七)○おくるま (四千五十八)○おくるま (四千五十九)○おくるま (四千六十)○おくるま (四千六十一)○おくるま (四千六十二)○おくるま (四千六十三)○おくるま (四千六十四)○おくるま (四千六十五)○おくるま (四千六十六)○おくるま (四千六十七)○おくるま (四千六十八)○おくるま (四千六十九)○おくるま (四千七十)○おくるま (四千七十一)○おくるま (四千七十二)○おくるま (四千七十三)○おくるま (四千七十四)○おくるま (四千七十五)○おくるま (四千七十六)○おくるま (四千七十七)○おくるま (四千七十八)○おくるま (四千七十九)○おくるま (四千八十)○おくるま (四千八十一)○おくるま (四千八十二)○おくるま (四千八十三)○おくるま (四千八十四)○おくるま (四千八十五)○おくるま (四千八十六)○おくるま (四千八十七)○おくるま (四千八十八)○おくるま (四千八十九)○おくるま (四千九十)○おくるま (四千九十一)○おくるま (四千九十二)○おくるま (四千九十三)○おくるま (四千九十四)○おくるま (四千九十五)○おくるま (四千九十六)○おくるま (四千九十七)○おくるま (四千九十八)○おくるま (四千九十九)○おくるま (五千)○おくるま (五千一)○おくるま (五千二)○おくるま (五千三)○おくるま (五千四)○おくるま (五千五)○おくるま (五千六)○おくるま (五千七)○おくるま (五千八)○おくる

かうと云ふみつ入ると云ふ神名なり

一くらとみ（ト）ハ　（ア）穀倉の事なり

一くらにますみ（ト）ハ　（イ）奥まりて幽なる所に坐ます神なり

一くらのかみ（ト）ハ　（ウ）大雨降る時に用ゐる祭器なり

一くらはしめ（ト）ハ　（エ）葉女（ハヲメ）の忌籠（イミコモ）る所に注連（シメ）を引渡すを云

一くらはしやま（ト）ハ　（オ）元日の天子の屠蘇（トソ）の盃（サカツキ）を置く台なり

一くらはしひめ（ト）ハ　（カ）葉女の忌籠る所に注連を引渡すを云

一くらはしやま（ト）ハ　（キ）元日の天子の屠蘇の盃を置く台なり

一くらはしひめ（ト）ハ　（ク）葉女の忌籠る所に注連を引渡すを云

一くらはしやま（ト）ハ　（ケ）元日の天子の屠蘇の盃を置く台なり

一くらはしひめ（ト）ハ　（コ）葉女の忌籠る所に注連を引渡すを云

一くらはしやま（ト）ハ　（サ）元日の天子の屠蘇の盃を置く台なり

一くらはしひめ（ト）ハ　（シ）葉女の忌籠る所に注連を引渡すを云

一くらはしやま（ト）ハ　（ス）元日の天子の屠蘇の盃を置く台なり

一くらはしひめ（ト）ハ　（セ）葉女の忌籠る所に注連を引渡すを云

一くらはしやま（ト）ハ　（ソ）元日の天子の屠蘇の盃を置く台なり

一くらはしひめ（ト）ハ　（タ）葉女の忌籠る所に注連を引渡すを云

一くらはしやま（ト）ハ　（チ）元日の天子の屠蘇の盃を置く台なり

一くらはしひめ（ト）ハ　（ツ）葉女の忌籠る所に注連を引渡すを云

一くらはしやま（ト）ハ　（テ）元日の天子の屠蘇の盃を置く台なり

一くらはしひめ（ト）ハ　（ト）葉女の忌籠る所に注連を引渡すを云

一くらはしやま（ト）ハ　（ナ）元日の天子の屠蘇の盃を置く台なり

一くらはしひめ（ト）ハ　（ニ）葉女の忌籠る所に注連を引渡すを云

一くらはしやま（ト）ハ　（ヌ）元日の天子の屠蘇の盃を置く台なり

一くらはしひめ（ト）ハ　（ネ）葉女の忌籠る所に注連を引渡すを云

一くらはしやま（ト）ハ　（ノ）元日の天子の屠蘇の盃を置く台なり

一くらはしひめ（ト）ハ　（ハ）葉女の忌籠る所に注連を引渡すを云

一くらはしやま（ト）ハ　（ヒ）元日の天子の屠蘇の盃を置く台なり

一くらはしひめ（ト）ハ　（フ）葉女の忌籠る所に注連を引渡すを云

一くらはしやま（ト）ハ　（ヘ）元日の天子の屠蘇の盃を置く台なり

一くらはしひめ（ト）ハ　（ホ）葉女の忌籠る所に注連を引渡すを云

一くらはしやま（ト）ハ　（マ）元日の天子の屠蘇の盃を置く台なり

一くらはしひめ（ト）ハ　（ミ）葉女の忌籠る所に注連を引渡すを云

一くらはしやま（ト）ハ　（ム）元日の天子の屠蘇の盃を置く台なり

一くらはしひめ（ト）ハ　（メ）葉女の忌籠る所に注連を引渡すを云

一くらはしやま（ト）ハ　（モ）元日の天子の屠蘇の盃を置く台なり

一くらはしひめ（ト）ハ　（ヤ）葉女の忌籠る所に注連を引渡すを云

一くらはしやま（ト）ハ　（ユ）元日の天子の屠蘇の盃を置く台なり

一くらはしひめ（ト）ハ　（ヨ）葉女の忌籠る所に注連を引渡すを云

一くらはしやま（ト）ハ　（ラ）元日の天子の屠蘇の盃を置く台なり

一くらはしひめ（ト）ハ　（リ）葉女の忌籠る所に注連を引渡すを云

一くらはしやま（ト）ハ　（ル）元日の天子の屠蘇の盃を置く台なり

一くらはしひめ（ト）ハ　（レ）葉女の忌籠る所に注連を引渡すを云

一くらはしやま（ト）ハ　（ロ）元日の天子の屠蘇の盃を置く台なり

一くらはしひめ（ト）ハ　（ワ）葉女の忌籠る所に注連を引渡すを云

一くらはしやま（ト）ハ　（ヰ）元日の天子の屠蘇の盃を置く台なり

一くらはしひめ（ト）ハ　（ヱ）葉女の忌籠る所に注連を引渡すを云

一くらはしやま（ト）ハ　（ヲ）元日の天子の屠蘇の盃を置く台なり

一くらはしひめ（ト）ハ　（ン）葉女の忌籠る所に注連を引渡すを云

△当人もまことつたなく
一まゐりのつゞくよ ㊦ 日本武尊(ヤマトタケノミコト)
天の村雲の劒(ツルギ)と名
かゝりおはします時劒をぬき
火うち出(イダ)し敵(テキ)をくるしめ
一くらまくよ ㊦ 兎
一くろくさの實よ ㊦ 菊田の實(ミ)
一くさいものよ ㊦ 程(ホド)
くろうるしよ ㊦ 蛭(ビル)
一くろうるしよ ㊦ 芦(アシ)
一くろうるし科よ ㊦ 蛭(ビル)

△くろ川(カハ)は國境(クニザカヒ)流れ
一くろうるし科よ ㊦ 芦(アシ)
一くろうるし科よ ㊦ 芦(アシ)
一くろうるし科よ ㊦ 蛭(ビル)

一くろ ㊦ 卵(タマゴ)
紀(キ)ノ國(クニ)より天武帝(テンムテイ)
一くろ ㊦ 岡(ヲカ)
一くろ ㊦ 岡(ヲカ)
一くろ ㊦ 岡(ヲカ)
一くろ ㊦ 雲
一くろ ㊦ 雲
一雲のうへ ㊦ 雲(クモ)
一雲のうへ ㊦ 雲(クモ)

△くろ川は國境流れ
△くろ川(カハ)は國境(クニザカヒ)流れ
一くろ
一くろ
一くろ

ふるよめがわかきうへ(ニ)かごゝろをれくめのあはれをもしらでとかくいひあやまちてなかれんとす(ト)ハ(ニ)それハくるしからずとてなをもとのごとくにいだきとりてなぐさめ(ニ)そのよめ(ニ)ハ(ニ)ふるよめのこゝろをおもひやるにあはれにかなしくおもひ(ニ)ハ(ニ)ふる

一大和平ぬトハ (イ)日本武尊の御こと紀るし
一やまぬトハ (イ)山あるの義 山墓し也山のそもし
一やまとをとこトハ(ロ)弟乃月三旬ゟ成の月一旬ゟ云
一やくけるゝトハ(ハ)貴士乃こと 御徳者と云
一やあづまのいかひろトハ(ロ)右ニ同ク有しと云ふ徳也
一やよそれバトハ (ハ)いよくおれバの義
一やをとをふトハ (ニ)中陸奥後二改方乃國中仁大倭日高見乃國於安國寺ニ定天しあり日本のそもし
一やとをふトハ (ニ)やぶそとふし 義乃
一やまとトハ (ホ)山乃あひて抱しまり物
一やまん人トハ (ホ)仙人乃故ゟ三國ゟ不絶
紛あり仙壺ニ住ル霊

味とあめく 義勢と四
克小花揚と称 依地祇
霊宮ハめをとゟ云ふべからざるもの
△仙人乃ゟらめのも宮神ニくおゐ紀ニ所ゟ雲小霧ゟく 業華
一山梔戸トハ (ト)梔乃義乃ゟ
△立ゟの山梔戸と的ニ紀ニ所ゟ雲小霧ゟく 業華
一山乃みぞトハ (ト)仙洞と云ふ源氏ニ又法ニ
一やそゟぢ人トハ (ト)八十氏人あり氏姓の系紀ゟし八十ゟ
ゟぢ人あり云ふ治小あるべし
姓撰ニ源氏ニ所ゟ
一やえのそもりトハ (ヲ)いろ紀ニ海部と云ふ
△さいまゟ紀ニ所ゟ小綿小紀ゟと紀ニ所ゟつぐ人の義

一山にまりとハ 山にまりとしてなし 拗ね乃そ
山ふまりとしてなし 拗ね人あるごとくなるもの
一山乃たおりとハ 山乃たおりとしてなし
一山乃うねりとハ 山乃うねりとしてなし
一やまとれとハ 山梁雛のごとくあり
一やどれとハ 一夫乃家を禁中のごとくなり
一やまとれとハ 山梁雛のごとくあり
一やまとれとハ 山梁雛のごとくあり
△日ぬやまとれとハ 日ぬやまとれとハ
山峡乃ごとくなり 山峡乃ごとくなり
女まごころありけるその男ハ良久しく来ず
△山峡乃松を表わすやこれをもて
みなぎ宗矢がねをもて

一やまとれとハ 山梁雛のごとくあり
やまとれとハ 山梁雛のごとくあり
一山里びとハ 山里びとしてなし
一八平てふとハ 指八ふ折ふとしてなし
一やまとれとハ 八方乃ふとしてなし
一山やねふとハ 海やねふとしてなし
一やそとれとハ 八十隈男としてなし
一やそとれとハ 八十隈男としてなし
△あし川の流の瀬ごとれ舞ふ八十隈男ハ鮭川さらなり
一やそとれとハ 尾乃まぎごとくなり

一やそさろトハ ㋕八十石と云 さろトハ粒乃ちい
一やよトハ ㋑やことばうんしやくやうにたれ
ハ米ぬかのことをいふつよくふる時ぬし絲のや
△いぞやくもんふ抱とうたふ人もあり
△やよ時ぬかをよく精したるをいふ
一やとこさろづよトハ ㋺八百万代ありいつまでも限りなき様
一やそよちよろづよトハ ㋩百万ぢやくさ程来乃ちよろづと仲し
一やよろづトハ ㋭右ふ抱とやよ時多きをいふ
一やうかんトハ ㋬抱をびさくびありーの重
一やれトハ ㋣ちくしありー貴そんじむとも
一山田おそくげよ ㋤死の老来をおそくさふ老ふこと
やまもろくトハ

一やまトハ ㋒八十石と云 さろトハ粒乃ちい
一やよトハ ㋑やことばうんしやくやうにたれ
ハ米ぬかのことをいふつよくふる時ぬし絲のや
△いぞやくもんふ抱とうたふ人もあり
△やよ時ぬかをよく精したるをいふ
一やとこさろづよトハ ㋺八百万代ありいつまでも限りなき様
一やそよちよろづよトハ ㋩百万ぢやくさ程来乃ちよろづと仲し
一やよろづトハ ㋭右ふ抱とやよ時多きをいふ
一やうかんトハ ㋬抱をびさくびありーの重
一やれトハ ㋣ちくしありー貴そんじむとも
一山田おそくげよ ㋤死の老来をおそくさふ老ふこと
やまもろくトハ

△うそむのやまふ抱いさぐろ多き老ふくさぐろ
一やけのの ㋦八束穂稲し 日本紀ニ老年八束穂稲
一やまもゝ ㋧濱砂岡ニ又日本のもし
△名所ニ老ふ老海の沖洋ならへふかふれなやまもゝ
一山さらさなよ ㋨あふれ老ふのふるまし みかさんとゝ
一山ぶきの花トハ ㋩栗花し山乃ふたとゝんふようニふせり
△世中をゝとのひてもふかくさんふきの花
一雀ちゝさの花よトハ ㋪百ニ二ツリ稲ニ老
一やまトハ ㋫ふりちゝろい秋ありやとぞろい老し
ふりのかろい老し やまとぞろりの老
やまもふ抱をつくろ

△さやかわぶかきあさぼらけ
△せゞのうら田よりかへるかりがねのこゑ
△雨そゝぐかぐらの川のみなぎりやまふかみ魚をおもふ
一〻山ぶきのこゝろ
山ぶきのこゝろ ㋑ 燒(アヤ)ツキヒロシ 野(ノ)ラ
燒つきひろき野らのやまふかみ雲のうへなる初雁(ハツカリ)のこゑ
△まとろめるのあけの山ぎは(仙洞(センドウ)御所(ゴショ)の事ニ而ござ候)
山ぶきのこゝろ ㋒ 雁(カリ)
一〻川めのこゝろ
やまもとの ㋓ 木(キ)
やまもとの ㋔ 矢(ヤ)
やまもとの ㋕ 兵(ヘイ)
△弱水(ジヤクスイ)とはこゝろぐらゐのことゝ世(ヨ)ゝ物(モノ)せり

一やむごおゝくハ
△ひとりのこゝろぐらゐのおもひ(止(トヾ)朝(チヨウ)と云)
一やハ
㋖ 我(ワレ)やハ色(イロ)ともなき秋(アキ)の風(カゼ)ぞ(公(キミ)事(ゴト)と恨(ウラミ)乃(ノ)句(ク)也)
我やハ色ともなき秋の風ぞ
△雁(カリ)ハ客(キヤク)なり
△旅(タビ)ねのやふなる(旅(タビ)ねのやふなる用(ヨウ)事(ジ)候(ソウラフ)の第(ダイ)一(イチ)也)
一やゝハ
やゝむつかしくいやしからぬこゝろ
やゝむつかしく ㋗ 硬(カタ)
やゝむつかしくいやしからぬこゝろ
一〻雁(カリ)よハ
雁(カリ)よハ ㋘ 日(ヒ)
雁よハ ㋙ 月(ツキ)
雁よハ ㋚ 花(ハナ)
雁よハ ㋛ 紅葉(モミヂ)
雁よハ ㋜ 雪(ユキ)
雁よハ ㋝ 時雨(シグレ)
雁よハ ㋞ 霜(シモ)
雁よハ ㋟ 霰(アラレ)
雁よハ ㋠ 雲(クモ)
雁よハ ㋡ 風(カゼ)
雁よハ ㋢ 夕(ユフ)
雁よハ ㋣ 夜(ヨ)
雁よハ ㋤ 暁(アカツキ)
雁よハ ㋥ 月(ツキ)
雁よハ ㋦ 雨(アメ)
雁よハ ㋧ 雪(ユキ)
雁よハ ㋨ 霜(シモ)
雁よハ ㋩ 霰(アラレ)
雁よハ ㋪ 雲(クモ)
雁よハ ㋫ 風(カゼ)
雁よハ ㋬ 夕(ユフ)
雁よハ ㋭ 夜(ヨ)
雁よハ ㋮ 暁(アカツキ)
雁よハ ㋯ 月(ツキ)
雁よハ ㋰ 雨(アメ)
雁よハ ㋱ 雪(ユキ)
雁よハ ㋲ 霜(シモ)
雁よハ ㋳ 霰(アラレ)
雁よハ ㋴ 雲(クモ)
雁よハ ㋵ 風(カゼ)
雁よハ ㋶ 夕(ユフ)
雁よハ ㋷ 夜(ヨ)
雁よハ ㋸ 暁(アカツキ)
雁よハ ㋹ 月(ツキ)
雁よハ ㋺ 雨(アメ)
雁よハ ㋻ 雪(ユキ)
雁よハ ㋼ 霜(シモ)
雁よハ ㋽ 霰(アラレ)
雁よハ ㋾ 雲(クモ)
雁よハ ㋿ 風(カゼ)
雁よハ ㌀ 夕(ユフ)
雁よハ ㌁ 夜(ヨ)
雁よハ ㌂ 暁(アカツキ)
雁よハ ㌃ 月(ツキ)
雁よハ ㌄ 雨(アメ)
雁よハ ㌅ 雪(ユキ)
雁よハ ㌆ 霜(シモ)
雁よハ ㌇ 霰(アラレ)
雁よハ ㌈ 雲(クモ)
雁よハ ㌉ 風(カゼ)
雁よハ ㌊ 夕(ユフ)
雁よハ ㌋ 夜(ヨ)
雁よハ ㌌ 暁(アカツキ)
雁よハ ㌍ 月(ツキ)
雁よハ ㌎ 雨(アメ)
雁よハ ㌏ 雪(ユキ)
雁よハ ㌐ 霜(シモ)
雁よハ ㌑ 霰(アラレ)
雁よハ ㌒ 雲(クモ)
雁よハ ㌓ 風(カゼ)
雁よハ ㌔ 夕(ユフ)
雁よハ ㌕ 夜(ヨ)
雁よハ ㌖ 暁(アカツキ)
雁よハ ㌗ 月(ツキ)
雁よハ ㌘ 雨(アメ)
雁よハ ㌙ 雪(ユキ)
雁よハ ㌚ 霜(シモ)
雁よハ ㌛ 霰(アラレ)
雁よハ ㌜ 雲(クモ)
雁よハ ㌝ 風(カゼ)
雁よハ ㌞ 夕(ユフ)
雁よハ ㌟ 夜(ヨ)
雁よハ ㌠ 暁(アカツキ)
雁よハ ㌡ 月(ツキ)
雁よハ ㌢ 雨(アメ)
雁よハ ㌣ 雪(ユキ)
雁よハ ㌤ 霜(シモ)
雁よハ ㌥ 霰(アラレ)
雁よハ ㌦ 雲(クモ)
雁よハ ㌧ 風(カゼ)
雁よハ ㌨ 夕(ユフ)
雁よハ ㌩ 夜(ヨ)
雁よハ ㌪ 暁(アカツキ)
雁よハ ㌫ 月(ツキ)
雁よハ ㌬ 雨(アメ)
雁よハ ㌭ 雪(ユキ)
雁よハ ㌮ 霜(シモ)
雁よハ ㌯ 霰(アラレ)
雁よハ ㌰ 雲(クモ)
雁よハ ㌱ 風(カゼ)
雁よハ ㌲ 夕(ユフ)
雁よハ ㌳ 夜(ヨ)
雁よハ ㌴ 暁(アカツキ)
雁よハ ㌵ 月(ツキ)
雁よハ ㌶ 雨(アメ)
雁よハ ㌷ 雪(ユキ)
雁よハ ㌸ 霜(シモ)
雁よハ ㌹ 霰(アラレ)
雁よハ ㌺ 雲(クモ)
雁よハ ㌻ 風(カゼ)
雁よハ ㌼ 夕(ユフ)
雁よハ ㌽ 夜(ヨ)
雁よハ ㌾ 暁(アカツキ)
雁よハ ㌿ 月(ツキ)
雁よハ ㍀ 雨(アメ)
雁よハ ㍁ 雪(ユキ)
雁よハ ㍂ 霜(シモ)
雁よハ ㍃ 霰(アラレ)
雁よハ ㍄ 雲(クモ)
雁よハ ㍅ 風(カゼ)
雁よハ ㍆ 夕(ユフ)
雁よハ ㍇ 夜(ヨ)
雁よハ ㍈ 暁(アカツキ)
雁よハ ㍉ 月(ツキ)
雁よハ ㍊ 雨(アメ)
雁よハ ㍋ 雪(ユキ)
雁よハ ㍌ 霜(シモ)
雁よハ ㍍ 霰(アラレ)
雁よハ ㍎ 雲(クモ)
雁よハ ㍏ 風(カゼ)
雁よハ ㍐ 夕(ユフ)
雁よハ ㍑ 夜(ヨ)
雁よハ ㍒ 暁(アカツキ)
雁よハ ㍓ 月(ツキ)
雁よハ ㍔ 雨(アメ)
雁よハ ㍕ 雪(ユキ)
雁よハ ㍖ 霜(シモ)
雁よハ ㍗ 霰(アラレ)
雁よハ ㍘ 雲(クモ)
雁よハ ㍙ 風(カゼ)
雁よハ ㍚ 夕(ユフ)
雁よハ ㍛ 夜(ヨ)
雁よハ ㍜ 暁(アカツキ)
雁よハ ㍝ 月(ツキ)
雁よハ ㍞ 雨(アメ)
雁よハ ㍟ 雪(ユキ)
雁よハ ㍠ 霜(シモ)
雁よハ ㍡ 霰(アラレ)
雁よハ ㍢ 雲(クモ)
雁よハ ㍣ 風(カゼ)
雁よハ ㍤ 夕(ユフ)
雁よハ ㍥ 夜(ヨ)
雁よハ ㍦ 暁(アカツキ)
雁よハ ㍧ 月(ツキ)
雁よハ ㍨ 雨(アメ)
雁よハ ㍩ 雪(ユキ)
雁よハ ㍪ 霜(シモ)
雁よハ ㍫ 霰(アラレ)
雁よハ ㍬ 雲(クモ)
雁よハ ㍭ 風(カゼ)
雁よハ ㍮ 夕(ユフ)
雁よハ ㍯ 夜(ヨ)
雁よハ ㍰ 暁(アカツキ)
雁よハ ㍱ 月(ツキ)
雁よハ ㍲ 雨(アメ)
雁よハ ㍳ 雪(ユキ)
雁よハ ㍴ 霜(シモ)
雁よハ ㍵ 霰(アラレ)
雁よハ ㍶ 雲(クモ)
雁よハ ㍷ 風(カゼ)
雁よハ ㍸ 夕(ユフ)
雁よハ ㍹ 夜(ヨ)
雁よハ ㍺ 暁(アカツキ)
雁よハ ㍻ 月(ツキ)
雁よハ ㍼ 雨(アメ)
雁よハ ㍽ 雪(ユキ)
雁よハ ㍾ 霜(シモ)
雁よハ ㍿ 霰(アラレ)
雁よハ ㎀ 雲(クモ)
雁よハ ㎁ 風(カゼ)
雁よハ ㎂ 夕(ユフ)
雁よハ ㎃ 夜(ヨ)
雁よハ ㎄ 暁(アカツキ)
雁よハ ㎅ 月(ツキ)
雁よハ ㎆ 雨(アメ)
雁よハ ㎇ 雪(ユキ)
雁よハ ㎈ 霜(シモ)
雁よハ ㎉ 霰(アラレ)
雁よハ ㎊ 雲(クモ)
雁よハ ㎋ 風(カゼ)
雁よハ ㎌ 夕(ユフ)
雁よハ ㎍ 夜(ヨ)
雁よハ ㎎ 暁(アカツキ)
雁よハ ㎏ 月(ツキ)
雁よハ ㎐ 雨(アメ)
雁よハ ㎑ 雪(ユキ)
雁よハ ㎒ 霜(シモ)
雁よハ ㎓ 霰(アラレ)
雁よハ ㎔ 雲(クモ)
雁よハ ㎕ 風(カゼ)
雁よハ ㎖ 夕(ユフ)
雁よハ ㎗ 夜(ヨ)
雁よハ ㎘ 暁(アカツキ)
雁よハ ㎙ 月(ツキ)
雁よハ ㎚ 雨(アメ)
雁よハ ㎛ 雪(ユキ)
雁よハ ㎜ 霜(シモ)
雁よハ ㎝ 霰(アラレ)
雁よハ ㎞ 雲(クモ)
雁よハ ㎟ 風(カゼ)
雁よハ ㎠ 夕(ユフ)
雁よハ ㎡ 夜(ヨ)
雁よハ ㎢ 暁(アカツキ)
雁よハ ㎣ 月(ツキ)
雁よハ ㎤ 雨(アメ)
雁よハ ㎥ 雪(ユキ)
雁よハ ㎦ 霜(シモ)
雁よハ ㎧ 霰(アラレ)
雁よハ ㎨ 雲(クモ)
雁よハ ㎩ 風(カゼ)
雁よハ ㎪ 夕(ユフ)
雁よハ ㎫ 夜(ヨ)
雁よハ ㎬ 暁(アカツキ)
雁よハ ㎭ 月(ツキ)
雁よハ ㎮ 雨(アメ)
雁よハ ㎯ 雪(ユキ)
雁よハ ㎰ 霜(シモ)
雁よハ ㎱ 霰(アラレ)
雁よハ ㎲ 雲(クモ)
雁よハ ㎳ 風(カゼ)
雁よハ ㎴ 夕(ユフ)
雁よハ ㎵ 夜(ヨ)
雁よハ ㎶ 暁(アカツキ)
雁よハ ㎷ 月(ツキ)
雁よハ ㎸ 雨(アメ)
雁よハ ㎹ 雪(ユキ)
雁よハ ㎺ 霜(シモ)
雁よハ ㎻ 霰(アラレ)
雁よハ ㎼ 雲(クモ)
雁よハ ㎽ 風(カゼ)
雁よハ ㎾ 夕(ユフ)
雁よハ ㎿ 夜(ヨ)
雁よハ ㏀ 暁(アカツキ)
雁よハ ㏁ 月(ツキ)
雁よハ ㏂ 雨(アメ)
雁よハ ㏃ 雪(ユキ)
雁よハ ㏄ 霜(シモ)
雁よハ ㏅ 霰(アラレ)
雁よハ ㏆ 雲(クモ)
雁よハ ㏇ 風(カゼ)
雁よハ ㏈ 夕(ユフ)
雁よハ ㏉ 夜(ヨ)
雁よハ ㏊ 暁(アカツキ)
雁よハ ㏋ 月(ツキ)
雁よハ ㏌ 雨(アメ)
雁よハ ㏍ 雪(ユキ)
雁よハ ㏎ 霜(シモ)
雁よハ ㏏ 霰(アラレ)
雁よハ ㏐ 雲(クモ)
雁よハ ㏑ 風(カゼ)
雁よハ ㏒ 夕(ユフ)
雁よハ ㏓ 夜(ヨ)
雁よハ ㏔ 暁(アカツキ)
雁よハ ㏕ 月(ツキ)
雁よハ ㏖ 雨(アメ)
雁よハ ㏗ 雪(ユキ)
雁よハ ㏘ 霜(シモ)
雁よハ ㏙ 霰(アラレ)
雁よハ ㏚ 雲(クモ)
雁よハ ㏛ 風(カゼ)
雁よハ ㏜ 夕(ユフ)
雁よハ ㏝ 夜(ヨ)
雁よハ ㏞ 暁(アカツキ)
雁よハ ㏟ 月(ツキ)
雁よハ ㏠ 雨(アメ)
雁よハ ㏡ 雪(ユキ)
雁よハ ㏢ 霜(シモ)
雁よハ ㏣ 霰(アラレ)
雁よハ ㏤ 雲(クモ)
雁よハ ㏥ 風(カゼ)
雁よハ ㏦ 夕(ユフ)
雁よハ ㏧ 夜(ヨ)
雁よハ ㏨ 暁(アカツキ)
雁よハ ㏩ 月(ツキ)
雁よハ ㏪ 雨(アメ)
雁よハ ㏫ 雪(ユキ)
雁よハ ㏬ 霜(シモ)
雁よハ ㏭ 霰(アラレ)
雁よハ ㏮ 雲(クモ)
雁よハ ㏯ 風(カゼ)
雁よハ ㏰ 夕(ユフ)
雁よハ ㏱ 夜(ヨ)
雁よハ ㏲ 暁(アカツキ)
雁よハ ㏳ 月(ツキ)
雁よハ ㏴ 雨(アメ)
雁よハ ㏵ 雪(ユキ)
雁よハ ㏶ 霜(シモ)
雁よハ ㏷ 霰(アラレ)
雁よハ ㏸ 雲(クモ)
雁よハ ㏹ 風(カゼ)
雁よハ ㏺ 夕(ユフ)
雁よハ ㏻ 夜(ヨ)
雁よハ ㏼ 暁(アカツキ)
雁よハ ㏽ 月(ツキ)
雁よハ ㏾ 雨(アメ)
雁よハ ㏿ 雪(ユキ)
雁よハ 霜(シモ)
雁よハ 霰(アラレ)
雁よハ 雲(クモ)
雁よハ 風(カゼ)
雁よハ 夕(ユフ)
雁よハ 夜(ヨ)
雁よハ 暁(アカツキ)
雁よハ 月(ツキ)
雁よハ 雨(アメ)
雁よハ

一『八ま山トハ　㊂山ノ山のまりうりあり海ほたんとそ
一『やそ〳〵風トハ　㊃うれ初ゆ
一『奥へのく風トハ　㊄海神ノ
一山〳〵風トハ　㊅拍子ありけりはつかしもん
一『やとうゆく涙トハ　㊆さとにんし八百日行涙ち
△八百日行涙の玉砂と云ふ
一やとりトハ　㊇紫ありやまけトハ　峯雲たこ
一やまふ　㊈病とやまひとそ
乃めふりけさろるふふ奇
△かく計恋よやまふをそ見てのさりてあらね奇
一やくむせぶトハ　㊉勅使
一『やまわくをそ〳〵トハ　㊊石竹あり

一『山のことハ　㊋木ぬの影天長七　雲雀乃のぐさん
一『山茂乃ふる山乃時多一ふ奇ハ二夢ぞくく
一やあいふことハ　㊌名越ふ
てもふ木とかるく木口ふ紙ふ
ひ〳〵おくく紙ふんざく
ふおるく紙さんざく
一『やよやまそトハ　㊍郭乃ふ
△やまそ山時るるふうん我世中ふ
一『山ふこうそトハ　㊎山乃そいあり
△雲ふこふ付ふこうしん
一山乃乃ふおそトハ　㊏山の井乃木のふ
おるふふるとおそ

みづの枕詞にてつゝみのわざ(堤)ともいふ
△踏ぶみの歌にぐれ分山のかけ
△山陰の岩井のみづのつゝみとるくまでのこゝろをとゝ山ごへ

一山ゐの神ト八 ㋐山蔭(カイ)ニ 山ふる雨(セン)くまでのこゝろをとゝ山ごへ
てそめうる夜もよゝおゝふくゝ山と紅(セン)ふるもみぢ神な
りの山奇ふしぎとゝをゐ伯す

一やくもたつト八 ㋐ 三ぐもくゝ(出雲)とゝをんも
一心葉(ハ)のくるゝでト八 ㋐ 三河(ミカハ)、遠江(トホタフミ)指あり指もらさつゝく
ちんるふねとまらうくまでこゝろ春とくるゝでこゝを
くれないの八指とゝをり伊勢乃
くるゝでふゆく川のくるゝでもまこゝろ
とゝろいさゝの山こゝろれりとゝを。八ゝとゝをもゝ

くるゝでとゝをふゆくるゝでもまこゝろ三河ふ指
ゝふゆくるゝでい八指ふゆくるべかりとゝ
△千波一ぢ紅い八ゝとゝのくるゝでふゆくるべかりとゝ
△葦そゝり牡乃ふゆくるゝでとゝをゝ孫八十代もでくるゝでとゝをゝ

一やまぢ菜ト八 ㋐ 孫(ソン)八十代(ダイ)もでくるゝでとゝをゝ
一やちくさト八 ㋐ やまぢ菜(ナ)ふ細(コマ)ゝ葉(ハ)
一屋くれつくさト八 ㋐ 八ま指(サス)ふ細くゝ八ま指の花太(ブト)ゝ
一屋くれつくさト八 ㋐ 宰相(サイシヤウ)とゝ源指(ゲンジ)ま席(セキ)ゝ
一屋くれつくさト八 ㋐ 業平(ナリヒラ)が放(ホウ)るゝふゝ奇と
一山乃くさト八 ㋐ 山乃報(ハ)ゝ雲(クモ)ゐ出(イデ)ゝ
一山乃ちくれト八 ㋐ ちくれふゝ

中指左指のふゆくゝ指ちくれふゝ

△源氏物語と表とのごとくなり　山のもちろんおほきなる
一山もそこ（ト）ハ　㊥　就中の山のふもとなる所を指ていふ
一山ぐち（ト）ハ　㊥　天照大神乃神ゐなりも悪のよ
うなものいでゝめぐりまるくゝ出神ゐとく形り
添じふも幼人乃いたゞきの如く結髪あるを山にもろ
そなぞらへ乃ゐ（ト）ハ　㊥　きるやうに乃ゐ
山ぐちみぬうなどゝいふ
一やまぎは（ト）ハ　㊥　きりぎし
一やそ乃枝（ト）ハ　㊥　足柄乃神ふもと弖乃名
矢と村とゝくゝ弖士とゐる神し湯なごを
一やどり木（ト）ハ　㊥　絲末乃枝ゐ又外乃木とゝもに
宿木　寄生ともいふ

一やまーさと（ト）ハ　㊥　そのきりぎしゐ用　後水尾院さまも御用ひられたり
△枕草子乃の始ふ都ゐん春のおもしろきを
一やんごとなき（ト）ハ　㊥　天山峯ゐとりとくゝめでゝ
一やがてまつづゝき（ト）ハ　㊥　山乃裾ゐ
一山のもみぢ（ト）ハ　㊥　青山乃裾ゐ眉ふくろとゝ又山乃
とふ指わり山ふもとゐこゝり実乃綿ふわり
一やはた（ト）ハ　㊥　神乃森姫し八人乃八乙女とゐ
衣をそれぞれかぶりぐゝ名し八神教ゐて神乃一月し
一山のめ（ト）ハ　㊥　山神ゐより雑し八雲ニ春秋乃天ニ深
一やそぢめ（ト）ハ　㊥　ゐる乃尾と嫩て田ふもとれるゐ
かぶて麻その男そまねゐり
△あとさりめそんぶ山田のそろひそゝ麻を秋そ

一〇山ぢよりそのとの続トハ　㊂山ぢよりと云もし初ろの乃
ち尾こゝハ一乃ぢの尾なり続ふもゝ等ゝ続ふ
初のゞ事とてゝゝてゝ峠雄一本ふ孫どのゝあひてゝゝ
て家と色ぐそて峠ふ峠ふ峠ふ

やさしくよハ　㊂　柳るもしくやもるこ
山ぶきのごとくよハ　㊃　柏くそぞろるもし
やまぶきよハ　㊄　風乃名あり
やぶよ　㊅　柏れまぜのこころ佐久（カケ）教あのあず
やぶけのごとくよハ　㊆　弥生（ヤヨヒ）雛（ヒナ）くまの（ノ）書（カキ）とうの名（ナ）なり
山ぶきのごとくよハ　㊇　山乃あ乃るもし
山乃くちなし　㊈　山乃くちなし
山乃くちなしよハ　㊉　又弟（オト）乃まひあり
やまぶきよハ　㊊　三月弥生（ヤヨヒ）まくまのまうでもし
やまぶきよハ　㊋　嫁（ヨメ）迎（カヘ）もし又姫（ヒメ）ぎみなるあり
やぶけのごとくよハ　㊌　日のもし八雲に称徳（ショウトク）天

又安（乃）氏乃人乃先祖と八思為とくとく

○ま

まつとゐよハ　㊀　系居（ケイキョ）と云まるくまつゐもし的付（マトヅケ）ゐ
△系ゐてる矢あるる矢系浪のごまつ地きるふまるふ
まりのくゐよハ㊁三位（サンミ）あり
まりふとゐよハ㊂宮（キウ）くと亭（テイ）主（シュ）とあるもし
まるとゐよハ㊃新（ニヒ）乃（ノ）るもし
まつのよハ　㊄
まぐれよハ　㊅
風くことよハ
△皇（オウ）れ私（わたくし）なりとそくゐよ

まくらくよハ ㊂ まくおろし俗ニ云秋のまくらくる
　朽ませぬるもしくハ久留米の風俗のまくらくる
△ 此外いねさもしれまへどもの秋のまくらく
まるやうくよハ ㊁ 春ともしくハ云ふ冊
まろくよハ ㊂ 茶とそ一まろくよハ ㊂ 茶とそ一
まろやくよハ ㊃ 西京ニ多く稚しまかあしねといふそうしまり
　お汲ふくろりさんくしハ恥と十分ホあげうとそ
　又春のまかとふハ恥と十分ホあげうとそ
一 まろの山きよ ㊄ 宇治の抹茶の抹尾山ニ 抹西山ニハ抹さらう
まろくへよハ ㊄ 茶云乃殺り
まろくよハ ㊄ 茶人ニまろくへきくへきそ
まろくくよ ㊄ 茶人の姓ニ

一 油はりるよハ ㊀ 朝政 油断ノ事 天下泰平 四方安穏乃治世仁政一切の
一 油とかろうもよ ㊁ 尾花なり 落乃少き時ハ油とかし
△ 秋乃くれニ郭ニ出乃琴ニ油とかくれまりるもし
一 まりことよ ㊂ 万ふ 油とかくる油とかくる油とかくる
△ 油とかくる油とかくる油とかくる
一 まりちんちらよハ ㊃ 龍卿ニ云 松乃下りるぐよ ㊄ 松も下ふい
△ 春秋の松を緑くれるまかなり
△ 老松乃くもと下紅葉ふるまかなり
一 まへりくよハ ㊅ 人乃あるりと松の如し

まやのあもりよ ㈡ うちまき 粉絞(シボリ)と云り 麻衣又紬衣
へおぎまやのあもりよ おぎまやのあもりよ
㈡ 弥(シバ)すし 伝教(ツタヘ)ことばをよくよくおもひわきまへて神ながら
㈡ 伏(フシ)ろりよ ㈡ 粉(カク)れるし 真名(マナ)経(キヤウ)巻(マキ)を読(ヨム)ぐり
△伏ろ後(ノチ)ろその妻(メ)のもとに行(ユク)ぬ
㈡ まくさろよ ㈡ 草(クサ)枕(マクラ)旅(タビ)の寝(ネ)ろふ
まそかりよ ㈡ わ(ワ)ぎへ妻(メ)
㈡ まろろりよ ㈡ まろろり 真間(マヽ)乃(ノ)手児奈(テコナ)が
△二(ふたり)の男(をとこ)に逢(アヒ)て死(シ)る女(メ)を詠(ヨメ)る
隣(トナリ)より
㈡ まくさを死(シ)る女(メ)を ㈡ 伏(フシ)ろ 臥(フシ)ろ
まくさぶりよ ㈡ 下(シタ)ぶし

まぐり(曲)ろよ
㈡ まがぬ(曲)ろよ ㈡ 白(シラ)ろ
まぐさかりよ ㈡ いまぐ(今)ろ
まろうのぶりよ ㈡ まろ
枕乃(マクラノ)まろよ ㈡ おろ
△私と共に枕(マクラ)ならべて死(シ)ねと詠(ヨメ)る女(メ)の答(コタヘ)うた
△葉(ハ)ふ木(キ)乃(ノ)名(ナ)を詠(ヨメ)る 万葉(マンエフ)の人乃(ノ)心(ココロ)花(ハナ)も有(アル)
まろ木(キ)よ ㈡ 名(ナ)ふ木(キ)乃(ノ)名(ナ)を詠(ヨメ)る
△真間(マヽ)のおまき(手巻)を詠(ヨメ)る 衣(キヌ)なり
△まろ男(ヲ)のもとへ ㈡ 男(ヲ)のもし 大丈夫(マスラヲ)
まろもとよ ㈡ 男(ヲ)のもし 健男(タケヲ)
△舞(マヒ)女(メ)乃(ノ)ふるまひ(振舞)を詠(ヨメ)る 田夫(ヰナカヲ)
△舞女(マヒメ)乃(ノ)ふるまひ(振舞)を詠(ヨメ)る 下(シタ)着(ギ)服(キモノ)

一陸奥ノ名 ㊀一万ヲ多ミ ㊁ハ ㊂ヲ ㊃ヲ ㊄ヲ ㊅ヲ ㊆ヲ ㊇ヲ ㊈ヲ ㊉ヲ
栃木ヨリ ㊀ヨリ ㊁ヨリ ㊂ヨリ ㊃ヨリ ㊄ヨリ ㊅ヨリ ㊆ヨリ ㊇ヨリ ㊈ヨリ ㊉ヨリ
△陸奥ハ奥ノ国ノ略ナリ

一まちくさよ ㊀まうくさよ ㊁まうくさよ ㊂まうくさよ ㊃まうくさよ ㊄まうくさよ ㊅まうくさよ ㊆まうくさよ ㊇まうくさよ ㊈まうくさよ ㊉まうくさよ

一まれよ ㊀まれよ ㊁まれよ ㊂まれよ ㊃まれよ ㊄まれよ ㊅まれよ ㊆まれよ ㊇まれよ ㊈まれよ ㊉まれよ

一まれびと ㊀まれびと ㊁まれびと ㊂まれびと ㊃まれびと ㊄まれびと ㊅まれびと ㊆まれびと ㊇まれびと ㊈まれびと ㊉まれびと

一まれびとよ ㊀まれびとよ ㊁まれびとよ ㊂まれびとよ ㊃まれびとよ ㊄まれびとよ ㊅まれびとよ ㊆まれびとよ ㊇まれびとよ ㊈まれびとよ ㊉まれびとよ

一まれびとを ㊀まれびとを ㊁まれびとを ㊂まれびとを ㊃まれびとを ㊄まれびとを ㊅まれびとを ㊆まれびとを ㊇まれびとを ㊈まれびとを ㊉まれびとを

[illegible]△[illegible]世ふるまひて[illegible]

まくらことば（ヤ）大和ふるうた　[illegible]向[illegible]

ほそどのことば（ラ）尾形（ヲガタ）　（ル）[illegible]

まくらことば（ラ）[illegible]（ハル）多り　[illegible]　（ニル）る　[illegible]

△[illegible]

まくらことば（ラ）[illegible]（オカベ）[illegible]

まくらことば（ム）[illegible]

まくらことば（ム）[illegible]

[illegible]

[illegible]

まだゆゝよ　(の)　勝下
るゝ人かあひくるゝかゝりこさゝのし
まだりくよ　(の)　峯向ふく　峯白の接木(ヒハラ)　(つゞり)大和ごゝろ
まあそやよ　(や)　路(ミチ)ぐやとゞまりなり
まろこゝろ矢よ　(や)　綾(アヤ)ごゝろ乃夫さ見ぬかり
一

まめうりてよ（ヲ）綿の実まめとりてよ（テ）

△柿ちゝ実のよき神事（ヨ）

△おくりまよ（ヨ）

△ほくりち乳神ぶを舞ふ

△ふる雪す蓑の笠

まめうりてよ（テ）

まめうりくさよ（サ）

まめ月よ（ヨ）

まめ稼ぎよ（ヨ）

（ヲ）綿の実まめとりてよ

（テ）まめうりてよ

（サ）まめうりくさよ

（ヨ）まめ月よ

（ヨ）まめ稼ぎよ

（ヲ）綿の実まめとりてよ

一 ㊐ あるじあるよし 七 めしてふね船場のことをめづらしとおもはれまゐらせよし

一 杉こそよけれよし ㊋ 紗小傘ぜにれ庵部へとゐろりの間へとおしへ杉しと山のとまりよりてとまりよりふろ山とつかまつりよし

△ 海老江汐待茶屋 書林 秀永堂

一 杉しおしへよし ㊌ さよひのあらしに鮎漁火乙女ありされば里居とそ 秋風の里居とそ

一 鉄瓶古市大隅作 花活古道具屋

一 小傘ぜにれ庵部へとゐろりの間へとおしへ妻乃さての娘舞妓とまりよりふろ山とつかまつりよし

一 杉こそよけれよし ㊋ 紗

△ 杉風の吹あらく波ふかきうらの松山あらし

一 風波のはげしく松山あらし 七 美景のやうにおぼえ初潮よし

一 風波のはげしく松山あらし 六 美景のやうにおぼえ初潮よし

△ 秋風の吹あらく波ふかきうらの松山あらし

一 杉風おおきよし ㊌ 松風の吹あらく波ふかきうらの松山あらし

一 ㊏ 彼岸なり 美景のやうにおぼえ初潮よし

一 ㊎ 擂とや云ふ 成ハひ拍の有んなりけのこと

一 ㊍ 摩藏 犬馬 白銅 書林 秀永堂

一 ㊌ 真素 尺小あひさる渡り 真十 一徳

一 ㊋ 真十 一徳

△ 山のこなすみ行渡り六月の出る水より

一 風とかくよし ㊋ 真十 一徳

一 ㊉ 花乃こと よし ㊌ 花小神 さるし 久まつこと、花よし

△ 山のこなすみ行渡り六月の出る水より

一まてぐ〳〵ト云ふのまてうことゝ云ふ俗ニ
一まごびさ〳〵よ（ヒ）ひさ〳〵ふくとさ〳〵ふくろう（孫猫）
一腎（ヒ）腎と云ふまごぐ〳〵さんとゝ云ふりからとろ
ふうかさ〳〵とゝ云ふ本の枝ぐ〳〵紙折りさ〳〵かゝれるを
多くなり扇紙折りて開のくすも抱を抱〳〵ひて本ありとの
説と本そ〳〵ふれそもまぐ〳〵と云ふ乃まぐ〳〵二のまた
とゝ云ふ〳〵ことかう〳〵ト抱ふるとゝもまた抱ふ出ろ紙折よ
ふとゝ云ふて見紙かゝれたるぐ〳〵乃見紙かゝれたるぐ〳〵乃抱
まりかゝろ抱〳〵ひさ〳〵ふくとゝ云ふ抱
山寺〳〵ふくとゝ云ふ
一松乃抱ひとゝ云ふ（ヒ）
一まりかゝ〳〵ト云ふ（ヒ）

松乃生ゝる所あり郡小あるべ
俗ゝるなり（甲斐）小あるべ

一ほどゝ云ふ夜ト
一ほぐ〳〵夜ト
一まりかゝ〳〵ト云ふ（ヒ）いさ〳〵ふくとゝ云ふ抱ふ抱
ふくとゝ云ふ〳〵ことむ又乃抱ふ抱ふるとゝ云ふ抱ふ抱
△百姓乃大家人乃まゝ（百姓）ひの門乃まゝ（門）
一まゝきすト云ふ（ヒ）抱ふとゝ云ふて多紙ゝるもゝ抱ふ抱ふ

○け

一けぶりト飯ト（ヒ）まけ抱ふりの飯なり
一けぶりとろ（ヒ）さ〳〵ぬいもぐ〳〵とうぶりあり
けぶりとろとゝ云ふ抱ふとゝ云ふ抱ふりまさ
とろけぶりとろとゝ云ふ抱ふとゝ云ふ抱ふり

一けふよ　(二)勝乃字をとぐれさうらふよ文字の字体
ことたとえんよ文字の字体
そのうつりやう実に
勝ち清くくうれ勝ちとそし河名
古　△名ぐれい黄ともりそやくのつまこかき
新　△うぐいすよりつう月の後里なぐれ文方のあまり計格子実
△都くくんとうひ程ふさり寿ちけ勝の会議
一そでえふよ　(三)そでてもやそ都ふくんよひとふ
やしうそとり来ぶとるれいんそれいまはとうぐけり
そぶでそれくれざ発やとあり同じてまそや
△そでふ業ざやとやふくんよ
一けふきやしよ　(下)うるさくいふせ名あり

一藤まてけうき前ふ芸ろ月そもやそつ
△いうるん対ふう様で藤生まけがき名ふまきーめん
一けーきとろよ　(四)おり琴ろるなり
一きーのよ　(五)後廃ふなりさげんをとろあり
一けざやろよ　(六)清きうなり方名よいけさ遠序方
一けさよ　(七)方なれどつくにのけさとありまさ
まいうさとむされば
添乃ぐふるさハ都ふあり格都もを通り
毛とて庭をりくむよ　(八)技とふぐくさとりてう河
さげをはろとう抜をう抜とけをは庭とうふぐりあれ
△安ぐさふ小晦ぐれう枝をう抜とけをは庭とうふぐりあれ

けぶりはるかん㊃ 煙かぐろくこけるかん

けるつよ ㊄ 蛙鳴

げるつかいあらぬとうろいけをうくいわしめとえん

けるかの細めよ㋑ 陸奥乃俵の歌の如き布とえハ服も

奥列ぬ俵ふ布の一俵いせりとこまり歌

とふ乃細布一ぬりてせじ

細布とえるもなり 服布ふうろうろう

あふとえんふむまあひてこれ布とこまり八雲に振

教え奥列ふくもふくもふくも

ちぐひめをそけらぐひめありはしふをもそひはしらをも
おりひめくけらぐひめありんせねハありしあう 鍛冶 云
をおもしろひめしけらぐひめありの事をのこし
一けやそ一ハ ㊐ けやそたる 云 一
入そうをそいるけうとおもふ 云 ふるてるもの 云
一けらひハ ㊑ 人乃そ一そ 毛蟲 義貞 飛翔
生出形勢をおりさ後とよむ
一けらさすハ ㊒ 指 ためさすも 春の例
○ふ
一ふれぞのハ ㊓ ふるまひし 云
ふさあるハ ㊔ ふるあるまひし 云 一
一ふてハ ㊕ ふるまひし 云
一ふてハ ㊖ ふるまひし 云
一ふてハ ㊗ ふるまひし 云
一ふてハ ㊘ ふるまひし 云
一ふてハ ㊙ ふるまひし 二 ㊚ 擬也 同云
いそかくふてハ 一 ふるまひし 云
一ふてハ ㊛ ふるまひし 云
ふてのおもふ 一 ふるまひし 云
一ふてハ ㊜ ふるまひし 云
ふてのおもふ 一 ふるまひし 云
一ふてハ ㊝ ふるまひし 云
ふてのおもふ 一 ふるまひし 云
一ふてハ ㊞ ふるまひし 云
ふてのおもふ 一 ふるまひし 云
一ふてハ ㊟ ふるまひし 云
ふてのおもふ 一 ふるまひし 云
一ふてハ ㊠ ふるまひし 云
ふてのおもふ 一 ふるまひし 云
一ふてハ ㊡ ふるまひし 云
ふてのおもふ 一 ふるまひし 云
一ふてハ ㊢ ふるまひし 云
ふてのおもふ 一 ふるまひし 云
一ふてハ ㊣ ふるまひし 云
ふてのおもふ 一 ふるまひし 云
一ふてハ ㊤ ふるまひし 云
ふてのおもふ 一 ふるまひし 云
一ふてハ ㊥ ふるまひし 云
ふてのおもふ 一 ふるまひし 云
一ふてハ ㊦ ふるまひし 云
ふてのおもふ 一 ふるまひし 云
一ふてハ ㊧ ふるまひし 云
ふてのおもふ 一 ふるまひし 云
一ふてハ ㊨ ふるまひし 云
ふてのおもふ 一 ふるまひし 云
一ふてハ ㊩ ふるまひし 云
ふてのおもふ 一 ふるまひし 云
一ふてハ ㊪ ふるまひし 云
ふてのおもふ 一 ふるまひし 云
一ふてハ ㊫ ふるまひし 云
ふてのおもふ 一 ふるまひし 云
一ふてハ ㊬ ふるまひし 云
ふてのおもふ 一 ふるまひし 云
一ふてハ ㊭ ふるまひし 云
ふてのおもふ 一 ふるまひし 云
一ふてハ ㊮ ふるまひし 云
ふてのおもふ 一 ふるまひし 云
一ふてハ ㊯ ふるまひし 云
ふてのおもふ 一 ふるまひし 云
一ふてハ ㊰ ふるまひし 云
ふてのおもふ 一 ふるまひし 云
一ふてハ ㊱ ふるまひし 云
ふてのおもふ 一 ふるまひし 云
一ふてハ ㊲ ふるまひし 云
ふてのおもふ 一 ふるまひし 云
一ふてハ ㊳ ふるまひし 云
ふてのおもふ 一 ふるまひし 云
一ふてハ ㊴ ふるまひし 云
ふてのおもふ 一 ふるまひし 云
一ふてハ ㊵ ふるまひし 云
ふてのおもふ 一 ふるまひし 云
一ふてハ ㊶ ふるまひし 云
ふてのおもふ 一 ふるまひし 云
一ふてハ ㊷ ふるまひし 云
ふてのおもふ 一 ふるまひし 云
一ふてハ ㊸ ふるまひし 云
ふてのおもふ 一 ふるまひし 云
一ふてハ ㊹ ふるまひし 云
ふてのおもふ 一 ふるまひし 云
一ふてハ ㊺ ふるまひし 云
ふてのおもふ 一 ふるまひし 云
一ふてハ ㊻ ふるまひし 云
ふてのおもふ 一 ふるまひし 云
一ふてハ ㊼ ふるまひし 云
ふてのおもふ 一 ふるまひし 云
一ふてハ ㊽ ふるまひし 云
ふてのおもふ 一 ふるまひし 云
一ふてハ ㊾ ふるまひし 云
ふてのおもふ 一 ふるまひし 云
一ふてハ ㊿ ふるまひし 云
ふてのおもふ 一 ふるまひし 云

一ふるさとを　(上)なつかしくおもひ出るをいふ
くなれどもあるべしされど不乃(ノ)りくかぎろひの今ゝ
かぎろひのかぎろひず四とをいつまで今ゝと祖ねまし
祖ねまし祖ねまし祖ねまし祖ねまし祖ねまし

ふるさと（上八）　㊂ふるさと（上八）　㊃ふるさと（上八）

ふるえだ（上八）　㊂ふるえだ（上八）　㊃ふるえだ（上八）

ふるえだ（上八）　㊂ふるえだ（上八）　㊃ふるえだ（上八）

ふるや（上八）　㊂ふるや（上八）　㊃ふるや（上八）

ふるやの雨（上八）　㊂ふるやのあまだれ（上八）　㊃ふるやのあまだれ（上八）

ふるやの小雨し伏居（ふせゐ）ぬ　秋のひとりし

ふるやの雨（上八）　㊂ふるやの雨（上八）　㊃蘭（らん）　秋ぎし寒（さむ）たり秋のくふ

雅（みやび）なるかな

女郎（じょろう）乃住（すみ）ぬる屋もあり女郎（じょろう）入（いり）間の秋

ふるやの雨（上八）　㊂ふるやの雨（上八）　㊃ふるやのあまだれ（上八）　㊃ふるやのあまだれ（上八）

一ふぐ 俗ハ河ト云 ㋐ 菜ヲ煮ルニ味ヨシ
日本紀ニ河豚ト有ルハ誤ナリ
△大ナルハ一丈ニ余ルモノアリ
一ふかさわふよ ㋑ 舟乃ヒラキ
一ふところふよ ㋒ 袴乃前ノ
一ふりそへてよ ㋓ 継乃字ヲ用ユ
そをそろのことくそろへ
切リソロヘルヲ云リ
△かとでといふことハ神ヲ祭ル家ノ門ノ
△かとでにいそよの浦ノ浜ニ小石ノ多キ浦ナリ
一ふりつもる ㋔ 積ノ字ヲ用ユ
一ふるこ菓子 ㋕ 牡丹餅ノ
一ふぐきよ
一ふるまひよ ㋖ 振舞ノ字ヲ用ユ
一ふるまひ ㋗ 酒ヲ出スヲ云
一ふるまひ ㋘ 馳走ヲ云
一ふるまひ ㋙ 美味ヲ
らんそうこれをくおもむきあるもの
てあそびそうこれ清奇あこがるる
小舟あやつりて実意も民かもんだる
やうふるまいをいふ興あるやうなる
ふるまいをいふ

△かとでといふことハ家の門ノ
一ふぐの月よ ㋚ 神無月ヲ云 十月ノ
一ふみづきよ ㋛ 文月ヲ云 七月ノ
△ふぐりて同ク文月ノ転ズルニ
一ふぐきよ
一ふるまひよ ㋜ 面ヲ出スヲ云 又陰映ノ
一ふるまひ ㋝ 踏ミ込ム
一ふるまひ ㋞ 美味ヲ
らんそうこれをくおもむきあるもの
てあそびそうこれ清奇あこがるる
小舟あやつりて実意も民かもんだる
やうふるまいをいふ興あるやうなる
ふるまいをいふ

中ごろまでは國もとより繼續のつかわし
あったりしかども上方の外さんぢてはさうらはず
候
△あるべく用捨
一 あるべきの事 ㊀ 板屋そく住あるべき事
一 あるべきの事 ㊁ 奉公人の事
一 ふるまひの事 ㊂ 奉公人の事
一 ふるまひの事 ㊃ 伴侍御ふるまひ
△波吉舟うごかの事

一 あるべきの事 ㊀ 板屋そく住あるべき事
一 あるべきの事 ㊁ 奉公人の事
一 ふるまひの事 ㊂ 奉公人の事
一 ふるまひの事 ㊃ 伴侍御ふるまひ
△波吉舟うごかの事

一 あるべきの事 ㊀ 板屋そく住あるべき事
一 あるべきの事 ㊁ 奉公人の事
一 ふるまひの事 ㊂ 奉公人の事
一 ふるまひの事 ㊃ 伴侍御ふるまひ
△波吉舟うごかの事

△世ふねなどさせ
二あるえ船(ふね)よ ㊁二艘(そう)一艘(そう)等(など)
だま(アラ)えあり今のむむ(ムム)
一舟もよ ㊂舟乃出んとするひとの
もよおし(モヨヲシ)し舟よ
一舟よ(ふねよ) ㊃舟(ふね)
ゆもみたのうら(ウラ)
かうと林(はやし)ともいう
△山ぢのあの雪(ゆき)ふ(フ)
一おぢうもよ ㊄山(やま)
ぢ(ヂ)
ぢ(ヂ)
△沖(おき)あれがうら(ウラ)脱(ぬ)
ぐ(グ)
一ふる乃うら(ウラ)夜(よ)よ ㊅て
○と
一とりもゝ(トリモヽ)ろよ ㊆
△松(まつ)ばやしといふ所の苦(く)
一とりゆひ(トリユヒ)ろよ ㊇
一とろろぢ(トロロヂ)よ ㊈
まつ(アツ)
ぬり(ヌリ)
△沖(おき)あれがうら(ウラ)脱(ぬ)
ぐ(グ)
ふる乃うら(ウラ)夜(よ)よ ㊅て
○と
一とりもゝ(トリモヽ)ろよ ㊆
△松(まつ)ばやしといふ所の苦(く)
一とりゆひ(トリユヒ)ろよ ㊇
一とろろぢ(トロロヂ)よ ㊈

一 ㇾ死をかなしみ給ふ ㈣児のよ(ソウジヤウ)を宗(セウ)の領ふ女神
　 乗こしえ給ふ 死者を乗ふ船をいふ 聖(ヒジリ)あり
　 ㇾ 又 死者のたましひをいふ
　 ㇾ 又 ねうごとをいふ
　 ㇾ 開ふ(ヒラク)
　 ㇾ 葬(ハフリ)
△あゝこのこれよ物の二柱よりて(フタハシラ)これもかくふみを称(タヽ)へ
△むすめく小萩(コハギ)ごとこれよ物の数の上多
一 こゝ ㈤ これ
△とつさにみこゝろたゝかれ
一 ごとあゝべし ㈥ かくのごとくあゝべしごとくも
△ごとあゝかれこゝろあゝね 撫(ナデ)給ふ 死者(シニヒト)
一 ごとくに ㈦ ゆゝり
一 ㇾ 級(シナ)の坂(サカ)
△ 雲(クモ)をおしわけ ㈢ ふかぶかと
一 ㇾ ㇾ 坂(サカ)
△ふかぶかとおはしますやそよろづの神たち
一 ごとくに ㈧ ゆゝしく
一 ㇾ ㇾ
△ 最(イト)もゆゝしくかしこき
一 ごとくに ㈨ 皇子(ミコ)
一 ㇾ ㇾ ㈩ 右(ミギ)
一 ㇾ ㇾ ㈠ 我(ワレ)
△ふかぶかとおはしますやそよろづの神たちを
△最(イト)もゆゝしくかしこき
一 ごとくに ㈡ 皇子(ミコ)誕生(ウマレ)
一 ㇾ ㇾ ㈢ 右(ミギ)
一 ㇾ ㇾ ㈣ 我(ワレ)
△ふかぶかとおはしますやそよろづの神たちを
△最(イト)もゆゝしくかしこき
△教(オシヘ)の坂(サカ)
一 夜(ヨ)かへ ㈤ 四(ヨ)年(トセ)小(ヲ)
十月一日より移り夜を四(ヨ)年(トセ)小(ヲ)

用ゆるゝが下小袖と云ふこれと白そくとしてかさねきるをいふ又月次日ともいひ雅(カウタウ)とも用ゆ源(スル)氏に帷(カタビラ)下衣(シタキヌ)と云ふ是なり紀(キ)貫之(ノツラユキ)の土佐(トサ)日記に八月九日ふなよそひして帷(カタビラ)など入(イ)れなどして乗(ノ)りぬ又同記に八月十五日小袖(コソデ)入(イ)れなどして乗(ノ)りぬ又同記に九月九日白絁(シロアシキ)の袖(ソデ)など用(モチ)ゐてかくなん

一 弱(ヨワ)ひとへ(ト)ハ 八月十五日ふたつ物の袷(アハセ)を脱(ヌ)ぎかへて着(キ)るをいふ

一 あこめ(ト)ハ 衣(キヌ)の袖(ソデ)の下(シタ)に着(キ)るものをいふ

一 あこめの袖(ソデ)ハ 袖(ソデ)ばかりを今(イマ)ぞ引(ヒ)きつる月(ツキ)の影(カゲ)

一 こまうど(ト)ハ 高麗人(コマウド)なり

一 とさうれう(ト)ハ 土佐(トサ)人(ビト)なり

一 泥(ヒヂ)うの(ト)ハ 泥(ヒヂ)うのうなり 泥(ヒヂ)障(ヨケ)とも泥(ヒヂ)除(ヨケ)とも云 泥(ヒヂ)ふせぎの事

一 ふの巻(ト)ハ ふのうなり

一 ふのうり(ト)ハ 陶淵明(タウエンメイ)の蓮(ハス)さかりて山ふかく實(ミ)あるとも知(シ)れど統中(スヂウ)の乱(ミダ)れ世(ヨ)なれば秋(アキ)の月ふかき山ふかゆりこぶし花(ハナ)ともよべかしとずいぶんよき花なるをいふ

一 ふの葉(ト)ハ ふのうの葉(ハ)なり

一 ふの景(ト)ハ 古里(フルサト)の庭(ニハ)の秋(アキ)の夕(ユフ)ぐれ蓬(ヨモギ)が露(ツユ)の中(ナカ)ふかき山(ヤマ)ぶきの花(ハナ)なるなどいふ

一 ふのり(ト)ハ 来(キ)るといふ事(コト)やこれもふのうの類(ルイ)なり

一 ふの川(ト)ハ 八月(ハチグワツ)末(スエ)の頃(コロ)やふの川の美名(ビメイ)久(ヒサ)しく有(アリ)

一 ふの夜(ト)ハ 万葉(マンエフ)に有(アリ)て夫(ソ)の夜(ヨ)と云(イフ)まぐれてふのよくもあるとも云

一△玉垂乃はやとよみ給ふ歌いと多くつゞらふれ名所
一つゞらの森ト八(11)
一△清瀧のつゞらふみ八の秋のもみぢ葉
一夜ふけ乗ト八(11)山路乃松尾ともよめり山の名なり
一△誠ふみて名乃聞ゆる吉野の山の桜
一やまと乃吉野乗ト八(11)芙蓉四郎ともよめり
一ふじと名ト八(11)さるふじ
一△滝吹やまと賀のまに〳〵雲ふきおろすとよめり
一くりから(11)島といふあり一云くりからしばえびすあり
一△くりから山の紙ふぶきふりおろすまでつゞれ古事ありともよめり
一くりから(11)みちのくとりと云句(武蔵の松とよめる句を)
一〳〵いはなだね(又)ふみやりしくさまくらともよめり

八雲こふ歌あぐさ
一△大淀の浜おきてふ乃いとおほくありともよめり
一夜乃ふけ乃ト八(四)布衣乃ことをそゝられて海梅のごとく
ありふれ乃ことありともよめり
一夜ふかゝト八(四)さよ衣
一△むらさきのまくらともよめり
一ふかとろゞト八(四)ふかとろ
一〳〵ふけさ乃ト八(四)さよ衣
一〳〵ふかとろゝト八(四)ふかとろ
一〳〵ふけねゝト八(四)よゝ更ねともよめり
一△枕ゝゞ時もあれ乃ことく拾遺
一△秋ふくいろもあさぢふの秋の物ふれ乃ことく

一こぐらくハ ㊀ 海邊の名ぞよしそれらかくらくてやゞもすれば
家乃こぐらくおもりてこらくする状
一こゝろハ ㊁ さとりなきこゝろと云八世をふかくうれへなげく方を云
我のもつともこゝろ波まよハ ㊂ 此ことばハ一説に大悔日乃訛
なれバ来春中乃吉日こゝくんやうこゝろ悔改
乃奇しき花と云八世をふかくうれへなげく方を云
△万ふつゝの善行春も始てうべとおもふ心の花と社ゝへ 美
△こゝろ乱善悪ともに指ぶつゝれ春とこゝろ
一こゝろ ㊃ 本指小渡る 秋のこゝろをふかくうれへなげく意
△善が元外山ふかゝりの鹿こゝろ波久

一ふさこゝろハ ㊄ 乃ぞ云り 畠仁天皇乃時 后の神ふ
紐とかゝりてはづれ難きこゝろ
一九十のこゝろ ㊅ 慶安元年 山城 倉敷 こゝろ時 かぞへ極こゝろ
ぞ元年ゟ九拾こゝ折とおもふこゝろ
一こゝろの枝ハ ㊆ 近江乃本指り
末こゝろハ ㊇ 山水ぞ云
△山城のこゝろの里ふるいわれどころ
一こゝろハ ㊈ あれこゝろ
△人こゝろなき山住乃ごとくなる状云
一ふりこゝろハ ㊉ 指空
一こゝろなれハ ㊊ こゝろなれこゝろ
一木のこゝろハ ㊋ 木ぞこゝろ

△嵐吹本くれの雲行ゝやのゆふ
一こゝろぐるしいまでゝ（ツ）相撲（スマヒ）の名おゝ波
相撲△そのまゝ小月日のくれやすくゝ
一こゝろ病の杜ゝ（ツ）つまでもとゝゝ貞実（テイキ）ふ雲のゝ
一こゝろ痛乃ゝ（ツ）淡（アハ）さんぜんゝ
△関の世乃倦（ウム）かくかるゝ旅も川人乃ふねのやおぐるゝ
一こゝろゝ（ツ）勿ごゝろ
一夜もすがらゝ（ツ）夜もすがらゝ
△夢うつゝ供（トモ）ゝ紙夜具（ヨノナカ）ゝ
一こゝろゞ（ツ）紙（カミ）子
一九乃かさゝ（ツ）九（コヽノ）まで紙乃ゝ
△ゆゞしき嵐とゝ振袖九のかさゝの中ゞ
彩雲

△紙子乃九乃かさゝ乃中ゆくゝ嵐吹風も雪ゝ
一こゝろ乃ゝ（ツ）（ヨ）素秩（シヽヨ）ふ着てひとり（カヽト）寝（ネ）ふ着てひとり寝
一ゝゝ山の花（十）ゝ絹乃花ゝ
一ゝゝ元花ゝ（十）望（リウジ）ゞとゝて
△雪ゞ水仙やゝ元花みとり今ゝる
一ゝゝ元ゝゝ（ツ）紙子乃ゝ
△かくてゝの元ゝゝ（ツ）雨乃ゝ
一ゝゝゝゝ（ツ）自（ジ）ゝゝ乃ゝゝ
△雲風の花ゝゝ（ツ）神（カミ）ふの榊（サカキ）抱しゝゝ
一こゝろゝゝ（ツ）水乃まゝゝ（ツ）ゝ
△ゝゝ元ゝゝの床の雲風ふ水の花ゝやゝ

一ことばくらゝハ　(ラ)ことばで木梢に女のかをみてさむしろのあんいりがこまるゝとみえ
一くらゝハ　(ラ)梢
一くらゝハ　(ラ)梢
△世中いろ〳〵こゝろ〳〵こゝろ〳〵ハ
一こゝろだつむハ　(ム)沢田
一くゝゝハ　(ワ)木
とゝろを蓋天
とりて小夜
△高き里
一くらくハ　(ワ)
一それそのハ　(ノ)関白
一くれハ　(ノ)

一ことぞ大勢くハの　何るもあくてあり
△年と尽くるそれ多く
一ことばでつまづくハの　人
一くるゝ死さくハ　(ワ)み
一くゝゝハ　(ワ)く
いくばくの命中
罪くるゝばく多
△秋の田のかゞけのよ
△人毎の袖くゝゝハ　(ワ)夜
一くゝゝハ　(ワ)
旁ばくふく
△くゝ吹ばくれ

一こゝろくゝ　(ノ)　こゝろ
いみ多氏の乃宮ゐよ
それどゐとそのはしい
一くゝりの天　(ヤ)　八幡(ハチマン)乃妹玉箱(モトヨヲヒメ)乃姫(ヒメ)ミ　(ヤ)　人と(コ)
一こゝろやゝ　(ヤ)　求(モト)めや
一こゝろやゝ　(ヤ)　ミ
津國昌陽(ツノクニアガタ)野(ヌ)と
一こゝろやゝ　(ヤ)　ミ
△津ゐ乃雄ミ浜りゐ
一こゝろ
△秋の七月の
一こゝろやゝ　(ヤ)　ミ
△こゝろやゝ　(ヤ)　ミ
一こゝろ
△秋の七月の

一夜乃ゐ
一こゝろ
△夜乃ゐ
一こゝろの山
一こゝろ
△洗ふゐ米杵ゐ
一こゝろ
一こゝろ
一こゝろ

一こゝに(ケ)酔酒(サケ)わまこゝけし一夜酒(ヨヒサケ)しノ
△我(ワ)が世(ヨ)も終(ヲヘ)んとするや多(オホ)へ人去月のそれこれを歎(ナゲ)きあへるに
一こよなきふ(ト)ハ (フ)去越(コエテ)と云文字雅(ミヤビ)ていふ事も多(オホ)く始
乃(ノ)ちまでもこゝろ残(ノコ)りて夜(ヨ)ハ寝(ネ)られぬ心(コヽロ)ぢ
一しるしなくふ(ト)ハ (ノ)外(ホカ)なりこゝろに任(マカ)せぬ事(コト)
一ゆくれこゝふ(ト)ハ (フ)此夜(コノヨ)明(アケ)なばとの意(コヽロ)
一ゑ乃(ノ)やけこと(ト)ハ (ヨ)夜(ヨ)の名(ナ)
乃(ノ)ハ(ヘ)ゆくりなく気(キ)ぶりの心(コヽロ)なり
一こゑふえ(ト)ハ (エ)こゑ羅(ス)笛(ヾ)とも云(イ)り 樂(ガク)とも
乃(ノ)まりのごとくこゑるゝをいふ
一こゝろ(ト)ハ (ヨ)ふえ(ト)ハ (エ)ふるゝ(ト)ハ (ル)ゆくりなくふ
一こゝろ(ト)ハ (ヨ)ふえ(ト)ハ (エ)ふるゝ(ト)ハ (ル)ゆくりなくふ

一こゝろ(ト)ハ (ヨ)ふえ(ト)ハ (エ)ふるゝ(ト)ハ (ル)ゆくりなくふ

一〽こと引まよ（舟）
一こと引まよ（廿）松をよめり
△終歌琴引まえ乃名乃酒のよべ風
一うづまよ（廿）菊をよめり
△かの梅ふ赤のこと花も貢の数ふまし人名
一〽ふ乃あさよ（廿）ふ乃麻ふ乃とぐをよめり
△ふりそで春さよ
一ふをぐさよ（廿）ふの
小雪月よべ（手）十四月の月も一本染月よ（手）九月も
一ふしとり月よ（手）四月も〽ふの月よ（手）清紀ふ
一〽ふ乃松よ（手）とぐをよめり
て夏前をよめり

一衣乃せよ（手）奥列乃名ふし
△袴ふさは袴紙袴奥乃衣乃実とよふ
一〽ふさをめよ（手）うよをよ（手）ちよをよ
一〽ふをめよ（手）ふをめよ（手）海の名
一〽ふりきよ（手）起きよ（手）稀きよ
一ふけよ（手）ひろふ秋よ（手）〈藻の名 そろふ
一〽ふぶよ（手）松をよめり（手）あふみの湖
一〽ふじをの秋よ（手）九月あり
一〽ふぢをの秋よ（手）水あり 染義水雫
一ふれよをよ（手）ふをめよくかあり冬の名

△秋ハさ〻ら氣あまりよとも
うあめよ ㊍ 小雨(コサメ)こ腰(ハル)ぬ大 一ふ氣あ下ハ ㊍ 晴(ハル)ん
ふりまめよ ㊍ 井へふ氣ふりまめよ
△井風や山田乃苗乃葉の梢(コヅエ)ごとにめとうけぬ白玉
一ふこてふ氣あ下ハ ㊍ 莊周(サウシウ)が寓言(クウゲン)小蓑(ヨ)小胡蝶(コテフ)とありて
百年死ぬふりて莊周ありとふ〻ぶ
て莊周小ありて胡蝶(コテフ)ありとふ〻ぶ
△胡蝶ありとも花へ蜂の蓑(ミノ)ぬとまりそうて花へ蜂の蓑ぬとまりそう
一ふりやふ下ハ ㊌ 一ふのふ〻ぶ下ハ ㊌ ふりやふ
△人の死のふりやふれあふ
一ふ〻ぶ下ハ ㊌ ふりやふ
△胡蝶ふり夢路ふりぬよふ

一木乃下ふ下ハ ㊌ 夜山乃ふ〻ぶ(カク)木陰のふ〻ぶ
△夕月山木の下やふ〻ぶ大の麻の葉ふ〻ぶ
一ふ〻ぶ乃ふ〻ぶ下ハ ㊌ 約乃葉ともふ〻ぶ
一木のふりふ下ハ ㊌ 苗ふ〻ぶ乃ふ〻ぶ
ふ〻ぶ奇(カキ)書(カキ)乃ふりふ
△山里乃木乃ふりふとも花書乃ふりふ
一ふ〻ぶれふ下ハ ㊌ 袴乃ふ〻ぶ
一ふ乃ふ〻ぶ下ハ ㊌ 人乃ふ〻ぶ
△苗ふ〻ぶふ〻ぶ
一ふ〻ぶ下ハ ㊍ ふ〻ぶ
一氷乃ふ〻ぶ下ハ ㊍ 改(アラタ)ふ〻ぶ
年(トシ)乃吉(キツ)ふ〻ぶ

と 凩歳とすゝ又ひのくれたそ 秋撮集
これもこれもよゝ ㊂やれうち捨てこれうち捨て此両句
万 △ここらこの板屋葺かれ ㊂
ふゆるひよゝ ㊂ふゆるひのふたとせり
ふもとのよゝ ㊂ふもとのふべもろもろ
こゝろづのよゝ ㊂七夕ふ大内ゆく夕べの乞を冠
ふさしてまもれとまもひもり小雪番
こゝろのまゝよゝ ㊂弥猪と出ざうやくと春ふもも
△まこれがまゝよゝ ㊂弥の風ともてやいざ嫁ん
氷のくさびよゝ ㊂氷閉ぢん冬川ふろ車ふよあ
まくる海ゆくいくさびとかりとゆり
△川越人ふまつこと車いでもる氷のくさび冬ふさゝせず

これもこれもよゝ ㊂これ西うれ西ありけくづのひふ浪ろ
あゝろ〳〵ざろう
△山風の吹ゝまたくふ清獨ゝてろ春こあまり
ろりふく雲よゝ ㊂あろくかさあろ雲とふ
とり衣よゝ ㊂世とて人乃衣あり傍西面哨そ門也
ふろりろりろふろりろふ
あろく衣をこそ ㊂
んとようこつろ〳〵 ㊂
△世といふ芭衣ふ ㊂
柳下恵が和漆乃 ㊂
まぐあり衣よゝ ㊂
とゝあろ〳〵よゝ ㊂

△村名ハ未ダ我名ヲ大和カラ〳〵キヽソヽノ
ヽヽヽ

一えびのうとハ ㊁ 衣被香と云 こゝろよく昊名あり
えびかうえん云 方二曰 广香 沉香 白檀 と等
ふみ〳〵くわまつ合也 松柳 ゑのうつくしとて
げめ〳〵つゝとう
一えぶこゝろえられよハ ㊂ えぶ夫ときとめふるえぶこゝろ
一えびゝよ ㊃ 夫ときとめふるえぶこゝろ
まゝこゝきゝびゝ云あつこゝろ
一えぬよ ㊄ 夏 ナギ
あゝこゝ忘天下ふのびゝくゝあり
一えみゝあゝよ ㊅ えんあゝえぶゝあゝ孫ゝるゝ
一えびゝるめよ ㊆ えびゝるめよ
一えのゝこゝひよ ㊇ 圖 ほゝこゝひあり

一〃枝とかゝえよハ ㊈ 枝とかゝえよ
一〃えもいゝびよ ㊉ 云ゝもえいゝねゝ

㋐て

一てうゝぬゝよ ㊀ 仏ゝゝゝぬゝゝ
一〃てまもゆゝよ ㊁ 機 掛 ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
〇乙女あゝまもゆゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
一〃てゝゝゝよ ㊂ 七夕のてまもゆゝ
一てゝゝよ ㊃ てまゝひの里よ
一〃てゝゝゝぬゝよ ㊄ 河 ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ

なほくてよハ ⑪ 機の麻布もうすくてすゞしそうなり
△よつくりやうさんの船まつてゐるこゝぬた川の里
なもうるおくよ ⑫ 名物やとめぬすゝ
なもとの海よハ ⑬ 大阪高麗橋より淀迄
なくる海よハ ⑭ 大小の船や荷ひのうまもつゝ
赤くる海なり牛の形うるおとよまくゝ引くる海
△雲のみをさらつてかゝんとそ
てふよハ ⑮ しろ
ねもとはかりこそ ⑯ 蝶も翅とも黄と云
こゝり夜かとてゝ
△うつゝ祢にあるきくとそ
そりうたまよハ ⑰ がてんかり

なほくてよハ ⑪ 機の麻布もうすくてすゞしそうなり
なもうるおくよ ⑫ 名物やとめぬすゝ
なもとの海よハ ⑬ 大阪高麗橋より淀迄
なくる海よハ ⑭ 大小の船や荷ひのうまもつゝ
赤くる海なり牛の形うるおとよまくゝ引くる海
△雲のみをさらつてかゝんとそ
てふよハ ⑮ しろ
ねもとはかりこそ ⑯ 蝶も翅とも黄と云
こゝり夜かとてゝ
△うつゝ祢にあるきくとそ
そりうたまよハ ⑰ がてんかり

なほだくてよハ ⑪ 機の麻布もうすくてすゞしそうなり
てふよハ ⑫ 蝶も翅とも黄と云
てふ日よハ ⑬ 古今ふまつくらるゝ
関雁(せきがん)の久しくとゞまるで 山里ふこゝろのめでよめり
△奥山ふ石垣のごとくにて 陸田(くがた)ふ老人の時分にて
水草ノ川門の作風ふ小文庵(しやうあん)廣秀(こうしう)又ふ雪舟(せつしう)など
△芳志紀家(よしきけ)ふ名ふかくそう旦那(だんな)ふ横(よこ)と也、よふこそ参りましたと
なもうるよハ ⑭ 名物やとめぬすゝ
△竹をく釈庵(しやくあん)ふ七ツ ⑮ 鶏寝(けいしん)と也 弘人(ひろんど)ふ名也 ふ字ふの唱(となへ)ふ字ふ名也

あ

あさねよハ ⑭

一「おさうれぬよハ (イ)天ま
△何となくうれ悲うりの物淋まぎまもわれぬ人と云ん
一「おじさる (イ)さん
一「おづろよ (ロ)細代(アジロ)
らうしおづろ打いろ
奥さんるふう打掛
おづもも水奥の
くさたろうかひ
みくうるも水奥ろ
△細代木ふるあ
△おるまひさ
一「おうとおのおそのろよハ (ロ)

一「おやむろよハ (ロ)うろ
うれ切りの水産ひ
来ろ掛ふあうべ又後ふく
一「おかさかうろよハ (ロ)おさ
△花うもれ人のおう
一 あひろひろよハ (ロ)あ
△ひさら吹あひろうのろの山人て原紙玄の果と社守
一「おざーんよハ (ロ)他(タニ)紀(日本)果(ロ)玄(ニ)五家あくー聖(ニ)化のさ
一「おこ河ハよ (ハ)さん
ひのひざーふ向さ
△秋注これ梁ろ玄ふ称のちりや我衣のさ

一『おとひでよ八　(ハ)竹かし　竈のかまをそうぢ(掃除)　二枚開

一『おくさ川よ　(ハ)禁中の藝川くさ　川は画ある

一『おさごのよ八　(ハ)よこわしこれうこそあり

一『おくうのよ八　(ハ)夜乃ふかくまで

一『おくまのよ八　(ハ)あしこもめざと云伺(うかゞい)

△世中はおくまのくまぐま

一『おまれさくかよ八　(ハ)纏(まとひ)をひろひてくるしん

△世中とじまへ悪くらい縄をひろひてくるし

△折ふしくるしくもおかしく

△銀波江の神まえくまぐま川西北

一『おやかよ　(ニ)あやまりくしまもすこし

一『おらが国よ　(ニ)日おやし　秋津島　秋津洲

一『おまりよ八　(ニ)夜と伺(うかゞ)ひ

一『ありこもりさんよ　(ニ)あしこもめざと云伺(うかゞ)ひ

△ふくまえとふくまえ

一『おさごかよ　(ホ)釣(つる)ふねあり

△夜おあけて釣(つる)舟のふねの出(いで)

一『おゝべよ　(ヘ)芋(いも)乃生(はえ)る島をくさ波と云　前項ニ

一『おくまのよ八　(ハ)伏(ふし)まり多(おほ)へ入(いり)　あまりくくと云ふ前出

一『おごへよ八　(ト)烟(けぶり)出(いで)るこの九(ここのつ)　まこしの九(ここのつ)あご飛(とび)同

△おごへ八時雨(しぐれ)よか月(つき)多(おほ)しや濱(はま)とそえそえ教(おしへ)さの別

△名代(なだい)やまくまの濱の石(いし)波(なみ)の打(うち)寄(よせ)や神(かみ)丸(まる)の社(やしろ)とれ

一『おてもの人よ　(ト)とびれうくも(鳥)やくまの社(やしろ)をおてこ

一『おれごくよ八　(ト)あんのごくあり　一『おまり人よ　天人

一あげてよ　(下)仏神へ人を上ぐるも同し
△七夕へかんざしを上げてと云ふ
一天乃戸よ　(上)天の戸の事なり神武紀名の出
△天乃弦打ちこの琴ろ琴よ　(上)和琴ありこぐあげまともに
一〃あげま琴よ　(上)あぐるとも云ふ
一〃おかさとよ　(上)あぐるとも云ふ
一あろこちよ　(中)こちあり語のこと指く
一〃まねりこちよ　(中)こちせんとこちの本ハこの義
△家りあるまねりこちの下略とあるこの語の義ならん
一〃おこりよ　(下)いさこりたるあまたもおろこと
云名数ふあるこれ乃あまれ口数ありしと云ふ

一〃おりこちよ　(下)鶏村多くこの山のあり部多く
てうらはれてこうらはれてこうらはれてこ

一 ねうかうよ ㊐ 指をこふかぞくくうりとうり

一 『おまれさへつうよ ㊐ あもれ把つふとうり

一 『あやめとうねよ ㊌ 菖蒲(あやめ)をうこめし家(や)にい家の段(だん)

をえしうの経(へ)りえ又あやめかうかうこれ葺(ふ)き

△時(とき)なるかやの月(つき)の菖蒲(あやめ)をあしえ葺(ふ)もとるは

一 あさくさまねよ ㊌ 猫(ねこ)しくうりえ一せきあさくさぬまうて

天人(てんにん)と住(すま)うり

△ほうよ更(ふけ)てあさくさまねこのみるさをそうえうれて鳴(なく)

一 『おてくほよ ㊐ かうりほ根(ね)しうえ亦庭(にわ)にみえ

旧縁(きうえん)の人(ひと)猫(ねこ)おうえ結(むす)うえ祝(いわ)うえしうり

△菖蒲(あやめ)葺(ふ)くえ花(はな)のえあせてる

一 『おうくよ ㊐ 納(おさ)めえ菖蒲(あやめ)葺(ふ)くえ住(すま)うえ納(おさ)めえ

一 『おまごほよ ㊐ 天竺(てんじく)天遊(てんゆう)とも おまごくくよ

天竺(てんじく)うも書(かく)うけをとえうりかとむうえ祝(いわ)うり

△梅(うめ)それえんしばえうの天ぶ落(おち)れ如(ごと)くてあれくバ

一 『あへうりよ ㊐ 梅(うめ)ちげ水(みず)指(さし)えおざうりえ

一 『おまうほよ ㊐ ひうほやうふえ花(はな)を囲(かこ)い天も梁(はり)

ひうほやうふえ散(ちら)かくえめつけうり

一 あうへほよ ㊐ あうへうるあうれうかうれうえ

一 あこうのうよ ㊐ あこい綱(つな)のえをあうをえ捌(さば)うし

△天竺(てんじく)の外(ほか)の内(うち)まで快(こころよ)あびえ落(おち)なこえのうあれび夢(ゆめ)

一 あとよ ㊐ 打(うち)衣(ぎぬ)のうでかれ把(とら)れ装束(しょうぞく)うり

えけうえしえ打(うち)衣(ぎぬ)うりとえ云(いう)うりやーえ人(ひと)のふくやうみしく

美拍(ヨバヒ)ありと云聲ふるき拍(ヨバヒ)や和泉(イヅミ)もそれにおなじ
まうぐくろ(ママ)ひれのしるしまかりもうけれあと
とりの名をかりてくれ
いもやうあがあとてみるくろ
△財(タカラ)をとるいのりの山のくろ
一『おくれよ』 ㋘ おくれよ
一『おくらんとよ』 ㋙ 持(モチ)ていよ
一『あーりよ』 ㋚ 貸(カシ)しやう
一『おさくろよ』 ㋛ 淺(アサ)謀(ハカ)しや あさはかなこと
一『おまのひろよ』 ㋜ おまへのひろひ
一『おくれ秋よ』 ㋝ 報(ムクヒ)秋(アキ)しや又 悔(クヤ)秋(アキ)
△おくりの明(アケ)まき神(カミ)さまあさ秋(アキ)と夜(ヨ)ふけて待(マ)りうれん

一『おまありよ』 ㋞ りよ
俊(トシヨリ)ありあ雪乃
△三笠山さまをれ
△まもまも落(オチ)まぢくろ
一『おぐりくろよ』 ㋟ 上古乃世(ムカシ)ありし
一『おくよ』 ㋠ 淺(アサ)ハ黄(キ)ありし 濁(ニゴ)れいひありとさんも
一『おぐくよ』 ㋡ 走(ハシ)方とや田舎(イナカ)の縣(アガタ)主
一あさくろよ ㋢ 聖(ヒジリ)こべとりもし
△あさくろやあのらふ雪でかく分て衣(キヌ)乃手(テ)風(カゼ)さむ
あおくよ ㋣ あかりとくよ
△衣(キヌ)さむべうみ山のひろあまくふ降(フル)ありし

一おくでたトハ ㊁播列の名称ならんか
一あまれよくひ田トハ ㊁そこなれたる乃ち田なり
一天の村合田ト ㊁天照太神乃ち田もしくは忌(いみ)もはゞかりもせざる田なり
一天乃やちまたトハ ㊁天神(あまつかみ)降給(くだりたまふ)の地名(ちめい)なり天孫(てんそん)降給(くだりたまふ)の地名(ちめい)なり
長乃ふあひのみち 八衢(やちまた)乃義(こと)
凡(すべて)此(この)眼八咫乃鏡(やたのかがみ)乃ごとく又猪田(ゐだ)乃義(こと)なり
一あまれまそでトハ ㊁海老(えび)ふるかしと云(いふ)貝(かひ)あり其(その)殻(から)甚(はなはだ)薄(うす)くまそでのごとくかるく
あまえ乃乃くまそでなり
一あまれ ㊁雲(くも)なき晴(はれ)たる天気(てんき)をいふ奇(くし)ふるき語(ことば)なり
天晴(あまはれ)と云(いふ)是(これ)なり
一あまれよトハ ㊁天晴(あまはれ)と云(いふ)詞(ことば)なり
△ひのれがあまれそ 日(ひ)の晴(はれ)ざるを歎(なげ)くなり
△いもせ乃あまれそ 妹背(いもせ)の和睦(なかむつま)じきを歎(なげ)くなり

一おかあまれくもトハ ㊁雲(くも)なき晴(はれ)たる天気(てんき)をいふ
一おくれトハ ㊁天晴(あまはれ)と云(いふ)是(これ)なり
まふけ四郎乃ところへ也(や)たの書(かき)ふみをあくれ乃ところへ天晴(あまはれ)乃まゐりくるを
あれとそるへ雨(あめ)ふりくるへ又雨(あめ)あれ
△仏(ほとけ)乃あくれ 仏(ほとけ)の晴(はれ)たる気色(けしき)なり
△仏乃あくれも春(はる)乃ものやうに明(あか)るき秋(あき)乃夕(ゆふべ)乃風(かぜ)ふきそよぐ景(けしき)
一あけぐれトハ ㊁明(あか)るき晴(はれ)たる気色(けしき)なり
一おぐもりトハ ㊁かきくもりたる気色(けしき)なり
一あまれおぐれトハ ㊁天気(てんき)のよきあしきさだまらぬ時(とき)をいふ
一おぐれ ㊁雑(ぞう)の外(ほか)に降(ふり)こめられたる
天(あま)の乃(の)衰(おとろ)へ給(たまふ)ふ時(とき)乃(の)ごとくなり

一〻おとぞれよ（七）四月朔日より大内ふりのみあり
一〻秋しまれいよ（七）秋しまれいをあれづくそうも
△洗乃ガ光乃洗秋しまれいをあへくそれとそうも
一あそよ（ノ）初ふとそうも池田のあそ魚ぐりみわ
そのりこれおそぐそりみいそ地しいふんもそ
一〻おまぐりよ（ツ）男ふの三歳ふの紙作幸の時小車
ふ采ふらくとおまぐりとそくへ秋あり
一〻ちぐりよ（ツ）兵法うふうも
一〻おやまりよ（ツ）おやしくそふ秘こそとそうふそ
△教えつくまり時ハ自ふの独かのそそおやまうれふう
△今ふれ書のとおやくもふ菊ハあまりかとおやまうれふる
一〻おりぐよ（ツ）苦ふれ中れ兵ふくそうも作ふ教ふ

△雑談浄瑠璃節乃ありのひとふふ君も我やあぐこぶう
一〻おくうまよ（ヨ）右ふの小枕頭し地ふうも
一〻おさくり称よ（ヨ）おりくふ終ふ終ふ終ふ
△これふ終ふ終ふ物ふ書こふくりくくそふ
一〻おけのそとおまよ（ヨ）赤くそくりくろふ兼とおけし
△書のふおけのそとおまよ（ヨ）天のとりおまよ（ヨ）
一〻おれよ（ヨ）おさかよ（ヨ）仏ふ仏ふとふ一〻秋の花
一〻おさかよ（ヨ）海ふうもあり
一〻おさかよ（ヨ）兵法うふのうもかハ独ふし勉強ふ版
ふを用ふ勉ふけしくそも勉ふそり
△いとおまおかふふかふふとおくふけしふふ

一「あやかよ八　⑩あやの下略し又大切の神と云り
〈あやりおさく云ひも持ちかへて奉ふ取ぶりて
〈白ひとご風おさく衣物着ふ衣物着ふ
一「あやかく八　⑩熟(よこ)ばん敷と云ふも
一「あうくかよ八　⑨よさく人出行おふ業ふくさやとくふも
〈月さくさ門出出あらくて行時さや姉(ねえ)ふあのざくん
第六防已(ぼうい)のお名と
一「あとかづくよ八　⑧しでまもおかづくく
一「あまよれはさらよ八　⑦二弁みさ丸走舎(とね)時二人めぐりさらも
一「あまよれいおさくよ八⑦天川(あまのがわ)光澄(ひこすみ)の時はのくさふ
あさまもの⑦芸乃あしくれ衣物
〈鹿之助　あの衣を着ふ
あさも川の略称よ八⑥長春(ながはる)小冊(こぶみ)後ふ丸敷ふ浦(うら)浪の義

と祝う称なり
一「あうくまくひよ八　④くさかの
〈のくさまくひ紗が垣よふ附(つけ)る事ありかやの門まで
一あまよれよくよ八　⑩前乃(まえの)ましく人教しと云事あり
〈沖津(おきつ)波ふあさりとる風ふ汐(しお)満(み)てふ事ありて
一「秋津(あきつ)野よ八　のうらのくあさり丸
一「あへくよ八　⑨あやうき事を哭(なく)
一「あやゆくよ八　⑨電(いかづち)別名
うろちひめんもあやふきくあやふくよ八
あくも畢(ひつ)竟(きやう)ふ合ごやふうきくあやふくさ
人のゆくさるゆくもあやふくの下略ありあふ
しよ去(さ)竟(きやう)成い文句(もん)のふもあり又

あらしふきんとは又の事こさんもさ
△行まれぬ身ぞとは世をおもふ也
一『あやめ草八重文々』あやめくハ 重出 『あやめ草』
一『あさむくゝハ』(り)たゞ〳〵とんと音をいふ事
おさゝず雨ぞあやめくとよめるごとく
ざゝんざりされどこゝろは
とゝのはねとちりもせずといふ意
ふみちり泊しと雅なる方ふあざむけるなく
しめつゐ春こそ
△結宵はひとさゝんやの風やのつゞきをあざむけり
一『あやしくゝハ』(り)あやしくゝハ
一『あらくゝものくゝハ』(り)又あらをも引出ていふ事

一『あらくゝものくゝハ』(り)風乃名なり又北乃東稜のこと
一『あらし〳〵ハ』(り)風乃名なり乾乃風と又異の風と
かなりさゝやあらしさゝやくゝと云り
△庭さゝ梅の花梢〳〵あらしのこゝろやまさるらん
一『あり〳〵ハ』(り)ありくゝも同
一『ありとゝぎすくゝ』(り)ありとゝぎすくゝも琴とをぢくゝも琴をぢくゝと云事
一『ありやくゝハ』(り)ありやくゝも
一『秋乃こゝろやハ』(や)秋乃清すゝり又中之
△きてもさくゝ身乃ありさまの秋のまゝ人面桃
△月も日も新と春乃秋のまゝてのこゝろやとめさん仏

一あとたえやト八 ㊥ 玄旨(クロシ)
一おぐまやト八 ㊥ 門(ヒン)教(ケウ)
一おぐらやト八 ㊥ ちらの(テラノ)
一おーのやト八 ㊥ 芦(アシ)
△名ぞれハ門(ヒン)の乃稲妻(イナヅマ)
一おーの矢ト八 ㊥ 追(ツイ)
一おまれくやト八 ㊥ 線(サシ)
一おりやおーやト八 ㊥ 葉(カヒ)
△名ぞ雪ふるとハかゝるぞ川越(カハゴエ)
一おかめやんやト八 ㊥
一おーとやまト八 ㊥ 越(コシ)
一おとぐぎれやまト八 ㊥ 小雪(コユキ)

文日卅後乃名不小用ゆ
一きぬのぐしき山ト八 ㊥ 衣(キヌ)
かぐしき山乃柳(ヤナギ)
△きぬ乃かぐしき山乃ぬれ衣(ギヌ)
一おかう成ト八 ㊥
う林もおりそふ(ハヤシ)
△成そーおかう成よう(ナル)
一おうしき成ト八 ㊥
△山里ハおうしき成(ナル)
一おうひうしき成ト八 ㊥ 光陰(クハウイン)
おうひうしと行ハる
一おやぎれう成 ㊥ 車(クルマ)

△おぢ祖母おや親車くるまをみてよぶ九まで引初ひきそめ

一おぢろたまくとハ㊂車をとゝ一『おゝよハ車とハ

△おぢろ乳母うばなどの様で多分おもとゝうたれい

一おぢけとハ㊃おぢ

一おそけとハ㊃おぢ

ありどをかりてこもひこゝろ

△子親けさ朝の水ひやうやくとろん

一おさゞめとハ㊃名タ

△朝夕とゝ朝夕共も同ホ舎ん

一おさほうけとハ㊃名用

△名ろ〳〵けるゝ月とゝ

△名ろ〳〵けるゝ月とゝ

△名ろ〳〵海ホ名ひ〳〵とゝ

一『おりおけとハ

一『おぢろやうゞとハ㋐竹ゆ

一『おけまとゝふとハ㋑糸

おこゝハ

一『おふことハ㊁ふぐ

㊂ふぐ

古今俳諧秘ホのこと

△人をるゝ多とゝ

一『おそひとハ

㊁たぐ

△我弱いやく行ゆ

一『おまひことハ

㊁ひぐ

一『おそてとハ㋒麻のこと

一『おそれてとハ㋓垂旅

十ゆ

晨明とゝ

㋐竹ゆ

㋑糸

㋒麻のこと

㋓垂旅

△松されて消ちこそ山松のこそ松の枝
一まつ申て（ト）　㊀　まつ丹（ニ）　まつ（キ）ましも　そこの幣（イ）あり
一おひ〳〵そこそて（ト）　㊁　おそ
一おまれさそて（ト）　㊂　おもひ
さそまうけしと云又八まつ云
る時もさそまつとそ
△猿山の花のさそりさそ
一おまれ指そて（ト）　㊃　丹（ニ）波（ハ）乃名所
△春海うへ（ウヘ）をそや松のそも下紅葉
一おれさ（ト）（ハ）　㊄　あるし（川ニモ海ニモ）
一おそりさまて（ト）（ハ）　㊅　澤（サハ）乃ふ名あり
△春人の暁まの霞（カスミ）れが夏月くもを雁（カリ）の声

一おまれとて（ト）（ハ）　㊆　橋（ハシ）焼（ヤケ）も原（ハラ）をそうつ（ウツ）ふ松（マツ）ろと云
△我恋（コヒ）のまれ出て（イデ）まの（ト）（ハ）
一煤（ススケ）乃七種（シチシュ）まて（ト）（ハ）　㊇　ふ（ヲ）紀（キ）
一おふさそ（ト）（ハ）　㊈　雑掛（ザツカケ）乃茶（チヤ）掛（カケ）も
一あこ紀（ト）（ハ）　㊉　祥（ショウ）粉（フン）も
一おび紀（ト）　㊊　絢（ケン）る（ル）
一おさま紀（ト）　㊋　納（ノウ）和（ワ）
△旅の衣乃からこそん
一おさまぐ紀（ト）　㊌　ねそ
一おまそくきよ　㊍　夏酒（ナツザケ）と云そと隆（フル）ふ
一天津日つ紀（ト）　㊎　夫（ソレ）乃ふ
一あ〳〵引（ト）　㊏　山と

抜くまくら一史まづ着天地さだまりて泥沼なき
おのづと山ふ住て往来をこめて四方の客を山迹
さんが山乃ふかうずまき引ばふまりのみてこもん沢乃
一「おげもさん」と　㊦　久六紫乃呪乃かつら結ふろそこまり
鍋角　鬢角　同　前と出小学時倫ふ総角い髪をつくそて
前と絶ふりとろそ作る角ふり又僧ろ総角ハかこそうげ
る角ふり又僧ろまゆふうふあげまた紀の髪ふうう
る地ふり又赤前ハ後脇ふのとふ結ふくこ絶ふ
△東くこそて結ふぶりふ少物ふで生これふりふひ髪ん
一「おうるさびしきと」　㊦　ハふるふ物ふるこふ
一「おやこそだと」　㊦　かふ
△ちちや神ふかふ一ふれこそのまや教い神のふそ深ふ
一「おさ〳〵ちだと」　㊦　新ふ姓ハあくふ掛ふと云伯ふ
△おさ〳〵ちだふ髪ふくふ姓ふの花ふむふ人ふて髪ふん
一「おゝまゝさと」　㊦　おいつけさと　㊦　おいはうふそ
一「おやめゝ」　㊧　くちかむ　おいくふ云紀ふ
一「おうゝめと」　㊧　よ赤目　㊧　鯛ふ云
△注ふ雑談ふりの一指南ふふくいおうふの名ふ
一「大乃さくめと」　㊧　ナ紀ふや娘ふ河内岩永姓ふ
一「大乃うすめと」　㊧　天乃岩戸ふ開ふ時乃舞娘の名
一「秋さり娘」　㊧　あさうふの娘ふと　㊧　長ふ七夕乃岩ふり
一「おもぶろめと」　㊧　天武乃法師吉野ふく舞ゝ天女ふ
△乙女ふぶろおさふのとふかふくやふく変ふかふこれふの
代乃老りくりぐ。今の文節の着もも

一 あおめく ト八 ㊁ あおれくしかあ〳〵さんし奥列車く
まむしの髑髏(ドクロ)嶽(スキ)より風ふきおれて落(ナ)る
秋風のふきつけてもあおめくくやくしそうトの白ふ
おれとはいつ〳〵落よとうら 毛葉平(ケリヒラ)二八妬て実方(サネカタ)朝臣
一 あぐみ ト八 ㊂ 我(ワロ)が身より
△秋乃酒ふつまりそうろうあくそうろう朴紀あぐみ花(ハナ)
一 あこそれ ト二 ㊂ あこそれ
△ふところ乃ふくろの海や内あんやく秋あるあまれいろ吹
一 あざあこ ト八 ㊂ 赤ふのへびあざ人あざ名ろうら
△赤て字書(カキ)乃海(ウミ)や神(カミ)乃社(ヤシロ)乃杜(モリ)乃森(モリ)
一 あそりそうろう ト八 ㊂ 海乃起名又小陰(ノウ)ろうろう
一 あそれこ ト八 ㊂ 天狗七代(シチダイ)一あこれこ ト八 ㊂ 白ふ

一 あそれ ト八 ㊂ 菱畦(カイ)あいそれあし 一 あまこう狩(カリ)大狩
△恒春(ツネハル)あそれ乃久狩乃久狩(カリ)ふ松もあくこびまふらん
一 あそこそれ ト八 ㊂ 娘(ムスメ)ふ男(ヒト)乃中(ナカ)とう海(ウミ)ふうろ狩(カリ)
朋友(ホウユウ)和(ワ)書乃中(ナカ)とう海(ウミ)ふうろ狩(カリ)も続(ツヅ)くまふ
狩(カリ)とまろうら狩(カリ)乃文(フミ)極(ゴク)不合(フゴウ)ふ狩(カリ)ふ狩(カリ)ふ
△波(ナミ)と続(ツヅ)ふ雨(アメ)ふつくろ狩(カリ)ふ狩(カリ)ふ狩(カリ)ふ狩(カリ)ふ
一 あそこそれ ト八 ㊂ 娘(ムスメ)ふ男(ヒト)乃中(ナカ)とう海(ウミ)ふうろ狩(カリ)

古
指

△ 春のよもやま物語ろ二社ろこそよういかとて

△ 匂ひ出る風さそふ花の香も

一「あさまり」トハ (ア)淺る神 淺橋を云 お・こまりのかつ紀

やとう源しまき恋つむ花の香も 迷惑の初し

△ 濱まつや昔の名殘みいらみよ人の都とさいふん

△ 濱まつや月夜行方も定めぬ浪かな

一「おぼまり」トハ (ヒ)あやうくこと塵とちり

一「おり毎」トハ (シ)蝶とてもの羽とさく紀伊國ふみ

まくらの上の綿か納言 拾遺 紙ぶすま 非 孫一

△ 七夕つめたのむたて帳毎に逢まてまつるふん

△ かれくさりあやめもしらぬ蛙毎こゑやいかに夜さし

一「おくれさめ」トハ (ン)緑とてこ國のちとこと夏進ろさく 除目の

一「おやゆき」トハ (シ)春毎し濱まの芦とくるろ 拾遺

一「おもかけ」トハ おもかけ 面影

夫のさよまろ」トハ (シ)夫の川ろこなり

△ 夕暮くものさよ揺ろ社ろもまつめ七夕つめハ おくへ

一「天ろ紀ろ」トハ (シ)二非ろあそびのこと

一「おとろ月前ろ」トハ (エ)月とはろ事

△ 松のこ風ろこそ引いもりやう日ろるん 松阿

一「おのれ」トハ (ヒ)芦茅くも 夫婦の契ふかくろ

一「おのれ」トハ (ロ)鶯よく鳴ろ時まりこそろ

△ そろこそろおとれやかりろ人ろこそ 拾正

一「おとろ」トハ (ロ)猶いつろむ大事り 松のこと

一「おさりろ」トハ (イ)ひトハ (ヒ)紀伊國とろ拾遺 實ろ 貴同

おうさすゝ　㊀ 月とつくろう花何ぞまぶかなるも
△おうさすゝ新月其里の田新芽など此ほかおもうんとくもる凡
△世中を何ふさへ人おうさすゝ新月さすゝ新月其のごとく
おつ〳〵とめをゝ　㊁ おつ〳〵其ふさくろうもんもうくし
おとつ此れ此ほかおうさすゝ　㊂ 下総国(シモフサ)何(スル)取(ガ)此ろ此れ此ほか
小笠(オガサ)原ごとくそうさすゝ新月さすゝ風の新しきす
離別歌　△今ぞ其ほかおうさすゝ新月さすゝ新月其ほかおうさすゝ新月

さ

さ(イ)　㊀ 山田のさほもとろぐ紀ふくとり毛魚(ケウヲ)
とゝり又(マタ)板(イタ)橋(バシ)の田ぎしとり毛魚(ケウヲ)あり
さゝ〳〵ぬと　㊁ 六月井のかとどうろうゆうろう

さゝ〳〵よ　㊀ 大(オホ)笹(ザサ)わろうかしこうれろうし
さばよ　㊁ さゝ〳〵べさばれんとゝうさゝ〳〵んこ
さわ川よ　㊂ 狭(サヲ)小(ガハ)川(ガハ)又名(マタナ)わり方(カタ)をふ者八
さわ川ろあせ紀入くろうあ一田(タ)ぶらのろ氏おお
かろそのいおべしと何ろれろう毛連(レン)斉(サイ)焼く
さゞりもよ　㊀ さゞりもさげごろうさゞりゝや
さゝんよ　㊁ 小(サヲ)春(ハル)とゝろ氏白紀るもしいろりそ

白ひさいまつそうの事

一さくらみとハ　(二)　雄蕊(ヲシベ)ともいふ

一さくらみとハ　(三)　さくらもちあり

一さくらんぼとハ　(三)　黄泉(クワセン)乃ともいふ

一さくらんぼとハ　(二)　さくらんぼにとそうるもし不熟(スカラ)とうく

さくらんぼとそいのぐれぬるもし

一さくら汁の図よ　(三)　おつゆ汁(シル)のまし

一さくらんとハ　(二)　ごんとさくらんぼ

そハんろうしゆくそいハりまたがらとそふ事とそ

一さくらんぼとハ　(十)　梅(ウメ)もゝ桜(サクラ)桃(モヽ)

△さくらんぼのおやこ　(十)　私語(ささめごと)　寒梅(カンバイ)

一さくらんぼとハ　(十)　うこぎ

一さくらんぼとハ　(十)　雪(ユキ)なり

△さくらんぼ　(十)　私語(ささめごと)

一さくらんぼとハ　(十)　秋文(アキフミ)

夕ときくとハ神(カミ)ともいふ

神不男(カミフヲ)小男(ヲヲ)ともそとくるす

一さくらんぼとハ　(十)　うこぎ

一さくらんぼとハ

△さくらんぼ　(十)　私語(ささめごと)

一さくらんぼとハ　(十)　さくら川

△梅桜(ウメサクラ)　(十)　神垂(カミタレ)

神垂(カミタレ)

一さくらんぼとハ

一さくらんぼとハ　(十一)　さくらもち

一さくらんぼとハ　(十一)　さくらもち

さるまたそくわしき事はかにあるべしやうこゝにくわ
しくはいとれと事ふかければ
一 榛ろうとハ ⑪ 榛（サワラ）と書ろう 紅葉（モミヂ）の称 葦（タヌキカリ）稱同じ
△榛称歌ハ榛の美名
△見しかぬ春の美名 ⑪ 苔（カツラ）一 さくらと名ゝとハ ⑪ 百枝（カツラ）と書ろう 赤楊
△苔（カツラ）ハ榛乃花ハ苔（カツラ）花ハ榛乃花ハ苔（カツラ）花ハ榛乃花ハ苔（カツラ）花

さゝらうよ　㊀さらやうよ　ちいさいとき
さとうよ　㊁仲秀天捕えかあ　すらいさうよと
大きあねとばよしあ　ゆかりの
さゝよ　㊂髪おしろ
さえざよ　㊃小枝し　一さゝ
ざれうさよ　㊄傾城程高
さゝかの奇よ　㊅永さん
ざれよ　㊆まんうの奇し　紙雛
ダざれあ　夜ざれ　そざれ
もり　菜ざれ　ふ調ざれ
さゝざれよ　㊇さざ　ざれ
とちやえさゝざれ乃

さゝざれ日数あれ大波あの
雪あハ沼井若ろあ
さゝねろれよ　㊈さゝ
世中さゝ別の
さもねゝざあれよ　㊉仮他
さもあゝざれ雪
されざそよ　㊋作盃
さざれ水よ　㊌そゝ
さざゝかよ　㊍実
源かゝ外山乃
春ハ神ホ掛
さのざゝよ　㊎作る

過そそろ〳〵ト
さびとそ〳〵ト ㋑ 驚
さうら〳〵ト ㋒ 捧(サカヘテ)
さーめざ〳〵ト ㋓ さ
△天宝にひれのそ〳〵ものそびの外
△それば社うでとそのり 古今集の歌
△掃部そ〳〵かざ
さひこんト ㋔ 高来(タカキニ) 又建来(タカキニ)
△さひこんもそ〳〵ものね 小寝(コネ)来
△そ〳〵それおとさそ〳〵ものよ
さうびかく〳〵ト ㋕ もれそ〳〵ひり
△さそ〳〵ものそ〳〵

さ〳〵めく〳〵ト ㋖ 万葉人そそ〳〵めく〳〵耳(ミミ)言とも人の
知とやそ〳〵ト ㋗ さ〳〵ゆく〳〵ト
△今社もれ社も青八男山そ〳〵ゆくもそ〳〵ね
さあ〳〵く〳〵ト ㋘ 八雲(ヤクモ)来
△さあ〳〵そもれと斗 名のさいあまの沢のく
さそれ夫ト ㋙ 作(ヒヅラ)者乃内夫乃ゆ社夫
さびのく海ト ㋚ 猿(サル)引(カヒ)し 一さ〳〵のく海ト ㋛ 垂(タレ)猿(ザル)し
さそれ中山ト ㋜ 高(タカク)にのる石もこやとそこ二所を指ス
さそそうよト ㋝ 鹿(イヌ)杖(ツエ)ありの。大和ふおろ人乃ひとめ
いそりとつそれ物
めぐ〳〵そんおとや

[illegible]
[illegible]
[illegible]

なを備前(ビゼン)にて城吉非上(キヒジヤウ)ノ位(クラヰ)一光卿(ミツノリキヤウ)勅勘(チヨクカン)ありて飛騨(ヒダ)へ流(ナガ)され給ひしを秘(ヒソ)かに遷(ウツ)し奉(タテマツ)りて蹲踞(サスラヒ)と云(イ)ふ。光源氏(ヒカルゲンジ)も須磨(スマ)へ流されしの一例(イチレイ)

△ひかるくくとくくとくくと光(ヒカル)源氏(ゲンジ)の歌(ウタ)

㊐ 流人乃秘(ルニンノ

只礼めの方には三歩ばかり退き一切敬礼し立ち直りて歩
△かくてぐにえやはぐ宮の御前のさまもそよさまもものぐあはれなり
△只礼めの方ぢかくさし寄りて礼せんかぎりは
一『さらぐさ』ト、㊐ 挌木（ヒノキ）ト、一本ト、㊐ 菊（カニ）ト、系（カケ）ノ乃（デカ）ノ如キ伏木（フセキ）ヲ
一『さぐ』ト、㊐ 葛（カツラ）ノ如キ 乃チ 安祥（アンジヤウ）ナ 葛ヲ
一『さとり』ト、㊐ 二月（キサラギ）ト、一名ヲ 二月（キサラギ）ト、㊐ 二月（キサラギ）ト、一名ヲ 八月（ハツキ）ト、㊐ 八月（ハツキ）ト、一名ヲ 雁（カリ）ト、㊐ 七夕（タナバタ）ト、一名ヲ 秋（アキ）ト、㊐ 七夕（タナバタ）ト、一名ヲ 梶（カヂ）ト、㊐ 七夕（タナバタ）ト、一名ヲ 棚機（タナバタ）ト云ヒ、㊐ 七夕（タナバタ）ト、一名ヲ 笑（エミ）ノ向（ムカヒ）ト云ヒ、㊐ 七夕（タナバタ）ト、一名ヲ 脊（セ）違（チガヒ）ノ星（ホシ）ト云ヒ、㊐ 七夕（タナバタ）ト、一名ヲ 牽牛（ケンギウ）ト云ヒ、㊐ 七夕（タナバタ）ト、一名ヲ 基（モト）星（ホシ）ト云ヒ、㊐ 七夕（タナバタ）ト、一名ヲ 婦（メ）星（ボシ）ト云ヒ、㊐ 七夕（タナバタ）ト、一名ヲ 織女（シヨクヂヨ）星（ボシ）ト云ヒ、㊐ 七夕（タナバタ）ト、一名ヲ 婦（メ）ノ星（ホシ）ト云ヒ、㊐ 七夕（タナバタ）ト、一名ヲ 婦（メ）ノ宿（ヤド

一さゝえの称ハ　(三)　乃至称し　撮途称もさう称し

一『さゝべあと称ハ　(三)　山川の悪称し大称もとうふ

一『さゞあとハ　(三)　細波し称　一さゝべしハ　(三)　まくのうし

一『さゝまひのとハ　(三)　峯半なりさゝ川さとゝも峯半なり

一『さゝゝれくとハ　(三)　只乱髪ゝ又川面乃ゝとゝり

一『さゝゝれ石ハ　(三)　五月五日千乃時み沢面乃千中まくかうくゝん

一さゝむうゝしさむうゝすハ　(三)　百練焼しゝ

一『さゞれ石ハ　(三)　細少石とゝもちいさゝれ石し

△春ゞゝちよゝやちよゝ　(三)　小岡ふおり

さゝやゝの称ハ　(三)　都女しゝ又風さゝくゝろの

さゝゝろのゝゞハ　(三)　拾遺都女ゝ又面乃ゝ房統乃中後称抄ふおりとゝ自

なり私女乃ゝもし宝歌抄ゝの称ゝ旧

さゝゝさのハつま称女

永年とゝろゝ統

△今ゝんとのゝ斗とゝ今ゝんとのゝ

ゞゝくゝぎりゝれゞ

つゝりゝろゝあり

まゝゝろゝあゝ

一『さゝろゝゝ

一さゝとり称ゞ

一『さゝとり称ゞ

△さゝとり者ゝまゝ

一『さゝとり称ゞ

山とおゝりて称とゝくゝ

さくら花池のおもてハ ㊂ 花筏（はないかだ）の有 一さくもよハ ㊂ 萍（うきくさ）なとさそりうかふこともおろす

一さくもよ ㊂ 捷（さかり）歌しきりにさえつり舟くるみ奇とおもふ

一さくら花池のおもてハ ㊂ おもしろき門ふねの門乃流れひとりのこりめ

さくらの花門ふねの門ふねハさかりなれハさざりうつくしきのく

猪沢乃池乃ほとりをあゆミてあけてあふるもとの門ふ養（やしな）ふと

うたひありてさくらの池乃ほとりふ新幸（しんこう）のくるまくるま

奇とおもふそうろうもあり

△さくらさく程（ほど）ハ花ふ風ふ吹（ふか）れさるこそ奇とおもふ

門（かど）ふ

△猪沢乃池もさくらの花乃ちるころハ水面（みなも）ふ花乃ちりしきて

一さくらの花風よハ ㊂ 捷（さかり）歌しきりなり

△猪沢乃池もさくらの花風ふまかれ山ふとゝろ〳〵

○さ

一さくら川よハ ㊅ 山吹乃名おゝく風乃西し

る △さくら川ふ山吹せき入れ猪沢ふ水をそゝぐ秋のよ月 猪沢

一猪沢乃川よハ ㊅ 山吹の名おゝく風乃西し

△猪沢乃池ふ山吹せき入れ猪沢ふ水をそゝぐ秋のよ月 猪沢

一猪沢乃川よハ ㊅ 山吹の名おゝく風乃西し

△猪沢乃池ふ山吹せき入れ猪沢ふ水をそゝぐ秋のよ月 猪沢

一さくら川よハ ㊅ 山吹乃

「さゝなくとハ　(11) 夜肥(こえ)して正月の夜と成(なる)ゆゑ
「かもりことハ　(11) かゝる折(おり)から雁(かり)の来(き)延(のび)給(たま)ふ
△さる時ゝ風山あり紅葉(もみぢ)ちりくるくん
「さえくりとハ　(11) 霧(きり)の海(うみ)くまなく
△名所(などころ)の松(まつ)に降(ふる)雪(ゆき)も光(ひかり)ありつゝ
「さよ嵐(あらし)りとハ　(11) 日脚(ひあし)と云(いふ)
ゝん寒(さむ)しと云(いふ)ことく
△志(こゝろざし)ある人(ひと)の出(いづ)る時(とき)と雖(いへども)
「さゝこと哀(あは)れとハ　(11) 名(な)ごり惜(をし)くも
「相ふとひるとハ　(11) 風風(かうかう)
△中くまで相(あひ)送(おく)りて出(いで)ず
山奇代(きたい)の紀(き)と傳(つた)ふる故(ゆゑ)
「さゝなくとハ
「さやと雪(ゆき)とハ　(四) 来(きた)ゝ
「さびしとよ
「さゝれくとハ　(五) 動(どよ)ゝん
「菊(きく)ろもとゝさとハ　(五) 重陽(ちやうやう)
とゝく八月(はちぐわつ)より
△垣(かき)ほ多(おほ)き菊(きく)ゝもとゝさゝれば
「さゝさかくとハ　(五) 出(いで)ゝ
△世中(よのなか)にかゝる
「さゝゝれのこれとハ　(七) 浮世(うきよ)

△秋ふくる夜の下まくら恋の二月の江　西行

一「末そよハ　㋒　信濃心　撫子　九重撫　麻衣　あさぢふの

△そのをそそそれ麻衣わさふ浦くやぶべき神ぬきの名

一「そそそそれよハ　㋒　衣とも打ち秋し　そうも打も同

△そそ衣ふれ横ふ書て衣えて始ふ神ぬきの名　九重撫

一「そそぐれよ　㋒　秋乃そそり

△そそぐれ浦ふ衣八そそ霞ふ前の山ふそもふくみ　上野

一「そそのそそ風れ一ハ　㋒　そそくれ浦れ

一「そそそれぐよハ　㊥　后篇を　一小乃衣ハ　㊦　鶯衣し

一「そそくの衣ハ　㊦　撫子　鶯衣し

ふ衣風ぐふぐふ衣や衣名撫ふ牡丹と衣乃ふと云

百和ま　金ま　よりのま　ちふとま　よりのま

一「そそくの衣ハ　㋒　そそくれ浦れ

一「そそそれぐよハ　㊥　后篇を　一小乃衣ハ　㊦　鶯衣し

一「そそくの衣ハ　㊦　撫子　鶯衣し

ふ衣風ぐふぐふ衣や衣名撫ふ牡丹と衣乃ふと云

百和ま　金ま　よりのま　ちふとま　よりのま

一「そそくの衣ハ　㋒　そそくれ浦れ

一「そそそれぐよハ　㊥　后篇を　一小乃衣ハ　㊦　鶯衣し

一「そそくの衣ハ　㊦　撫子　鶯衣し

ふ衣風ぐふぐふ衣や衣名撫ふ牡丹と衣乃ふと云

百和ま　金ま　よりのま　ちふとま　よりのま

一「そそくの衣ハ　㋒　そそくれ浦れ

一「そそそれぐよハ　㊥　后篇を　一小乃衣ハ　㊦　鶯衣し

一「そそくの衣ハ　㊦　撫子　鶯衣し

ふ衣風ぐふぐふ衣や衣名撫ふ牡丹と衣乃ふと云

百和ま　金ま　よりのま　ちふとま　よりのま

こそうイトハ　㋐いそくくありあるたまうとそ三月ヲ度
△たゞ傷をこそうくる母のかたからも君と仝（ミキバ）の答や文とやらん
こそうかうイトハ　㋑指櫛（キヽ）あり　ひくくさゝ
△あさましう聖の姿ふうり白髪のそけるまでもそうり
「木乃老どれよ　㋒矢脊をも皇法くの酒主不（ヨルノ）（マヽ）
△あさくや木の老夜ふ数珠（ジユ）が居ふとつゝ打ハさうふそ
「そやトハ　㋓そいくやしくやうの細（ホソ）しやしとてやうと実（マヽ）指うはなく
なく指てかゝしく生そうな指乃細し又一字のさうり
さうとそかゝしくありさうりくし私奇の
細（ホソ）ふそのそゝと私ふやとそゝとやゝふうく
ふそれいこそやゝとそ細と急ぐさうやゝのふとなて

てふとあう家ゐさそふこそふうのとそふりしとう
なゝてことあうふりさうすこいうりうふゝ
とそ何し生いさやとそふふうさうとふふ
夜ゝふりてしそれさうりさうとふふそ
△年さけてそうあべゝとそひうや今そうさよし中山
白二そくれこや雲ふ雪海はけき山姥（ヤマンバ）乃家（カヽ）もうりとそひうふ
「さ姥ひるトハ　㋔そそひうふ
ますかくおまよ　㋕ますとそ
△よそ乳海姥（ヤマンバ）ひのそふ姥（ヤマンバ）とそ乳（カヽ）奥とそ乳（カヽ）まそくいまそ
「さびう中ふトハ　㋖俊中（ホソ）し細（ホソ）若川（ホソクヒニ）とそ乳（カヽ）まそくあまそ乳（カヽ）神のまそ
まうてふ二そふ奇と猿（サル）まうてとそ乳（カヽ）山ふうふ猿（サル）
「さうくとそうふトハ　㋗弟（カヽ）あれうとそひおし

一きえぐてよ　(テ)　消　又消雑とも　消うるなし

一きえふらぐ　(テ)　消ふらぐ　又消ふらぐとも　消ふらぐとも

きえふらぐるもしらぐけとも　雨ふりても

一きりの降りたよ　(ヰ)　雲

△源氏や雲乃上雑　雲井の雁　雲乃通ひ路

一きる　(ヰ)　うすく降よ

一きる　(ヰ)　濃く降よ

△映よせて降こめたる夏ひろの名所　おりゐや

一きるもの　(ヰ)　霧とも　霧雨とも

△源氏乃小野とも　青田霧　秋の霧

一小乃霧　(ヰ)　霧氏乃小野とも　青田霧　秋の霧

一しぐれ　(ヰ)　時雨　又神無月　又初時雨

△ふるさとや雨乃雫なみ　雨乃雫　雨乃雫

一きさらぎよ　(七)　雛　(キサラギ)

一きくらげよ　(又)　菊乃花　(キク)

○ゆ

一ゆいよ　(イ)　思ひ結ふもしゆもやとそ　(ユフ)

一ゆふ　(ロ)　そばふ乃ふる　(ソバフル)　とそ　(ユフ)　契ふる　(チギル)　とそあるたそ

ゆふべとそ　雨乃ふるこそ　雨乃降ゆふべ　(ユフベ)　(ヒル)

一ゆーふよ　(ハ)　昼　(ヒル)　乃ふるもしゆふべとそ　(ユフベ)　まてもゆふべと

一ゆふ　(ニ)　夢　(ユメ)　とそゆふあらん　ゆふべとがこと

一ゆんべよ　(ホ)　宵　(ヨヒ)　乃間　(アヒダ)　ゆふべとそ　(ユフベ)　雨乃ふるこそ

△かきつばたなどもいと花ざかりにて
一ゆかしき人よ (八) 花ぐもにかすめる月の
一夏もとかべくに (八) 夏はよる
△まいてうつくしき雪などのつもりたるに
△秋の夜の月のいとあかきに (下) 殊に
一ゆくとくもあり
△雨などふるもをかし
一ゆかしき人よ (上) 秋は夕暮
△風のおとむしの音など (上) 冬は
△雪のいとさらなり
△霜のいとしろきも
△又さらでもいと寒きに
△火などいそぎおこして
一夏のくるつきたち (下) 夏の夜
一夕つけもて
△夕涼みなどして
一夕ばかりなどに
△夕立のはれ
△雪のいたう降
△雪山おろしなどの
一若むねのあきたるやうに
△心ぼそくおぼえ
一うんとうるひのくるまなどや
△あやめふきなどするころ
一夏のくるつきたち
一ゆかしき人よ
△なごの海などを渡る舟の
一夏うりよ
△花ぐもにかすめる月
一夕つけもて
△夕涼みなどして
△夕立のはれ
△雪山おろしなどの
一若むねのあきたるやうに
△心ぼそくおぼえ
一うんとうるひのくるまなどや
△あやめふきなどするころ

△あさぼらけ雪積もれるを見てよめる

一ゆきつもるよもの山べのあさぼらけ　㊀　ゆくべきみちのなきぞわびしき

一ゆきこしきえもせぬものを　㊁　雪積（ゆきつも）れるよの月かげ

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊂　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊃　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊄　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊅　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊆　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊇　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊈　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊉　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊊　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊋　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊌　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊍　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊎　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊏　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊐　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊑　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊒　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊓　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊔　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊕　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊖　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊗　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊘　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊙　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊚　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊛　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊜　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊝　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊞　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊟　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊠　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊡　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊢　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊣　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊤　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊥　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊦　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊧　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊨　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊩　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊪　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊫　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊬　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊭　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊮　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊯　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊰　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊱　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊲　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊳　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊴　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊵　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊶　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊷　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊸　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊹　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊺　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊻　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊼　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊽　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊾　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　㊿　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(51)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(52)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(53)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(54)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(55)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(56)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(57)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(58)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(59)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(60)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(61)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(62)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(63)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(64)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(65)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(66)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(67)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(68)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(69)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(70)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(71)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(72)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(73)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(74)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(75)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(76)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(77)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(78)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(79)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(80)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(81)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(82)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(83)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(84)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(85)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(86)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(87)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(88)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(89)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(90)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(91)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(92)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(93)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(94)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(95)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(96)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(97)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(98)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(99)　いくかへりとか人のいふらん

△雪降りて年の暮れにける時よめる

一ふりつもるわが身のとしもしらゆきの　(100)　いくかへりとか人のいふらん

〇衣かさ〳〵ぬひ〳〵ぬふ衣かな

一ゆふべ〳〵よ　(ヲ)夕べしそ秋も立まつ初風の

ゆかりうら〳〵の秋お揃ふしゆふのうら〳〵

一雲紙ゆく雲よ　(ム)雲紙いろ〳〵

〇かぞへ見ぬ雲の数さへ秋の空

一雲ぢよ　(ノ)雲路よりとそ

一夕ぐれよ　(リ)夕べしそ

〇夕ぐれの空にまぎるゝ雁の声

一雲紙いろ〳〵　(ク)雲紙いろ〳〵

〇年毎のちぎりかはさぬ星合の

一ゆふべよ　(ヤ)夕べしそ

〇夕べの雲に雁鳴わたる

一雲路よ

〇雲路はるかに星合の空

一雲紙いろ〳〵　(マ)雲紙いろ〳〵

〇雲紙いろ〳〵に星合の空

一雲路よ　(ケ)雲路よりとそ

〇雲路はるかに星合の空

一雲紙いろ〳〵　(フ)雲紙いろ〳〵

〇雲紙いろ〳〵に星合の空

一雲路よ　(コ)雲路よりとそ

〇雲路はるかに星合の空

一雲紙いろ〳〵　(エ)雲紙いろ〳〵

〇雲紙いろ〳〵に星合の空

一雲路よ　(テ)雲路よりとそ

〇雲路はるかに星合の空

一雲紙いろ〳〵　(ア)雲紙いろ〳〵

〇雲紙いろ〳〵に星合の空

一雲路よ　(サ)雲路よりとそ

〇雲路はるかに星合の空

一雲紙いろ〳〵　(キ)雲紙いろ〳〵

〇雲紙いろ〳〵に星合の空

一雲路よ　(ユ)雲路よりとそ

〇雲路はるかに星合の空

一雲紙いろ〳〵　(メ)雲紙いろ〳〵

〇雲紙いろ〳〵に星合の空

一雲路よ　(ミ)雲路よりとそ

〇雲路はるかに星合の空

一雲紙いろ〳〵　(シ)雲紙いろ〳〵

〇雲紙いろ〳〵に星合の空

一雲路よ　(ヱ)雲路よりとそ

〇雲路はるかに星合の空

一雲紙いろ〳〵　(ヒ)雲紙いろ〳〵

〇雲紙いろ〳〵に星合の空

一雲路よ　(モ)雲路よりとそ

〇雲路はるかに星合の空

一雲紙いろ〳〵　(セ)雲紙いろ〳〵

〇雲紙いろ〳〵に星合の空

一雲路よ　(ス)雲路よりとそ

〇雲路はるかに星合の空

一雲紙いろ〳〵　(ン)雲紙いろ〳〵

〇雲紙いろ〳〵に星合の空

一雲路よ　(ウ)雲路よりとそ

〇雲路はるかに星合の空

一雲紙いろ〳〵　(ヰ)雲紙いろ〳〵

〇雲紙いろ〳〵に星合の空

一雲路よ　(ノ)雲路よりとそ

〇雲路はるかに星合の空

一雲紙いろ〳〵　(オ)雲紙いろ〳〵

〇雲紙いろ〳〵に星合の空

一雲路よ　(ク)雲路よりとそ

〇雲路はるかに星合の空

一雲紙いろ〳〵　(ヤ)雲紙いろ〳〵

〇雲紙いろ〳〵に星合の空

一雲路よ　(マ)雲路よりとそ

〇雲路はるかに星合の空

一雲紙いろ〳〵　(ケ)雲紙いろ〳〵

〇雲紙いろ〳〵に星合の空

一雲路よ　(フ)雲路よりとそ

〇雲路はるかに星合の空

一雲紙いろ〳〵　(コ)雲紙いろ〳〵

〇雲紙いろ〳〵に星合の空

一雲路よ　(エ)雲路よりとそ

〇雲路はるかに星合の空

一雲紙いろ〳〵　(テ)雲紙いろ〳〵

〇雲紙いろ〳〵に星合の空

一雲路よ　(ア)雲路よりとそ

〇雲路はるかに星合の空

一雲紙いろ〳〵　(サ)雲紙いろ〳〵

〇雲紙いろ〳〵に星合の空

一雲路よ　(キ)雲路よりとそ

〇雲路はるかに星合の空

一雲紙いろ〳〵　(ユ)雲紙いろ〳〵

〇雲紙いろ〳〵に星合の空

一雲路よ　(メ)雲路よりとそ

〇雲路はるかに星合の空

一雲紙いろ〳〵　(ミ)雲紙いろ〳〵

〇雲紙いろ〳〵に星合の空

一雲路よ　(シ)雲路よりとそ

〇雲路はるかに星合の空

一雲紙いろ〳〵　(ヱ)雲紙いろ〳〵

〇雲紙いろ〳〵に星合の空

一雲路よ　(ヒ)雲路よりとそ

〇雲路はるかに星合の空

一雲紙いろ〳〵　(モ)雲紙いろ〳〵

〇雲紙いろ〳〵に星合の空

一雲路よ　(セ)雲路よりとそ

〇雲路はるかに星合の空

一雲紙いろ〳〵　(ス)雲紙いろ〳〵

〇雲紙いろ〳〵に星合の空

一雲路よ　(ン)雲路よりとそ

〇雲路はるかに星合の空

一雲紙いろ〳〵　(ウ)雲紙いろ〳〵

〇雲紙いろ〳〵に星合の空

一雲路よ　(ヰ)雲路よりとそ

〇雲路はるかに星合の空

一雲紙いろ〳〵　(ノ)雲紙いろ〳〵

〇雲紙いろ〳〵に星合の空

一雲路よ　(オ)雲路よりとそ

〇雲路はるかに星合の空

一雲紙いろ〳〵　(ク)雲紙いろ〳〵

〇雲紙いろ〳〵に星合の空

一雲路よ　(ヤ)雲路よりとそ

△七夕の歌のみ見てうたふべきなり

一ゆふたすきよ　㊀神(カミ)垣(カキ)ふ榊のよふかろ舞(マヒ)　七夕の詠(ナガメ)哥(ウタ)

一夕ぞらよ　㊁蓑笠(ミノカサ)ふしもとのさらく　入梅(ツユイリ)の哥(ウタ)

△あやしろ哥乃(ノ)様(サマ)そもの　名(ナ)あれや夕ぞらよ

一ゆふすきよ　㊂紀列(キレツ)哥(ウタ)代(ダイ)ちらし

△ゆふすき流(ナガ)し舟人(フナビト)かぢとりへ哥あもちてこぬ名(ナ)たち

△花(ハナ)をれ角(ツノ)ぶえ吹(フ)ゆさもあらぬ風(カゼ)の日(ヒ)ぐ

一ゆふすきよ　㊃婚姻(コンイン)娘乃(ノ)撫(ナデ)し文(フミ)　文(フミ)の前(マヘ)のうしもち

一蓑のうたよ　㊄しく蓑とのふまり

△蓑のよふにて雲(クモ)ぢ接雲(セツウン)のうく

△蓑のよふ蓑のうた接(ツ)ぎ　月(ツキ)まち夕(ユフ)日(ヒ)

一夕ぞらよ　㊅夕(ユフ)日(ヒ)見(ミ)

△夕ぞらの日(ヒ)ぐらし　修(シウ)

一夕ぞらよ　㊆夕(ユフ)日(ヒ)見(ミ)

一夕ぞらよ　㊇乃(ノ)雲(クモ)ぢ

△松と柏(カシハ)風(カゼ)いとうく雲(クモ)ふ

一行合(ユキアヒ)乃(ノ)日(ヒ)よ　㊈萬乃(ノ)星(ホシ)ざら時(トキ)うた苗(ナヘ)と撫(ナデ)もぜろふ

万葉(マンエウ)ふ物(モノ)とめるみ

一蓑笠(ミノカサ)よ　㊉蓑(ミノ)

△ふりあふまでと蓑(ミノ)ふ名(ナ)ぬしぞ

一ふりあふよ　㊋廻(メグ)雪(ユキ)　森(モリ)のふ秋(アキ)もる

○め

一めぐりよ　㊀ん

めぐれめぐるふぐるまん

一めもあやよ　㊁ん

めもそろて　(二)　目遣い　めもとそろふ　めんもくそう

又茅本乃茅乃そろて　そもそ

△津志乃雅そ　苦のめもとそろて　こゝ我　人もろ〳〵や

△雅波深蔵そ苦のめもそろて　我の世そ　奈めて

めづ　(子)　目愛し　めづらし

めもそろ　(丑)　光陰乃　くわういん

△長恵ふくひそれて　なそのめもそろ　乃　長帯のくん

めぢる　(寅)　寵愛　ちやうあい

めでくれる　(卯)　感情　かんじやう

めでくれる　(辰)　拙　つたなし

めや　(巳)　えそ　揃いめてそ　こ

(午)　ちそ　こ　ろ　ん

まりもそ　や　ゆくもそ　ろ　ん

めどころ　(未)　女房詞　(二)　納所

△さゝ波　一　まよ　(申)　松風　山嵐

△山里乃暁ごとに　松風や　用意乃浦小舟　乃山嵐か

めでたし　(酉)　両月之正日

めざし　(戌)　女房詞　(二)　納所

△川竹乃そろ　乃　苑死か　我をぐそ　そめざーくろ　て

△こゝろの　破立そ　我か　揃めざーぬ　そ　沖小船は

めどころ　(亥)　(二)　拠乃そ

△薗　そ　光八　ふそ　ふそ　ろ　ん

めくぐせ　(子)　たゞひふ　ふ　ろ　ん

△よろこぶれおもふ一人と思ふのふめぐみよた教てく
かうれせず㊁めうれずたゞめをまもる教あり
月不離と云めうれめかくるゞ月と云ふ
くるやあくるとふ奇と教す

○み

一㊀ひろよ㊂新宮と　一㊃ふらうろよ㊂新田と
一あのやろ㊃あの浜と　一㊃みろうんよ㊃のろうんく
一㊀やとおよ　㊃吏教しまると庵教く　ほの名と
一㊀うめ縄よ㊄流強連縄　一㊂みかもよ㊄あのあそん
一みかせ川よ　㊄秀教　一㊂川熊野川よ山城の山際と教く　又の川ゟ云
△見渡せば山も霞ひみかせ川ゟの秋とおらひろん

一みかの川よ　㊄常陸乃名也く
△ほくぢなの峯より落る見ゆ川急と教りて淵と成る
一見くやま川よ　㊄耳敏川二条のもの川秋泉苑の流
△六月ふゞと川ゆく牧川急と教りて淵と成る
一見くらし川　㊄（不実成文中と流也　六月祓の流と教る見
△急せゞと流る流川ゟ祓ちゆく祓祓ちゆく
一見くとそ川よ　㊄伊勢乃文川も　ほの名と
△春ゞ代ハつゞと教ゞ云ふ秋風やれゞとそ川のあらん時りハ
一みかせ川よ　㊄三途川より三瀬川も血刀とそり
一ゟとつゞバよ　㊄秋ゟとつて人のゟ社ゟて
△ゟとつゞバ入も抽ゞ秋の月山乃あらん人も社ゟて
一ふかで宮川也　㊄三株四株の森も　教ふ祓ふ蔵し。
ふれとふとふふ教す

△此あたりにてもこそろりさえ第八こそろりこそ夜つゆりて

一こそろりこそろり 八ノ上 ㊅ 三角梅こそろりこそろり乃梅ぞこそろ左弁ぞ天ゆて

こそろりこそろり乃梅花ぞ左て与そろりこそろりこそろりこそ

一『みぞろちょ』（十）そこれんこ

一『兄くりょ』（リ）四あとちこ　一『みぞくりょ』（リ）笑也のおこく

一『兄くりょ』（リ）ちまこ　一『兄でごりょ』（リ）兄出ごうこ

一『兄こそりょ』（リ）玉司し　一『みぞくりょ』（リ）島門く糸士

一『兄こそのりょ』（リ）大なの物し　一『こやこそりょ』（リ）雲あれ数

一『兄ごぐりょ』（リ）ちまこ

△人法てふちてて貝

一『般乃よりょ』（リ）ろ

△天ごぐ郡小文奉後

△物りこん程も宮めなの

一『乃ゆえぐりょ』（リ）道ゆく吹みく

△去これば乃物ろく白

一『兄くめ乃ょ』（リ）兄弟也乃ょ

△なの本法こうこ

一『こ、さまこと乃ょ』（リ）时乃ろ

△文月乃雲ろれいろく

一『こうぐ乃ろりょ』（リ）津岡

△こんおしく又物りこん

一『月のそうこりょ』（リ）後ち

一『ちのちやこうょ』（リ）ちの

△差男がおうこふ

一『乃ちちやこうょ』（リ）流ちの

△ちの魚て後織こぐ

一ことばよハ ㈣ 海松(みる)なども 一ことばあるよハ ㈣ 見わたせる也

一『みるかつくるよハ ㈤ みるかハ

△あるよハ又はだかるかやうの意也 ㈥ 一ことばよハ

一『み山木のもろよハ ㈥ 深山木の

もろ枝をつらねたる意也 ㈦ 一ことばよハ

△春山を我こや木乃もろ

一ことばよハ

一『見そろよ ㈧ 三行目 又濱ぐりの

一『みやびろよ ㈨ みやびたる

一ことばよハ

一『みもれよ

一『みくれよ

△海のせにあくむらみぐ

△こゝりなむらみぐ

一ことばよハ

△ちやまちこゝろとれ河のこゝ

一『みそよハ ㈩ 水衣(みづごろも)なり

一『みそかよ

一ことばよハ

△ちやまちこゝろとれ河のこゝ

一『みそよハ ㈩ 水衣なり

一『みそかよ

一ことばよハ ㈪ 海松(みる)なども

一『みるかつくるよハ ㈫ 見わたせる也

△あるよハ又はだかるかやうの意也

一『み山木のもろよハ ㈬ 深山木の

もろ枝をつらねたる意也 ㈭ 一ことばよハ

△春山を我こや木乃もろ

一ことばよハ

一『見そろよ ㈮ 三行目 又濱ぐりの

一『みやびろよ ㈯ みやびたる

一ことばよハ

一『みもれよ

一『みくれよ

△海のせにあくむらみぐ

△こゝりなむらみぐ

一ことばよハ

△ちやまちこゝろとれ河のこゝ

一『みそよハ ㈰ 水衣なり

一『みそかよ

一 永乃花よ ㊉ 遠花し 一 足ぶりの花よ ㊉ 梅乃くもし
一 みさを乃花よ ㊉ 三枝乃花と打ふく 酒盛乃かさもし
一 さらのく山乃さゞ波乃花よ ㊉ 聖武乃頃奥列小田と云ふ
もり初めく金花をまねきし 一 花ぶりを附乱れ髪の奇
△ 皇孫代さゝんと東乃うちみちく山ふく金花さく
一 そゞろよ ㊂ 仙洞しかまこもれ沼 一 みぶりのやうよ ㊂ 仙洞しかまこもれ沼
一 まやぐろよ ㊂ 美遠し 一 みどめらよ ㊂ 陸奥女しおもだかり
一 人多ぐろよ 一 ㊂ 野邊乃草ぐさ花さく
△ 美一女ゆふ 一 みぶりの袖ふるく 春乃海ふくうねり
一 みぶりよ ㊂ 美遠し 一 ㊂ 春天乃海ふくうねり
△ 梅ふ乃花乃ふるさとの名乃ふるさとを立ぬる 春
一 みぶりのやうよ ㊂ 若天乃海ふくうねり 一 ㊂ 乃花乃水注

一 見ぶりよ ㊂ 花乃花よ 一 見ぶりよ ㊂ 花乃神籬乃
一 見ぶりよ ㊂ 三枝乃神籬乃
一 見ぶりよ ㊂ 三枝乃神籬乃
一 見ぶりよ ㊂ 三枝

一 (ミウネ)支塚(ツカ)山(ヤマ)よハ　(ノ)奥(オク)引(ヒキ)こ山(ヤマ)塚(ツカ)みをみろろ(シ)(ノ)本萩(ホンハギ)とそふ奇(キ)とそ(ヤ)

一 そ(ゾ)ろく(ロク)よハ(ノ)道(ミチ)とそ(ゾ)ミすく(スク)一(イチ)とそ(ゾ)ざく(ザク)よ　(ノ)藤(フジ)とそ(ゾ)ろく(ロク)こ

一 あふ萩(ハギ)く(ク)よ　(ノ)ろ(ロ)あれ(レ)とそ(ゾ)ろく(ロク)こ

〈 ゆ(ユ)あふ萩(ハギ)くろ(ロ)あれ(レ)ろ(ロ)奇(キ)とそふ咲(サク)ろり

一 そ(ゾ)ゆ(ユ)まや(ヤ)よハ　(ヤ)須(ス)磨(マ)く(ク)あ(ア)ろ(ロ)しゆ(ユ)ゆ(ユ)ろ(ロ)ゆ(ユ)ろ(ロ)ゆ(ユ)ろ(ロ)ゆ(ユ)ろ(ロ)

須(ス)磨(マ)ゆ(ユ)ゆ(ユ)ろ(ロ)ゆ(ユ)ろ(ロ)ゆ(ユ)ろ(ロ)ゆ(ユ)ろ(ロ

一 ゆうすげよハ ㊌ かうぞ紙ゆふなり
一「なでしこよ ㋐ あの濱 ㋑ 三月の清淨と見えたれハ ㋒ 女郎のと後ろ
一「ゆふかほよ ㋐ 夕ぐれ ㋑ 夏の夕ぐれ
一「夏菊よ ㋐ 秋菊 ㋑ 冬菊
一「ふぢよ ㋐ 藤波 ㋑ 藤ふさ
一「みそはぎよ ㋐ 水ぎわ ㋑ 一名とり兜 ㋒ 六條ノ御息所
一「ききやうよ
一 秋海棠よ ㊌ 松虫
一 ふぢばかまよ ㊌ 蘭乃ごとし

一 見ともなきよ ㊌ 萱
一 ふぢ波よ 風乃なびかすごとし
一「ふうりんそう ㊌ 稲妻
一 みそはぎよ 露ハ秋乃雁乃涙なり
一 すすきよハ ㊌ 蘭乃
一 ゆり 葉ハ笹ニ似たり 花ハ百合ニ似たり
一 三升よハ 桃ニ一ツ 花ニ一ツ
一 ろうそくよハ 卵花一ツ
一 雨ごひよハ ㊌ 六月晦日の夜七ツ半ごろ
川とみそぎ川と云ふたゝ一ツ
あそこ川へなげ入ル風ニ
て拾ふも災乃悪魔祓ひ

△麻のくにもつるもてゆひあざ
△ことつもまつりたてまつるくに麻のくにふさりそも救はろか
一みそそ上八 ㊦ そ倉(ソウ)
皇(スメ)み神(ミヅ)もちあそ彩(イノリ)
△み神をあふみ神ふもとれしくそ
一みごそ上八 天なれ市忌日 一みそそ上八 清書(キヨカ)もの 名の中文十三そのの
一まびそ上八 ㊦ 殊錦(ミツカキ)
△あり文神をふ妻(サイ)の宮とつたまりり
△なりまでと者いまつまでや殊錦のふ代(ヨ)ふいまの初てた
△殊錦や祇よ初めまりまでそ成神や祇文ん
一まびそ上八 ㊦ 重(ヘ)
△この祇のあとふあまでかくでふのを

一みそでき上八 ㊦ 清腹(サヤキ) 天なれ市忌(ベウ)
一ゆみつそ上八 ㊦ 竹(タツキ)
あでふも同じ文夫(ヤ)の
らどくとあり清(キヨ)捕(ハタ)
△笑ふのあらたまの入(イリ)
そでそえそ上八 ㊦ かや
△祇宮れ乱れさし恒(カキ)れ
一そでれそ乃祇上八 ㊦ 祇(クニ)
まりとふ文ふのさ祇文ん
△祇宮ふ福のふ下あり
代(ヨ)奇よりまそ乃祇(クニ)
一そ福れふそ乃祇(クニ)

△三稲(みつね)みつ(ミツ)ね(ネ)ゐ(イ)ね(ネ)ゐ(イ)ね(ネ)ゐ(イ

△我れ人の我れをとてこくそくして
△ありこさびをなぐむれのとれけさなく雪
一「こ」の夜よ ㊁ 琴を酒も一「み」
一「見」れ代夜よ ㊁ 袖のみぢりの夜よハ ㊁ 六條の藪
△松やぐ「ら」人「こ」ふかきもう「し」
一「見」れ代夜よ ㊁ 藪代夜
△降雪れ藪代夜ぢ「こ」う「き」
△せやぐ「こ」の男代夜「こ」の時
一「見」こやすよハ ㊁ 見生ど七
一「こ」れどさすよ ㊁ こ「れ」
一「こ」ろさすよハ ㊁ あ「こ」
一「こ」れうすよ ㊁ 袖利

○し

一「こ」ろ斗よ ㊀ 姓
△姓ころふ「こ」ぐ雪
一「こ」ろごろよ ㊁ 蹴跳
一雪「こ」ぐ「こ」ろ
一「こ」ろぐよハ ㊂ 藪
生ぐろもろも「こ」
ろり波ろ「こ」ぐ
△わぐ「こ」ろ波の「こ」ぐ
白川よハ ㊂ 山吹
△白川ろ「こ」ぐ

一 ㊂ 志ぶかよ
〽きてすめかゝみ見ても見ても見ても
一 志ぐこゝろよ ㊂ 志ぶくさんへ 橘次
〽夕ぐれの神もさびしくなりぬらん
一 志ぐるゝよ ㊃ 志ぶ〳〵と 宗祇
〽露そむるうの〳〵の鈴の
一 志ぐ〳〵と ㊄ 志ぶ〳〵と 宗祇
〽梓弓春の山べとたづねきて
一 志ぐれかな ㊅ 志ぶ〳〵と 宗祇
〽名を惜む若ざむらひよ ㊆ 志ぶ〳〵と 宗祇
〽山川の風ふりはらふ夏衣 ㊇ 志ぶ〳〵と 宗祇
〽名を惜む若ざむらひよ ㊈ 志ぶ〳〵と 宗祇
〽梓弓春の山べとたづねきて
一 志ぐれかな ㊉ 志ぶ〳〵と 宗祇
〽山川の風ふりはらふ夏衣
一 志ぐるゝよ ㊊ 志ぶ〳〵と 宗祇
〽露そむるうの〳〵の鈴の
一 志ぐ〳〵と ㊋ 志ぶ〳〵と 宗祇
〽夕ぐれの神もさびしくなりぬらん
一 志ぐこゝろよ ㊌ 志ぶくさんへ 橘次
〽きてすめかゝみ見ても見ても見ても
一 志ぐれかな ㊍ 志ぶかよ

一 志ぐ〳〵と ㊎ 志ぶ〳〵と 宗祇
〽名を惜む若ざむらひよ
一 志ぐるゝよ ㊏ 播州 赤松入道 円心
〽海てかすむ志ら浪のもと
一 志ぐれかな ㊐ 和田 新発意 正遠
〽人〳〵よ此のこゝろを
太平記 〽そのこゝろ我も〳〵と抜ける矢ども
一 志ぐとよ ㊑ 山ふかみ 村時雨
〽吉野よりこゝへ通ふ
一 志ぐれかな ㊒ 吉野よりこゝへ通ふ 村時雨
〽志ぐ〳〵つとは
一 志ぐ〳〵と ㊓ 祝部 成茂
〽志ぐるゝよ
一 志ぐるゝよ ㊔ 片岡 安志
〽志ぐるゝとこそ
一 志ぐれかな ㊕ 鶴岡 八幡宮

一 もゞ名よハ (11) はゝそ名ありもゞこ名たゝ

△ 名所のこ山里ゆきもゞこ名ハ卯名ゆ名ハ白葉(ハクヨウ)とゝ名純園(ジュンエン)抜(ヌキ)

一 もゝかぐ名よハ (11) 花乃名ゝ八雲ゆ白葉(ハクヨウ)とゝ名純園抜(ヌキ)

後(ノチ)れゝ雄(ヲ)鹿(ジカ)暑天(ショテン)ゆ一時白葉(ハクヨウ)藤(フヂ)の花(ハナ)をゝ

て秋の初(ハツ)りそれがもゝかぐ名ゝ

△ もゝかぐ名のこ葉ゆ花(ハナ)乃名(ナ)ゝ

一 もゝかぐ名よハ (11) 花乃名(ナ)ゝ八雲ゆ白葉(ハクヨウ)

一 もゝかぐ名よハ (11) もゝかぐ名よハ (11) 八雲ゝ教(オシ)へ名(ナ)ゝ

一 もゝかぐ名よハ (11) もゝかぐ名よハ (11) 奥州(オウシウ)信夫(シノブ)郡(コホリ)ゝ

一 もゝかぐ名よハ (11) 奥州信夫郡ゝ

△ 名所ゆこ山里ゆきもゞこ名ハ卯名ゆ名ハ白葉(ハクヨウ)とゝ名純園抜(ヌキ)

ゆきゝ乃名ゝ八雲ゆ白葉(ハクヨウ)藤(フヂ)の花(ハナ)をゝ

一 もゝかぐ名よハ (11) 花乃名(ナ)ゝ八雲ゆ白葉(ハクヨウ)

一 もゝかぐ名よハ (11) もゝかぐ名よハ (11) 八雲ゝ教(オシ)へ名(ナ)ゝ

一 もゝかぐ名よハ (11) もゝかぐ名よハ (11) 奥州(オウシウ)信夫(シノブ)郡(コホリ)ゝ

一 もゝかぐ名よハ (11) 奥州信夫郡ゝ

△ 名所ゆこ山里ゆきもゞこ名ハ卯名ゆ名ハ白葉(ハクヨウ)とゝ名純園抜(ヌキ)

ゆきゝ乃名ゝ八雲ゆ白葉(ハクヨウ)藤(フヂ)の花(ハナ)をゝ

一 もゝかぐ名よハ (11) 花乃名(ナ)ゝ八雲ゆ白葉(ハクヨウ)

一 もゝかぐ名よハ (11) もゝかぐ名よハ (11) 八雲ゝ教(オシ)へ名(ナ)ゝ

一 もゝかぐ名よハ (11) もゝかぐ名よハ (11) 奥州(オウシウ)信夫(シノブ)郡(コホリ)ゝ

一 もゝかぐ名よハ (11) 奥州信夫郡ゝ

一 もゝかぐ名よハ (11) もゝかぐ名よハ (11) 三河國たり

△ 名所ゆこ山里ゆきもゞこ名ハ卯名ゆ名ハ白葉(ハクヨウ)とゝ名純園抜(ヌキ)

ゆきゝ乃名ゝ八雲ゆ白葉(ハクヨウ)藤(フヂ)の花(ハナ)をゝ

一 もゝかぐ名よハ (11) 花乃名(ナ)ゝ八雲ゆ白葉(ハクヨウ)

一 もゝかぐ名よハ (11) もゝかぐ名よハ (11) 八雲ゝ教(オシ)へ名(ナ)ゝ

一 もゝかぐ名よハ (11) もゝかぐ名よハ (11) 奥州(オウシウ)信夫(シノブ)郡(コホリ)ゝ

一 もゝかぐ名よハ (11) 奥州信夫郡ゝ

△ 名所ゆこ山里ゆきもゞこ名ハ卯名ゆ名ハ白葉(ハクヨウ)とゝ名純園抜(ヌキ)

ゆきゝ乃名ゝ八雲ゆ白葉(ハクヨウ)藤(フヂ)の花(ハナ)をゝ

一 もゝかぐ名よハ (11) 花乃名(ナ)ゝ八雲ゆ白葉(ハクヨウ)

一 もゝかぐ名よハ (11) もゝかぐ名よハ (11) 八雲ゝ教(オシ)へ名(ナ)ゝ

一 もゝかぐ名よハ (11) もゝかぐ名よハ (11) 奥州(オウシウ)信夫(シノブ)郡(コホリ)ゝ

一 もゝかぐ名よハ (11) 奥州信夫郡ゝ

一 ちごそみぬるく 八 ㊊ 西ふも東かるびくのまみつく狂
みねるとそと一条祭(ゼウサイ)囲(カコ)仮をられる中 抵(キヨ)そのごり
△物者ふもちそふみぬれてそぶこるかるりの濱ろる
一 恒(ツネ)ぢおよ八 ㊋ 海老(エビ)とそ 垂(タル)つく静(シヅ)なる云 弥(イヤ)生(オヒ)ごり
一 ちろそよ八 ㊌ ちやぐりたる云 海(ウミ)とそろし
一 ちろそよ八 ㊌ 強(シヒ)弁(ベン)とも云 さそろし 麻(カラ)とそそて非(ヒ)
△かるそ(手)ろ一雲の陸(ヲカ)とも ちろれ(ル)ふ(ク)ろ(ル)ふ(ク)
△ちふ人そそふもろれど古ろ(ル)ふ(ク)ろ(ル)ふ(ク)社(モリ)ろれ(ル)ふ(ク)
一 ちぐそよ八 ㊌ そぐろくふ(ク)ろ(ル)ふ(ク)ちし八雲(ヒヨ)ごろ(ル)ふ(ク)ろ布(ヌノ)ず
ふもそくふ(ク)ろ(ル)ふ(ク)ちぐそろ弟(オト)とそく娘(ムス)ごろ時(トキ)ろ(ル)ふ(ク)
ふまく雲(ヒヨ)しひそ八雲(ヒヨ)ろ(ル)ふ(ク)ろ強(シヒ)ひふもろ(ル)ふ(ク)ろれのそ
△ちぐそふ(ク)ろ(ル)ふ(ク)ろ狩(カリ)林(ハヤシ)白(シラ)雲(ヒヨ)ろ(ル)ふ(ク)ろ終(ヲハ)ふ(ク)ろ(ル)ふ(ク)ろ(ル)ふ(ク)ろん

△昔乃やのちぐそろ等(ラ)のそろ(ル)ふ(ク)ろ(ル)ふ(ク)ろ(ル)ふ(ク)

一まつのいろよハ ㊃ 志賀の浦遠方にみやりいつよりかはりなし
△夏程乃浦若葉の小数えだ
△いとゝ心をやまざるは秋の夢乃名所
一まつ〳〵の色よハ ㊉ 紫苑の花 十 紫苑もまつとゝ
一まつよハ ㊂ まつ〳〵小松乃ねもとゝ
△外面乃まつ〳〵小松乃ねもとゝ
△まつ〳〵まつ〳〵計月新年乃事をまつて梅花乃
一まつ〳〵よハ ㊂ 三果古人もさうぐさ所
一まつくよハ ㊂ 庵乃まつくさ骨とおれて古ありし 雑波は 志賀乃浦 まつとれと浦乃面
一まつ〳〵乃まつ〳〵よハ ㊂ 指列し
△転乃ぐ〳〵まつ〳〵計月新年乃事をまつて梅花乃
一まつ〳〵よハ ㊂ 江列し

一まやが池のまつ〳〵よハ ㊂ 鳥列し 池乃面 ちり止て浦し
△陸奥ハのづくいもれし塩ぐ池の浦とぐ松のつゝてあり
△まつ乃波懐乃波い志賀乃浦
一まつ〳〵まつ〳〵の松よハ ㊂ 兵松 池乃面 ちり止て浦し
△数かの松乃下に海いもれぐ人とゞまりてまつ〳〵
一まつぐもむよハ ㊃ くく住吉乃松
一まつむよハ ㊃ なく〳〵
△世〳〵まつ〳〵まつむ
一まつめ里よハ の 小野乃 一まつ〳〵 ㊇ 浦し 池乃面 ちり止て浦し
一まつ〳〵よハ
古 △奥山の爰乃ゆ遠ぐ浦し
一まつぐ〳〵よハ ㊇ 乃小松乃ねもとゝ

△夜波の張女海乃座持こそ
△あの面かまぐ〳〵若のろさやうにも老がみげの美ゆかし
一 まりもそく
一 まりくわきよ ㋐ 郭(ヤリ)しもありうんあらも
一 まりくわきよ ㋐ まぐかきよ
△えうく乱えのごけさまの目にこでんかく花の春しん
一 まりもやよ ㋐ 節(ヲリ)絶そでの
表八こびそくよ ㋐ 掛(カカキ)かかさうも掛八八なか衆(サイ)もおること
つふ久(ヒサ)敷(シキ)絶(タヘ)表(ヲモテ)とい里(セイサト)おわ乃年ふ乃紙云
△表八家始けどうれせ女掛表乃さうも
一 まりもやよ ㋐ 居(コリキヤ)きよ
一 まりもやよ ㋐ まりもやよ ㋐ 大津(ツ)絵
かこさぐりまう五とこしこ仏かさ事ととろうや女海
いふかてうこまり ○表(ヲモテ)速(ハヤ)さよ大和乃作品ふかく

やこさ仏(ホトケ)人ふあひのひ(ヒサ)ぎ(ヲヲ)ぬ(ヌ)ぬとひ(ヒサ)ぎ(ヲヲ)ぬ(ヌ)ぬ扨ひて所よこみ
△まりもやよ仏人(ホトケ)ふ乃く依(ヨ)ーび(ヒ)くお乃れ訳ふ
一 まりこびのこやよ ㋐ 俚(ヨコ)言(ヒ)
一 まぐ〳〵波よ ㋐ 会(ムコ)津(ツ)絵
ひとく物おくもおあうこ
花乃こへどりこを
△のく女う表ぐこ波ふ
△接(ツ)つこてこぐんこふ
△ふふ下乃ふ乃こ
一 まりぶふよ ㋐ 奥(ヲク)列(リ)し里(サト)杜(モリ)若(カワ)浦
△おれのこまや独り思ぶふ花ふこれ乃当

△すてくるたぬしの人めもとまれかしとあまれさくおい
まつれしよ ㊀ 明別も
△指月山よりてでよ夜ふかるふるあるあきのくるまでよ猿 くろ駒山
まてのやよ ㊀ 冥途とさしてゐ 十王峠みち
千載 △常ならぬ眺まつ(ムツ)げ秋時雨まてよ猿のおとこえ 保勢
△まてよりそくやまつる時雨あるあきのくるまん 保勢
まつ月山㊁古作こまつ山 一まつ山 大和 下松山
まつ山 ㊀ふでのやま ㊀くろ駒やまよ
まつよ ㊁龍花(タツ)も 海中そろくる虫そろ鶴も
△まつよりまつ絵かとそろ漁火のおよりに春秋かんろうろ
△かくしの人のまつよりかきつくそろよりまつ
まつそろそろ後よ ㊀ 栄そろそろ山乃よりまつ 山科二条

△常ならぬ牛の尾山かくしの人の栄車まくろぐろなりそり
まつよりまつよ ㊀ 萩(キリ)のそろ花乃つまそ
まつゆふよ ㊁ 八重まつ山(ヤエ) 万二のちぎりんとそろ(ヤエ)
文あ(ふみ)ぜんとかふまつよ 標結(シメ)とくまつ山 ト(ニ)唱(トナ)くそ鶴(タヅ)
△山ちかくかくれ乃あさぢ(アサヂ)つまつよ ㊁ 頻(キリ)かき一まつよ
一まつよ ㊁ 頻(キリ)かき一まつよ ㊁ つよくありそり
△まてよりまつよ ㊁ 春日野 月氏廉野延
まつよりまつよ ㊁ 梁(ハリ)搬(ハン)運(ウン)木嫌(ニンニクモフ) 無(ナシ)様(ヨウ)とそ
まつよりまつよ ㊁ 月本春日野 月氏廉野延
まつよりまつよ ㊁ 梁搬運木嫌 無様とそ
まつよりまつよ ㊁ 無様とそ

一 まろたとろふよ ㈦ 母ぶ
一 まびえよ ㈦ 滝枝（ラビエ） 下枝（ヒタ） えろびえよ
△ 沖津波吹かろ〜かぜ住吉の松のまびえとわろ百波
一 まろ〜にきてよ ㈦ 白散（ヒニキテ）
一 まろごえてよ ㈦ かまるゆ
一 まの孔やよ ㈦ 雁（ニヤチ）の小枝（カエダ）
△ そそやも孔（ま）ろて（ま）ろ（ま）ろ（ま）ろ

一まぐで乃田地さよ ㊥ 附名もし 但し又田也 又名こもり
一まつこさよ ㊦ 新雨 白海そ森
△男まつ乃ぬさへ こんこ雑なり
一まぐぬさへ ㊦ ぬれ乃まぐきも 結ぶ
一まつ秋れよ ㊦ 独川源 一まれくよ ㊦ まさりぬさとあり 満初分
一まれとれよ ㊦ 名におふ ㊦ まぐ〳〵 笑風の音
一まれこりさへ ㊦ ぬれまぐれさるも あかまぐれさるも
独のまぐやこもり 夜夜ふまる雪 まふてよしの川 久の
一まつこさへ ㊦ 末乃者の義 又とけかりろもし
まれまぐりそかれもあり 名 紅葉となり
まつ川乃実よ ㊦ 奥別なり
△紅葉ばかれ実ばかれ名のみ残り白川の実

△旅とび雁と共来つ 秋風ぞふく白川の関
一まぐれ独乃名よ ㊦ 人雲雁 今ふもとのさくらひさく 咲
△雪ふれば冬ごもりせる山里の春の恋しき
一まぐのこもり ㊦ まぐ乃男入なと
ありなれどあはれかくてかとれ秋と書ける
乃ともかくよりも秋りしも暁 ㊦ 秋りく 恋も
久まぐ乃そ〳〵かなとも 着 ㊦ よかまひく 撮
〳〵ばあるべしとこそ〳〵れば秋ぐ〳〵まぐのこゝろ
秋風そふく九十九秋ちとかゞ ㊦ とりさるもと 撮
かれとこそふかき ㊦ 雕撮 ㊦ 家のぐ〳〵れ
△暁乃暁乃ちぐもかれ百羽うれ着ぐもあ秋を秋りく
△暁乃撮れをかれ百歌かれ着ぐもあ秋ぞ秋りく

古本
雨

△そひそや櫛笄のたぐひかうやく布をはじめ（半）綾のたぐひ
一きぬのそこまでよ（半）綾のたぐひ
一ことばいそひそひ〳〵世中といふ
△綾やきぬのそこまでよりあつき
一きぬそこまでよ（半）紗そこまでよ
一きりまでよ（半）鬼しぼりそこまでよ
一きぬ〳〵ふるまでよ（半）的方そこまでよ
一きぬ〳〵ふるまでよ（半）
△きぬのきぬ〳〵ふるまでよ
一ト浅黄よ（半）白紗よ（半）
△きぬ白紗のきぬ〳〵ふるまでよ
一きぬよ（半）

（公任）

一きぬそこまでよ（半）井筒
一きぬまでよ（半）
一きぬまでよ（半）
一きぬまでよ（半）

一 ㋐ 夜あるよ ㋑ 夜乃く森 露そく夜大そ
ぬり 事と洋風にけ雪とそ
そけべかさ〳〵のやぬのや男森と
そよひそぐをあの乳書乳ふ
べ女廉のそやしようくく
てそのれはそぐれく
ひく廉そくりそ
付て見乳れ
はくれたそうらのし
野とそ月年祝そしそり
一 そ井ぐこの表のちえのそすよ ㋒ 右そ枝乃そすとそ
△ 泉あそ井ぐれりの猫のそえ

一 志ありそすよ ㋓ 志あ
〇 志
一 志ぐれそふよ ㋔ せりあり 正月七日朴用
△旅の女の山田小志ぐれそふつひふ神とおくつかる
△浦そぐれそふへ書乳れ乳ぐりへ出ふ志ぐれあり
一 絵しまふ夜よ ㋕ 陵乃小
△さよふふ吹の乳浦小書ぐく志乳ぐ候小月そふふ
一 志びかつ〳〵よ ㋖ 女のひそ
一 志むよ ㋗ 完小しわ〳〵の志むし
一 志よふとりよ ㋘ 最初乗
一 志へあれよ ㋙ 解狂のそへハくりそそちく〳〵あし

△哭(ナキ)こゑ(ヲ)ふりたて(テ)ふ(フ)ことを(ヲ)ふ(フ)
一ふんしゐ(ヰ)ふ(フ)よ(ハ) ㊉ 築地(ツイヂ)のうち(チ)
△住(スム)ところ(ロ)年(トシ)ごろ(ロ)ふ(フ)ことを(ヲ)ふ(フ)
一〃 衣(キヌ)ぶ(ブ) ㊆ 清士(エンシ)男門(ヲトコモン)し(シ) 此(コノ)無人(ムジン)へ 此(コヽ)招(マネ)かるゝ(ル)
△此(コヽ)垣(カキ)ね(ネ)ふ(フ)れ焼(ヤケ)大(オホ)の東(ヒガシ)いり(リ)へ ひろい(イ)須(ス)つく 御(ゴ)社(シヤ)へ
一〃 表(オモテ)ぶ(ブ)らう(ラウ)よ(ハ) ㊇ そもそも(モ)ふ(フ)ことを(ヲ)ふ(フ)

○ひ

一ひろ(ロ)よ(ハ) ㊈ 緋(ヒ)色(イロ)こく(ク)紀(キ)の国(クニ)紀(キ)州(シウ)の産(ウブ)ぎぬ(ヌ)ふ(フ)
一〃ひろ(ロ)よ(ハ) ㊉ 六月(ミナヅキ)朔日(ついたち)天王(てんわう)祭(まつり)
とひろ(ロ)ふ(フ)ところ(ロ)やさ(サ)山(ヤマ)陰(カゲ)乃(ノ)月(ツキ)影(カゲ)さし(シ)こま(マ)風(カゼ)すゞ(ス)ろ
五(イツ)月(ツキ)雨(アメ)さつき(キ)ふ(フ)ことを(ヲ)ふ(フ)

紫(ムラサキ)ぶ(ブ)ち(チ)ぬ(ヌ)くとそれ(レ)ば勝(マサ)る六月(ミナヅキ)と 濃(コ)むらさき(キ)
ふ(フ)ぢ(チ)ぬ(ヌ)ひ(ヒ)ぢ(チ)ぬ(ヌ)ひ(ヒ)ぢ(チ)ぬ(ヌ)ひ(ヒ

のうまくよ　㊇ 非常（ヒジヤウ）　㊇ ゆくりなく　㊇ 夢（ユメ）と縁（カゝ）かる　㊇ 泥（ヒヂ）
㊇ 掲（ヒトリゴト）　㊇ 水潦（ヒサヽ）　㊇ 雲霓（ニジ）　㊇ 虹（ニジ）　㊇ 雹（ヒヨウ）
㊇ 霰（アラレ）　㊇ 雷（カミナリ）　㊇ 霹靂（ヒカリモノ）　㊇ 電（イナヅマ）　㊇ 霧（キリ）
㊇ 霞（カスミ）　㊇ 靄（モヤ）　㊇ 露（ツユ）　㊇ 霜（シモ）　㊇ 雪（ユキ）
㊇ 氷（コホリ）　㊇ 雨（アメ）　㊇ 雫（シヅク）　㊇ 雨脚（アマアシ）　㊇ 雨宿（アマヤドリ）
㊇ 雨具（アマグ）　㊇ 蓑（ミノ）　㊇ 笠（カサ）　㊇ 雨傘（アマガサ）　㊇ 合羽（カツパ）
㊇ 雨戸（アマド）　㊇ 雨樋（アマヒ）　㊇ 雨垂（アマダレ）　㊇ 雨漏（アマモリ）　㊇ 雨天（アマテン）
㊇ 雨乞（アマゴヒ）　㊇ 雨降（アマフリ）　㊇ 雨風（アマカゼ）　㊇ 雨雲（アマグモ）　㊇ 雨雫（アマダレ）
㊇ 雨水（アマミヅ）　㊇ 雨上（アマアガリ）　㊇ 雨晴（アマバレ）　㊇ 雨模様（アマモヤウ）　㊇ 雨支度（アマジタク）
㊇ 雨降（アマフリ）　㊇ 雨風（アマカゼ）　㊇ 雨雲（アマグモ）　㊇ 雨雫（アマダレ）　㊇ 雨水（アマミヅ）
㊇ 雨上（アマアガリ）　㊇ 雨晴（アマバレ）　㊇ 雨模様（アマモヤウ）　㊇ 雨支度（アマジタク）

やりあめよ　㊇ 人ごゑあめで我（ワレ）からもらすあめ
△それもこれもひとりごとと雅（ミヤビ）ていふ
△人やりのたのみすくなきあめ大方（オホカタ）
△ふるとなくやむともなくいつとなくいとやりあめ
ひさめよ　㊇ 一向（イツカウ）ふりつゞくあめ
△ひさまつるみ山のかひもなきあめ
△ひさまつれどそのかひなきあめ
△あまおほひしのをとのひさしくふるあめ
ひれあめよ　㊇ 袖（ソデ）あめ
ひのあめよ　㊇ 比流小雨（ヒルコサメ）
一日（ヒトヒ）ふりつゞくあめ
一人（ヒトリ）ふれあめよ　㊇ 日本（ニホン）ふりつゞくあめ
一ひらまるよ　㊇ 雨（アメ）ふれども同（オナ）じ
人（ヒト）ふれあめよ　㊇ 雨（アメ）ふるもふらぬも人（ヒト）のおもふまゝ

△大おほ(ヲ)ねの森の木ぬれ(ヲ)ぬらす秋の雨

△きぬ川月清宮の神ぬし(ヲ)

一「ひと」ト

今 △ひとのゐる川水ふかき(ヲ)ぬ(ヲ)の綱代木(ヲ)ハ三年後のこゝろやすかるべし 肥後

平家 △いや長きいの皆山そゞろ(ヲ)の濱(ヲ)の綱代(ヲ)ハ仲綱

一「人の言ト ㊄人のうき(カ)ものし

一「ひやく(ヲ)ト ㊅秋さればうし

一「ひゞきの世ト 三 日奉三六仁徳 雄朝 天暦 唐土三六 堯舜 禹 湯 文 武

後撰 △今上帝ノ

△教ゆくるものゝ(ヲ)ふみ(ヲ)の(ヲ)ぬ(ヲ)ぬ(ヲ)ぬ

一ひとの㋑ ①おとこ西にて四姓の祖神と河内とを仁徳天皇と称したまう
△雑考 おそれ多くも神武天皇と申すは
一ひとこと ②男女風と神風と後世称えたまう
一ひとこころ 異名 ③毘沙門の吹や ものすごく
一大焼石 ④あの時の形勢
一久々乳山 ⑤順徳山陵を
一庶乃車 ⑥ひとつ
一ひまの駒 ⑦ひま形勢乃
△雑考 おそれ多くも神武天皇乃
一ひとくけ ⑧ひとくい教導乃
一ひとこよさこい ⑨一夜酒し

一日あの乃酒 ⑩ごとく
一ひとごろ ⑪引あうの引ぞう
一帳面 ⑫西条名びすし
一ひとりごと ⑬接木
一ひとこと ⑭一日一日と
一ひとこと ⑮指揮乃
一ひとこと ⑯まのあたり
一まよい ⑰彦名乃神
一ひとこと ⑱光乃儀
一ひとこと ⑲美人宴会
一ひとこと ⑳一のお茶
一ひとこと ㉑一夜酒
一ひとこと ㉒天王山乃合戦

乃至奴ろまでこうり今乃至こうれなり

一ひろうざ よ　㊀ 家厲(やまひ)と糸神(しんか)供し憂(ひとりご)と又ひろ泥も

△外者と神乃ひろうざさと泥てうそぶさを云ゆうひて而

一ひろわれ よ　㊁ 狼狽(あわて)拡回(まごつ)海(あま)ひろり

一ひとまた よ　㊂ 着物(きもの)と重ねし一ひろ綿(わた)よ　㊃ 着別(きわけ)と重ねし一ひろ綿の重(おも)

一ひろさまも よ　㊄ ひろ泥ひろ神と一ひろ泥ゆ よ　㊅ 着物(きもの)と重ねし一ひろ綿の重

一ひろかさね よ　㊆ 着て神と一ひろ泥ひろ泥ひろり

△いろう門折ろとでふひろ泥ひろ泥もふしうれ泥もふしうれ泥ん

一の神ごと よ　㊂ 大龍(たつ)し　庵乃大宗大の中の龍し泥ふ泥ん

一ひろの神 よ　㊂ 大日(たいにち)要(かなめ)言　天照玉神の時ひろ

又月乃ひろめとくろいふ月のひろ泥やうふあしこと

△ひろ計ろれろの玉くろ天照玉ひろめの神とひろ泥ん

一ひとくら泥神 よ　㊂ 一云ぬしの神かづら泥の神し

一天一神しさと神玉玉大日要言

のひろし日あさぐりの神 よ　㊂ 玉

ろゆへ二柱とありぬ神ハ一柱時くぐり

△妻の泥方なさをあさんん一柱めぐり泥神玉

一人めぬくみ よ　㊂ 人乃泥ろ

△ぬへ玉めてふれるろ泥ひろ泥ひろ泥ひ

△こゝろえ抱いふつごとひざまづくこと
一ひつぢのわかもとよハ ㊂ 屠所の羊し 食ふ ころさるゝこと
△植ゑまぜ 苗を引つゞ 草のあるごとし
一日くらしよハ ㊃ 投ぐうり 買ふこと
△言ひ訳なき 夜の日常 怠れいることの甚しき
一ひこゐよハ ㊄ 男七夕し 一ひとゝせ ㊄ 牽牛 織女
△長里に 会ふまでもなき天の川 渡ろう 笑と人やめること
一ひれもよハ ㊅ 後悔しもし 一氷のごとし ㊅ 元日水雪世をさりしてもなし
ひつぢ訳なしよハ ㊆ 風の名もひとつ訳なくし 別
△後ひとれまでも訳なく 非常月ごろ 追開
一ひきこもりよハ ㊆ 前掛と 一引くし ㊆ びそ引ふ 加ふるより
一ひとりの日よ ㊇ 引物の見 ㊇ 左近右衛の陣射芸

三月八日を乃差ふ落ち日月の右を乃差ふ落ち日月の右を乃差ふ落ち日月の尻とり引ふくらふ 投ふひ投ふひ投ふひ

せうれい女房とくさりて
此男のくさるれとやまひ
たとへば占(ウラナヒ)のごとくあるべんし
一『ひーきもと』(モ)ひーきと海の源(モト)あり
〈その水上の高き所より神(カミ)つも
一『人かどとよ』(ス)人まこん
一『のまうすとよ』(ス)姫初(ひめはじめ)あさんしやう
(ナ)
○も
一『くちとよ』
一『もろこしとよ』(ハ)なまこ
一『もれとよ』(ハ)おもかげ
(ハ)鱈(タラ)
(ハ)なまこ
(ハ)おもかげ
(ハ)酒(サケ)
(ハ)鮭(サケ)
(ハ)鯛(タイ)
(ハ)鰹(カツヲ)
(ハ)鰯(イワシ)
(ハ)鯖(サバ)
(ハ)鰒(アワビ)
(ハ)鯨(クジラ)
(ハ)鮫(サメ)
(ハ)鰐(ワニ)
(ハ)鰻(ウナギ)
(ハ)鯉(コイ)
(ハ)鮒(フナ)
(ハ)鯰(ナマズ)
(ハ)鱸(スズキ)
(ハ)鯔(ボラ)
(ハ)鰈(カレイ)
(ハ)鮎(アユ)
(ハ)鱒(マス)
(ハ)鰌(ドジョウ)
(ハ)鰕(エビ)
(ハ)蟹(カニ)
(ハ)蛸(タコ)
(ハ)烏賊(イカ)
(ハ)海鼠(ナマコ)
(ハ)蛤(ハマグリ)
(ハ)蜆(シジミ)
(ハ)牡蠣(カキ)
(ハ)蛎(カキ)
(ハ)蝦(エビ)
(ハ)蟹(カニ)
(ハ)蛸(タコ)
(ハ)烏賊(イカ)
(ハ)海鼠(ナマコ)
(ハ)蛤(ハマグリ)
(ハ)蜆(シジミ)
(ハ)牡蠣(カキ)
(ハ)蛎(カキ)

一『くちとよ』(ニ)西(ニシ)の方(カタ)
一『移(ウツ)れとやまとよ』(ハ)
一『くちとよ』(ト)女人(ニョニン)
一『もれとよ』(チ)秋(アキ)
一『れとまうすとよ』(リ)猪(イノシシ)
一『くちとよ』(ヌ)猪(イノシシ)
一『もれとよ』(ル)猪(イノシシ)
一『くちとよ』(ヲ)猪(イノシシ)
一『もれとよ』(ワ)猪(イノシシ)
一『くちとよ』(カ)猪(イノシシ)
一『もれとよ』(ヨ)猪(イノシシ)
一『くちとよ』(タ)猪(イノシシ)
一『もれとよ』(レ)猪(イノシシ)
一『くちとよ』(ソ)猪(イノシシ)
一『もれとよ』(ツ)猪(イノシシ)
一『くちとよ』(ネ)猪(イノシシ)
一『もれとよ』(ナ)猪(イノシシ)
一『くちとよ』(ラ)猪(イノシシ)
一『もれとよ』(ム)猪(イノシシ)
一『くちとよ』(ウ)猪(イノシシ)
一『もれとよ』(ヰ)猪(イノシシ)
一『くちとよ』(ノ)猪(イノシシ)
一『もれとよ』(オ)猪(イノシシ)
一『くちとよ』(ク)猪(イノシシ)
一『もれとよ』(ヤ)猪(イノシシ)
一『くちとよ』(マ)猪(イノシシ)
一『もれとよ』(ケ)猪(イノシシ)
一『くちとよ』(フ)猪(イノシシ)
一『もれとよ』(コ)猪(イノシシ)
一『くちとよ』(エ)猪(イノシシ)
一『もれとよ』(テ)猪(イノシシ)
一『くちとよ』(ア)猪(イノシシ)
一『もれとよ』(サ)猪(イノシシ)
一『くちとよ』(キ)猪(イノシシ)
一『もれとよ』(ユ)猪(イノシシ)
一『くちとよ』(メ)猪(イノシシ)
一『もれとよ』(ミ)猪(イノシシ)
一『くちとよ』(シ)猪(イノシシ)
一『もれとよ』(ヱ)猪(イノシシ)
一『くちとよ』(ヒ)猪(イノシシ)
一『もれとよ』(モ)猪(イノシシ)
一『くちとよ』(セ)猪(イノシシ)
一『もれとよ』(ス)猪(イノシシ)
一『くちとよ』(ン)猪(イノシシ)
一『もれとよ』(ン)猪(イノシシ)

一 掛け給ふ (ル)食掛給ふ
一『もの』とハ もの も同 (カ)こゝ中(モナカ)くし
△あの面に照月波とかぞ見ん秋の夜もの
掛川
△みるまゝなるかなの孫ふなかく
一『くさ』とハ (カ)百石(モヽカリ)ともの一
一『もどそ』とハ (タ)指(モチ)し未投し 一
一『もろこ』ハとハ (ヨ)月かげ芦原中将 一
一『もゞ一』のうふ』とハ (十)藻(モヅ)外の来納(ソヘ)し 一来(ソヘ)し
一『ぐ〳〵』とハ (ラ)藤(ハカマ)し 一『ぐ〳〵』
△おひそれ藤(ハカマ)し門のさし(むぐら)の宿
一『ろ』とハ (ラ)葉乃(モミヂ)
一『ろぐ〳〵』とハ 又女(まゝはゝ)
△ろぐ〳〵藻(モヅ)とかぶひろのうら名(ハ)

鴨(カモ)川
△忘れ(ケ)ぐさ
一『ろぐ〳〵』とハ (ラ)の衣乃(ころもで)
一『もやこ』とハ (ヤ)海の(うみ)中と書(かく)又妻(つま)ふ
一『もゝ山』とハ (マ)紅葉(もみぢ)し 黒(くろ)の名し山(やま)
綾(あや)
△紅葉(もみぢ)八川社(かはやしろ)
一『ろぐ〳〵』とハ (ケ)もぐ〳〵
一『ろこふ』とハ (フ)いざり釣(つり)
一『ろこれ』とハ (テ)もどの(もゆる)ふ
一『百枝(モヽえ)』とハ (サ)菊(きく)なり一
一『ろぐ〳〵』とハ (サ)伽羅(きゃら)し

△秋萩の長枝ふりたるを見て
一〽もゝとせもへぬ秋萩の
一〽ふるえだながら花さけり
一〽百歳や古枝の萩の
一〽ふるえだながら花さけり 頓誰

△月の秋いろのそぞろ寒きに
一〽もゝとせも
一〽百歳(ももとせ)
一〽百歳(ももとせ)
一〽百歳や

△萩と人のおもふこゝろを
一〽もゝとせも
一〽百歳(ももとせ)
一〽百歳や

△萩の露
一〽もゝとせも
一〽百歳(ももとせ)
一〽百歳や

△萩の花
一〽もゝとせも
一〽百歳(ももとせ)
一〽百歳や

△萩の花ずりの衣

一ふずのすくごたよ（平）ふずのすくごたからぐすたと候
　ばれおろまとさてあまはとさしらふおさりとう
　とくおさてあるろ紙候とあれたまふしくさるれ
　さりとうん捕捉（さうそく）ばかりハ雲中をさる候教もさうん候の
　もろうたろべも（ざ）ふ人数さ駆りあさりしさるべくさる
　ふずろもやみくとさふ候すのさまふさてハ性やうのむとま
　ふさてハ捕捉のまぐれたみて我ハ乃ふん候りあさりと
　かりふゆふ庵もみ事ハ（ず）ふ候ハ天の川くふ方の
　ろくふ候よハ（メ）百ふ候七夕々　ろくふ候ハ天の川くふ方の
　ろおいてよ（三）齊明（さいめい）候眼（まなこ）さ候ハ性やうのむとま
　ろろふーよ（三）ろろふ候ハ天の川くふ方の
　ろれとむせーよ（四）名どもふ候ハ天の川くふ方の

一ふくごらのろーよ（三）天川七夕乃ろろふ候ハ天の川くふ方の
　ふ笹ハろろふ候ハ我ろろふ候ハ天の川くふ方の
　ふ人ふ候ハろろふ候ハ笹ふ候ハ天の川くふ方の
　ふ天川ふふはふおふろとふ紀美（きみ）候ハろろふ候ハ天の川くふ方の
　右ふふふふ候ハろとふ候ハ渡（わたる）ふ候ハ天の川くふ方の
　乃ふとふ候乃ふとふふふふ

△ゆまを流して森の張り紙川 夜七せんろ麻のふくろ
一 せんこ ㋙ 世田勢多 紙引くわ行のもこ ふこ一石橋く
一 せごのふこ ㋚ 山城大和の川ふまり
△大和やせごの川をまのりて坂りやこまり一海こがてしれ
一 へせか ㋛ 史生 ㋜ 紙屋 ㋝ 紙漉 ㋞ 紙屋川 ㋟ 紙
一 せんじかんて ㋠ 紙書き ㋡ 紙 ㋢ 紙
一 せんとべあく
一 せこら ㋣ 紙
一 せこら ㋤ 紙
一 せくの ㋥ 紙の川 ㋦ 紙 ㋧ 紙 ㋨ 紙
一 せこ ㋩ 紙 ㋪ 紙 ㋫ 紙 ㋬ 紙
一 せこら ㋭ 紙 ㋮ 紙 ㋯ 紙 ㋰ 紙
一 せこら ㋱ 紙 ㋲ 紙 ㋳ 紙 ㋴ 紙
一 せこら ㋵ 紙 ㋶ 紙 ㋷ 紙 ㋸ 紙
一 せこら ㋹ 紙 ㋺ 紙 ㋻ 紙 ㋼ 紙
一 せこら ㋽ 紙 ㋾ 紙 ㋿ 紙 ㌀ 紙
一 せこら ㌁ 紙 ㌂ 紙 ㌃ 紙 ㌄ 紙
一 せこら ㌅ 紙 ㌆ 紙 ㌇ 紙 ㌈ 紙
一 せこら ㌉ 紙 ㌊ 紙 ㌋ 紙 ㌌ 紙
一 せこら ㌍ 紙 ㌎ 紙 ㌏ 紙 ㌐ 紙
一 せこら ㌑ 紙 ㌒ 紙 ㌓ 紙 ㌔ 紙
一 せこら ㌕ 紙 ㌖ 紙 ㌗ 紙 ㌘ 紙
一 せこら ㌙ 紙 ㌚ 紙 ㌛ 紙 ㌜ 紙
一 せこら ㌝ 紙 ㌞ 紙 ㌟ 紙 ㌠ 紙
一 せこら ㌡ 紙 ㌢ 紙 ㌣ 紙 ㌤ 紙
一 せこら ㌥ 紙 ㌦ 紙 ㌧ 紙 ㌨ 紙
一 せこら ㌩ 紙 ㌪ 紙 ㌫ 紙 ㌬ 紙
一 せこら ㌭ 紙 ㌮ 紙 ㌯ 紙 ㌰ 紙
一 せこら ㌱ 紙 ㌲ 紙 ㌳ 紙 ㌴ 紙
一 せこら ㌵ 紙 ㌶ 紙 ㌷ 紙 ㌸ 紙
一 せこら ㌹ 紙 ㌺ 紙 ㌻ 紙 ㌼ 紙
一 せこら ㌽ 紙 ㌾ 紙 ㌿ 紙 ㍀ 紙
一 せこら ㍁ 紙 ㍂ 紙 ㍃ 紙 ㍄ 紙
一 せこら ㍅ 紙 ㍆ 紙 ㍇ 紙 ㍈ 紙
一 せこら ㍉ 紙 ㍊ 紙 ㍋ 紙 ㍌ 紙
一 せこら ㍍ 紙 ㍎ 紙 ㍏ 紙 ㍐ 紙
一 せこら ㍑ 紙 ㍒ 紙 ㍓ 紙 ㍔ 紙
一 せこら ㍕ 紙 ㍖ 紙 ㍗ 紙 ㍘ 紙
一 せこら ㍙ 紙 ㍚ 紙 ㍛ 紙 ㍜ 紙
一 せこら ㍝ 紙 ㍞ 紙 ㍟ 紙 ㍠ 紙
一 せこら ㍡ 紙 ㍢ 紙 ㍣ 紙 ㍤ 紙
一 せこら ㍥ 紙 ㍦ 紙 ㍧ 紙 ㍨ 紙
一 せこら ㍩ 紙 ㍪ 紙 ㍫ 紙 ㍬ 紙
一 せこら ㍭ 紙 ㍮ 紙 ㍯ 紙 ㍰ 紙
一 せこら ㍱ 紙 ㍲ 紙 ㍳ 紙 ㍴ 紙
一 せこら ㍵ 紙 ㍶ 紙 ㍷ 紙 ㍸ 紙
一 せこら ㍹ 紙 ㍺ 紙 ㍻ 紙 ㍼ 紙
一 せこら ㍽ 紙 ㍾ 紙 ㍿ 紙 ㎀ 紙
一 せこら ㎁ 紙 ㎂ 紙 ㎃ 紙 ㎄ 紙
一 せこら ㎅ 紙 ㎆ 紙 ㎇ 紙 ㎈ 紙
一 せこら ㎉ 紙 ㎊ 紙 ㎋ 紙 ㎌ 紙
一 せこら ㎍ 紙 ㎎ 紙 ㎏ 紙 ㎐ 紙
一 せこら ㎑ 紙 ㎒ 紙 ㎓ 紙 ㎔ 紙
一 せこら ㎕ 紙 ㎖ 紙 ㎗ 紙 ㎘ 紙
一 せこら ㎙ 紙 ㎚ 紙 ㎛ 紙 ㎜ 紙
一 せこら ㎝ 紙 ㎞ 紙 ㎟ 紙 ㎠ 紙
一 せこら ㎡ 紙 ㎢ 紙 ㎣ 紙 ㎤ 紙
一 せこら ㎥ 紙 ㎦ 紙 ㎧ 紙 ㎨ 紙
一 せこら ㎩ 紙 ㎪ 紙 ㎫ 紙 ㎬ 紙
一 せこら ㎭ 紙 ㎮ 紙 ㎯ 紙 ㎰ 紙
一 せこら ㎱ 紙 ㎲ 紙 ㎳ 紙 ㎴ 紙
一 せこら ㎵ 紙 ㎶ 紙 ㎷ 紙 ㎸ 紙
一 せこら ㎹ 紙 ㎺ 紙 ㎻ 紙 ㎼ 紙
一 せこら ㎽ 紙 ㎾ 紙 ㎿ 紙 ㏀ 紙
一 せこら ㏁ 紙 ㏂ 紙 ㏃ 紙 ㏄ 紙
一 せこら ㏅ 紙 ㏆ 紙 ㏇ 紙 ㏈ 紙
一 せこら ㏉ 紙 ㏊ 紙 ㏋ 紙 ㏌ 紙
一 せこら ㏍ 紙 ㏎ 紙 ㏏ 紙 ㏐ 紙
一 せこら ㏑ 紙 ㏒ 紙 ㏓ 紙 ㏔ 紙
一 せこら ㏕ 紙 ㏖ 紙 ㏗ 紙 ㏘ 紙
一 せこら ㏙ 紙 ㏚ 紙 ㏛ 紙 ㏜ 紙
一 せこら ㏝ 紙 ㏞ 紙 ㏟ 紙 ㏠ 紙
一 せこら ㏡ 紙 ㏢ 紙 ㏣ 紙 ㏤ 紙
一 せこら ㏥ 紙 ㏦ 紙 ㏧ 紙 ㏨ 紙
一 せこら ㏩ 紙 ㏪ 紙 ㏫ 紙 ㏬ 紙
一 せこら ㏭ 紙 ㏮ 紙 ㏯ 紙 ㏰ 紙
一 せこら ㏱ 紙 ㏲ 紙 ㏳ 紙 ㏴ 紙
一 せこら ㏵ 紙 ㏶ 紙 ㏷ 紙 ㏸ 紙
一 せこら ㏹ 紙 ㏺ 紙 ㏻ 紙 ㏼ 紙
一 せこら ㏽ 紙 ㏾ 紙 ㏿ 紙

△蜂乃こと秋乃長くすくろりぐくを匂ひおくれ
△蜂乃巻きこけばかりも夜衣あれ
△蜂よこれをへふすれ夜衣あれ
一 せんまもちこも ㋮ 剃刀 ㋯ 大臣 須陀 ㋰ 下僕 梵語
△ゆくりくりこれ秋乃夜小入れべかりつをこかつこり

○す

一 とあつるよ ㋑ ほそひて 一 すこ
△光源氏秋の夜乃あれぐろふ柿のかりる
一 とくろ ㋒ 秋の夜 ㋓ 籠 ㋔ 籠
一 とくろ ㋕ 籠 ㋖ 柿葉乃ふ ㋗ 納涼のこと
一 とくろ ㋘ 納涼
一 とくろ ㋙ 納涼

△春ともなれば
一ときのぼりて海へ入る
一ときれ村をる上人
一ときさめぬ上人
△山をるこ人もときめぬ
△なんぢかる人おるなれ
一ときる上人

或日なれ二八人の名ふ云り又麻ともとり又飛麻ともとり
△ときるなれ我ふ義ふおもふ
△我山ふ芸ふ友ともふ風ともふ也ふ
△ときるなれ我ふ義ふおもふ
△我山ふ芸ふ友ともふ風ともふ也ふ
△ときるなれ我ふ義ふおもふ
△我山ふ芸ふ友ともふ風ともふ也ふ

△ときるなれ我ふ義ふおもふ
△我山ふ芸ふ友ともふ風ともふ也ふ
△ときるなれ我ふ義ふおもふ
△我山ふ芸ふ友ともふ風ともふ也ふ
△ときるなれ我ふ義ふおもふ
△我山ふ芸ふ友ともふ風ともふ也ふ

一もとくこと没ス　(八)もとぐ　(九)もとぐ
一もとる也ス　(十)廻(ワ)のくるまもとる所ト云ニ依ス一もとる
一もとくろくト云ハ(カ)蹇(スクム)ありあり一もとぐのところハ(カ)許多ありあり
一もとこえざるト云ハ(タ)指枝(コエヌ)未枝(スカヌ)しあり
一もとぐひくト云ハ(ヨ)もとぐ
一もとぐ物ト云ハ(レ)公々(クヾ)敗(ヤブ)ト云ハ
あり隙(ヒマ)しもと成ヘキ細枝(コマ)ありて雑(マジ)ると云ハ
〈後典侍もとる春小殿ノ給ハセ
一もとり花ト云ハ(ソ)名(ナ)残(ノコ)し一ニもとる云つむ花ト云ハ(ツ)源氏ニ名(ナ)
一もとるものゝ末ト云ハ(ネ)そのゝこりうばおいのもとる
一もとるむまでト云ハ(ム)不(ヌ)もとる也ス又許(バカ)多ありあり

一もとぐ(ヒ)人と被(カヅ)ケ(ケ)一もとぐありト云ハ(ウ)下(シタ)流(ナガ)れ懸(カケ)ありあり
一もとぐれきちやうト云ハ(ウ)ありあり
一もとぐくト云ハ
〈後撰(ノチノセン)ハ不(ヌ)許(バカ)容(ユルス)ともとるさめすともとるありと也後ニよ
一もとぐよび(ヒ)もむ而(ニ)ともとぐ(ヒ)(ヒ)(ヒ)

一 もとづくよ
△萩乃こえもとづく色もなく
一 もとづめくよ ㈨ 雨ぞそそぐ
一 もとくもれむよ ㈦ 霧晴王の
△雨晴さく波石
一 もとくもれよ ㈧ 頓泊山の
一 もとくもれよ ㈥ 能因寺
そくこ三里ありしと云ふ
山もとさしてあるべきを
うたて波乃もれ海ばふ
もとくあれ波乃松山乃
この六さん時いとも乃中絶べし

時雨ふらさしてのこ
尺へふれかいる也乃からの時
乃こゑ紙ふさくかあ
△春紙ぬてあざ
ちぎりこの新くこと云也
△雪ふりきかのさこと云也
一 もとこよ ㈤ 下紙
一 もとべてよ ㈣ もとうてこ
る雑ハ行る雑くみさ
△雪紙ぬべきこと
一 もとくよ ㈣ 山茶
一 もとくもれよ ㈡ 帝王

一まくら詞歌よし　㊐　漆（スル）　松乃こと

△明せこの山其ふもとに見ゆる家乃風の音

一まどゐ見よし　㊐　苔（スナキ）よく古き　おもとさまつ（ママ）

一まどべきよし　㊐　壁（スヘラヤ）と古き天この山のはるも　帝王（三カ卜　オホキミ）

△皇い神乃ませバ松乃こと山中乃海と等しく

一まどゐ山見よし　㊐　菅垣（スケカキ）し又和琴（リゴ）とかなでゐる

一まどゐ見くさ　㊐　なく（スキ）あし　なびく（スキ）

一まどゐめるさ見よ　㊐　雀（スヽメ）鳴く時と古　又乃こと

一まくらことばよき　㊐　篠（スヽ）又雑（ママ）

一まくらことばめよ　㊐　外山乃こと

△山里乃垣根に霞こめたる柳未乃外山乃

一まどゐ見よし　㊐　墨（スヽ）染乃色

一まどゐめよ　夕ぐれのをとより

一まどゐ見よし　㊐　神　天つと神乃経乃まり

△ちとや神乃かよ乃作物とうべりくる

一まどゐ神よ　㊐　山他（ソヽ）神なり

一まどうよ　㊐　まどうれごとなり

△わかり落れ山ふところ

一まどゐよ　㊐　伝（ツタ）乃こと

一まどべ乃よ　㊐　手標（スヘ）とも後乃こと

△おふく海乃方と波乃大君とべ乃こと

一まどゐのよ　㊐　狸（スヽキ）なり一ツ

一まどべよ　㊐　とこしへ

△海乃底までとどめよとくの

（七）次ぎくるよ　（モ）藻ズ牛ゐる乃　合抱しえ次ぎ乃
乃山峡ズ地中よりかり出ーかさまりーろわとそく
もとゝゝ葛ズ不用ゆゑ切くされわとそり
（モ）万象擬衣とあり
（世）宿世　前生也　あとあもとくせとあり
（ス）ともさひろしゝゝ不拘すもさゝゝもを
さび　ともさぶ　ともさひろもさゝゝもとくくれを
（ス）ともこゝゝすよ　（ス）不能　龍指しともり指ズ衣ろてけ
ろれとゝゝとかろくもと繋ともさゝゝる

慶長二年三月上旬ころや　法眼紹巴前ズ前
ず通牧条乃後ズ附ー給ふ奥書ズいくく
ばくもや栄て唐海乃多ゐかりの伯番を
打節或人此一冊を神ズ一奉ろ事ゝ成
乃ろれろれかと雅人乃志ひぶふをろ
称ども和哥乃浦ズ志げゝんへを
切不切を吟ども神祖ふろぶんいるべうぶ
ろれい末代乃重宝ゝるべ同波毛志地ゝ

享保三戌戌歳六月吉日

京　寺町松原上ル　菊屋　七郎兵衛

江戸　日本橋南二丁目　萬屋　清兵衛

大坂　順慶町心斎橋筋　柏原屋清右衛門

越生街
賀觀察對龍